



# 言葉と体験を重視した学校づくり

— 多摩地区の伝統・文化を生かして —



平成27年2月

東京都多摩教育事務所

# 抄 録

「言葉と体験を重視した学校づくり」のポイントは、言葉と体験の相互作用を促進させることにある。その際、カリキュラムについては「学校の特色化の一層の推進」、組織運営では「協働体制の強化」をねらいとする取組を充実させることが重要である。

本研究では、多摩地区全ての自治体の伝統・文化を生かした実践研究を行い、その内容を分析・考察した結果、次のことが明らかになった。

## I 言葉と体験の相互作用

言葉は体験を豊かにし、体験は言葉を豊かにする。言語活動と体験活動とは、互いの定着を補い合う関係にあるため、学校は言葉と体験との相互作用を促進させ、児童・生徒の学習の質を高めるとともに、豊かな心を育んでいくことが重要である。言葉と体験には、次のような作用がある。

### 1 言葉が体験に及ぼす作用 <認識、共有>

- ◆ 認識… 言葉による認識は、体験の質を高める。認識は、体験を単に「なすこと」に終わらせることなく、その過程において「考える」、「感じる」、「想像する」、「表す」といった行為を生む。
- ◆ 共有… 体験による気づきや発見、驚きや喜びなどを言葉を介して交流させることは、新たな体験を生むことにつながる。

### 2 体験が言葉に及ぼす作用 <的確・多様、実感>

- ◆ 的確・多様… 見る、聞く、味わう、体で感じるといった体験により、言葉による表現は、よりの確になったり多様になったりする。
- ◆ 実感… 体験を通して自ら実感したことは、言葉によるより確かな理解・表現につながる。

## II カリキュラム — 学校の特色化の一層の推進 —

- 地域に根差した伝統や文化を取り入れた教育活動を学校経営計画に位置付け、地域の賛同を得ながら長期の見通しをもって推進する。
- 体験的な学習活動を通して育てたい資質や能力の定着を図るため、児童・生徒が、伝統や文化の背景や価値について考え、実生活にどう生かしていくかを判断し、自分の言葉で表現し学び合う学習活動を工夫する。
- 各教科等において関わりのある指導内容について、有機的な関連を図って学習を深める。そのため、相互に関わりのある指導内容について合科的・関連的な指導を行うとともに、道德の時間との関連を重視し、育てたい資質や能力がより発展的・調和的に身に付くようにする。

## III 組織運営 — 協働体制の強化 —

- 特色ある教育活動に全教師が主体的に携わるよう、体験活動の価値を共通に理解した上で、教職員間ではもとより地域の研究者や専門家などと連携し、協働する体制を確立する。そのため、学校は「チーム」としての対応力を強化する。
- 学校が「チーム」として対応するためには、目標共有、役割分担、調整・統合の三つが不可欠である。それぞれの機能を高めることが、多摩地区の伝統・文化を生かした教育活動の充実につながる。
- 地域の教育資源や学習環境をより一層活用する。そのため、伝統や文化に関する教育内容を教育課程に位置付け、専門的な知識・技能をもった地域の人々を校内研修に招いたり、教師が地域に出向いて調査研究等を行ったりする。
- 伝統や文化を、学校教育の中で計画的に取り扱い、特色化の柱とする。そのことにより、学校・地域双方にとってメリットのある真の連携を実現させる。

# 目

# 次

◆ 基本的な考え方 .....	1
I 研究の趣旨及び目的	
II 主題	
III 言葉と体験	
IV なぜ、「多摩地区の伝統・文化」か	
V 学校づくりの主な視点	
※ 研究構想図 .....	5
※ 多摩地区の主な伝統・文化 .....	7
※ 多摩地区の主な伝統・文化を取り上げた実践事例 .....	9
◆ 実践研究	
I カリキュラムの課題解決に向けた取組 .....	11
II 組織運営の課題解決に向けた取組 .....	12
III カリキュラムの課題解決に向けた実践事例 .....	13
IV 組織運営の課題解決に向けた実践事例 .....	33
※ 児童・生徒対象の調査結果（6月・12月） .....	53
◆ まとめ .....	55



# 基本的な考え方

## I 研究の趣旨及び目的

文部科学省によれば、平成28年度に学習指導要領の全面改訂が行われる予定である。いよいよ各学校は、現行学習指導要領の趣旨の実現に向けた取組を仕上げる時期を迎えている。

現行学習指導要領は、生涯にわたる学習の基礎を培う観点から、引き続き子供たちに「生きる力」を育むことを目指し、学習や生活の基盤づくりとしての言葉と体験を重視している。

このことを踏まえ、現在、多摩地区の公立小・中学校では、校内研究の柱に言語活動の充実を掲げ、組織的・計画的な取組を進めている。一方、体験活動については、昭和51年の教育課程審議会の答申以来、学習指導要領の改訂ごとに繰り返し述べられてきたこともあり、各教科等において様々な工夫が行われている。しかしながら、言葉と体験の関係に着目した研究については、未だ十分に行われていないのが現状である。

そこで本委員会では、児童・生徒の確かな学力及び豊かな心の育成に向けた、言葉と体験を重視した学校づくりについて、多摩地区の伝統・文化を生かした実践研究を基に提言を行う。



## II 主 題

### 言葉と体験を重視した学校づくり

— 多摩地区の伝統・文化を生かして —

## III 言葉と体験

言葉は体験に意味や秩序を与え、思考を整理して、更なる工夫改善を可能にする。一方、私たちは体験することによって言葉が表す内容を体感し、より深く理解することができる。言語活動と体験活動とは、互いの定着を補い合う関係にあり、言葉と体験との相互作用が、児童・生徒の学習の質を高めていく。

言葉と体験とが相互に及ぼす主な作用については、次のとおりである。

### 1 言葉が体験に及ぼす作用

#### (1) 認識

言葉による認識は、体験の質を高める。認識は、体験を単に「なすこと」に終わらせることなく、その過程において「考える」、「感じる」、「想像する」、「表す」といった行為を生む。言葉を発する、文字に表すなどの行為が、私たちを無自覚から自覚に向かわせ、次の体験を変容させるきっかけとなる。

#### (2) 共有

体験による気づきや発見、驚きや喜びなどを言葉を介して交流させることは、新たな体験を生むことにつながる。

認識が個人の学びであるのに対し、共有は集団における学びである。



## 2 体験が言葉に及ぼす作用

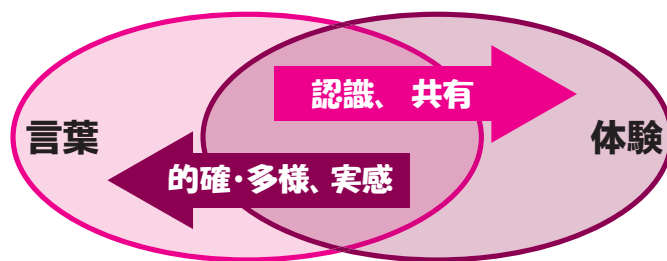
### (1) 的確・多様

見る、聞く、味わう、体で感じる、こうした体験により、言葉による表現は、よりの確になったり多様になったりする。

例えば、上級生がこまの回し方について下級生に説明するとする。この場合、上級生が自らこま回しを体験したあとで説明を行えば、回し方のコツは伝わりやすくなる。また、様々な風を体感することで、「そよそよ」、「ひゅるひゅる」、「ピープー」などといった詩的な表現が生まれる。

### (2) 実感

児童・生徒が、体験を抜きにやり取りする場合、どうしても言葉が上滑りになりがちである。体験を通して自ら実感したことは、言葉によるより確かな理解・表現につながる。



## 3 言語活動と体験活動の共通点

学校教育における言語活動と体験活動は、共に児童・生徒の学習活動として設けられている。各教科等で取り扱う両活動は、当該教科等の目標の実現に向けた手段であるという点で、軌を一にしている。

## 4 言語活動に関する課題

現在、多摩地区の公立小・中学校では、言語活動の充実について創意工夫のある授業研究が行われている。しかしながら、手段であるはずの言語活動の充実が目的になってしまい、活動が活発であればよしとする傾向が見受けられる。

## 5 体験活動に関する課題

体験活動にも、課題はある。

第一は、「活動あって学びなし」と言われるように、ややもすると児童・生徒にどのような力を付けたのか、どのような力が身に付いたのかが不明確な場合がある。

第二は、児童・生徒は同じ体験をしても、そこから学び取る内容はそれぞれ異なる。しかし、ともすると教師は、児童・生徒は同じ体験活動から同様の学習成果を得ていると捉えがちである。

第三は、体験活動は学校の教育課程の内外を問わず、多種多様な展開がなされている。しかし、多くの場合、それらの一つ一つは個別に取り扱われ、重複がみられたり調和を欠いたりする場合が少なくない。

## IV なぜ、「多摩地区の伝統・文化」か

多摩地区には、数多くの伝統・文化がある。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、そのよさを生かす教育を充実させることは、日本人としての誇りをもち、世界で活躍できる人材を育成する基盤となる。

児童・生徒が、伝統・文化に関する体験活動から感じ取ったことを、自らの感性や想像力を生かして表現し合うことは、これからの社会を生き抜く力を育むことにつながる。伝統・文化の背景や意義について考え、実生活にどう生かしていくかを判断し、自分の言葉で表現し学び合うことを通して、児童・生徒は、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などを高めていく。

なお、「伝統・文化」という表記には、意味がある。いわゆる「伝統文化」とは、我が国の長い歴史の中で、人々に受け継がれてきた華道や茶道などに代表される文化のことである。一方、「伝統・文化」は、そうした伝統文化はもとより、未来に受け継いでいきたい現代の文化をも含む。

本研究では、学校づくりを「カリキュラム」と「組織運営」から捉え、現在、小・中学校にみられる双方の課題に着目をし、多摩地区の伝統・文化を生かした解決の方策について追究する。

## 〈カリキュラムの課題〉

- 1 特色ある教育活動が年々刷新され、学校の特色化が思うように進まない。
- 2 体験活動や外部人材、施設等を活用した学習がその場限りのものになりがちで、育てたい能力や態度が十分に定着していない。
- 3 各教科等において関わりのある指導内容について、有機的な関連を図らずに取り扱っているため、学習が深まらない。

## 〈組織運営の課題〉

- 1 特色ある教育活動の推進が、一部の教師に委ねられており、全教師が主体的に携わる組織的な取組になっていない。
- 2 学校の教育活動の計画・実施に際して、地域の教育資源や学習環境が必ずしも十分に活用されていない。
- 3 学校から地域への働き掛けが、一方的なものになりがちで、継続・発展した取組になりにくい。

## V 学校づくりの主な視点

### 1 言葉と体験の相互作用の促進 ― 体験活動を生かした、問題解決的な学習の充実 ―

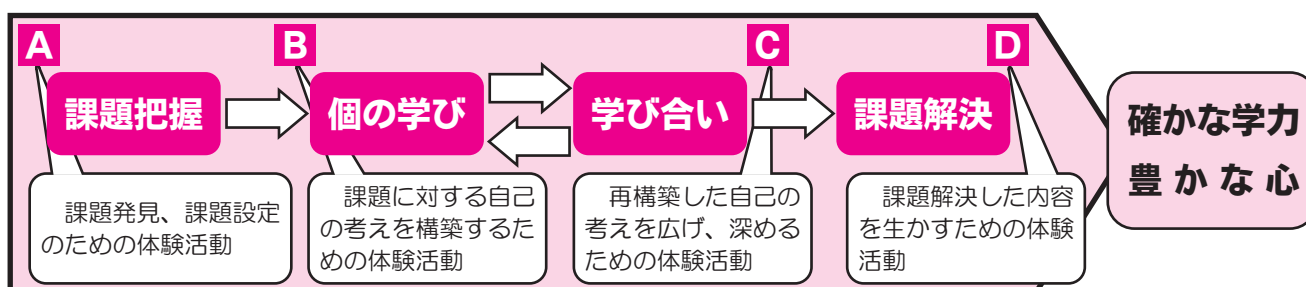
言葉は体験を豊かにし、体験は言葉を豊かにする。言語活動と体験活動とは、互いの定着を補い合う関係にあるため、学校は言葉と体験との相互作用を促進させ、児童・生徒の学習の質を高めるとともに、豊かな心（郷土の伝統や文化を大切に作る心、郷土を愛する心、優れた伝統の継承及び新しい文化の創造に貢献しようとする心など）を育んでいく。

児童・生徒の学習の質を高めるためには、児童・生徒の体験活動を生かした問題解決的な学習を充実させ、確かな学力の定着を図ることが必要である。ここでいう確かな学力とは、平成25年6月14日に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」の中で、今後、初等中等段階で特に育むべきと規定された、次の三つの力を指す。

- 自ら課題を発見し解決する力
- 他者と協働するためのコミュニケーション能力
- 物事を多様な観点から論理的に考察する力

「物事を多様な観点から論理的に考察する力」については、平成24年度に本委員会が提言したクリティカル・シンキングを行う上で必要となる力である。クリティカル・シンキングとは、物事を多様な観点から論理的に考察することである。具体的には、児童・生徒が課題を解決する学習過程で、「他に考え方はないか。」（多面的・多角的な視点）、「筋が通って、分かりやすいか。」（論理的思考）、「本当にこれでよいか。」（メタ認知）という三つの問い掛けを、自ら発し続けることである。

こうした力を育むためには、問題解決的な学習過程において、例えば、下図A・B・C・Dの各段階に、「課題発見、課題設定のための体験活動」、「課題に対する自己の考えを構築するための体験活動」、「再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動」、「課題解決した内容を生かすための体験活動」を必要に応じて導入し、クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくりを行うことが重要である。



## 2 多摩地区の伝統・文化を生かす ―カリキュラム及び組織運営上の課題解決に向けて―

多摩地区の伝統・文化を生かした学校づくりに当たっては、前述のカリキュラムと組織運営に係る課題解決に資する視点をもつことが必要である。



### (1) カリキュラムの課題解決に向けて

- 学校の特色化を着実に進めるため、地域に根差した伝統や文化を取り入れた教育活動を経営計画に位置付け、地域の賛同を得ながら長期の見通しをもって推進する。
- 体験活動によって、育てたい資質や能力の定着を図るため、児童・生徒が、伝統や文化の背景や価値について考え、実生活にどう生かしていくかを判断し、自分の言葉で表現し学び合うことを通して、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などを育む。
- 各教科等において関わりのある指導内容について有機的な関連を図り、学習を深めるため、相互に関わりのある指導内容について、合科的・関連的な指導を行うとともに、道徳の時間との関連を重視し、育てたい資質や能力がより発展的・調和的に身に付くよう工夫する。

### (2) 組織運営の課題解決に向けて

- 特色ある教育活動に全教師が主体的に携わるよう、体験活動の価値を共通に理解する。その上で、教職員間ではもとより、地域の研究者や専門家などと連携し、それぞれが専門性を発揮して同じ目標の達成に向けて協働する体制を確立する。

そのため、学校は「チーム」としての対応力を強化することが必要である。ここでいう「チーム」とは、単なるグループとは異なる。各メンバーは、同一の目標の達成に向けて役割を分担・遂行し、それぞれの役割を調整・統合する機能を有する。

学校が「チーム」として対応するためには、次の三つが不可欠である。それぞれの機能を高めることが、多摩地区の伝統・文化を生かした教育活動の充実につながっていく。

#### ア 目標共有

目標の意義と達成に向けた見通しを共通に理解する。

#### イ 役割分担

目標達成に向けて役割を分担し、着実に遂行する。

#### ウ 調整・統合

分担した職務の進行管理に基づき、必要に応じて、各取組を調整・統合する。

- 地域の教育資源や学習環境をより一層活用するため、伝統や文化に関する教育内容を教育課程に位置付け、専門的な知識・技能をもった地域の人々を校内研修に招いたり、教師が地域に出向いて調査研究等を行ったりする。
- 学校の一方的な働き掛けに終始しがちな地域との連携を継続・発展した取組にするため、学校と地域との真の連携の実現を図る。伝統や文化を次代の児童・生徒が引継ぎ、発展させていくことは、地域の願いでもある。学校教育の中で計画的に取り扱い、特色化の柱とすることで、学校・地域双方にとってメリットのある真の連携が実現する。

このあとの実践研究では、カリキュラム面では「学校の特色化の一層の推進」を、組織運営面については「協働体制の強化」をそれぞれ指向しつつ、言葉と体験の相互作用の促進を図ることで、児童・生徒の確かな学力及び豊かな心を育んでいく。



# 言葉と体験を重視した学校づくり —多摩地区の伝統・文化を生かして—

- ◆ 言葉は体験を豊かにし、体験は言葉を豊かにする。言語活動と体験活動とは、互いの定着を補い合う関係にあるため、学校は言葉と体験との相互作用を促進させ、児童・生徒の学習の質を高めていくことが重要である。
- ◆ 本研究では、学校が、多摩地区の伝統・文化を生かした問題解決的な学習を地域と連携しながら組織的に進める中、言葉と体験の相互作用を促進させることで、現在、多くの学校が抱えているカリキュラムと組織運営上の課題を解決するとともに、確かな学力及び豊かな心を育成することをねらいとする。
- ◆ 各部会では、事例研究を通して、言葉と体験の相互作用を促進させる指導の手だてと、カリキュラム及び組織運営上の課題解決に向けた具体策について追究する。
- ◆ 研究を進めるに当たっては、6月と12月の2回、確かな学力の定着と多摩地区の伝統・文化に係る内容について、検証授業を行う学年の児童・生徒を対象とした質問紙調査を実施し、その変容を捉える。



## 言葉と体験の相互作用の促進

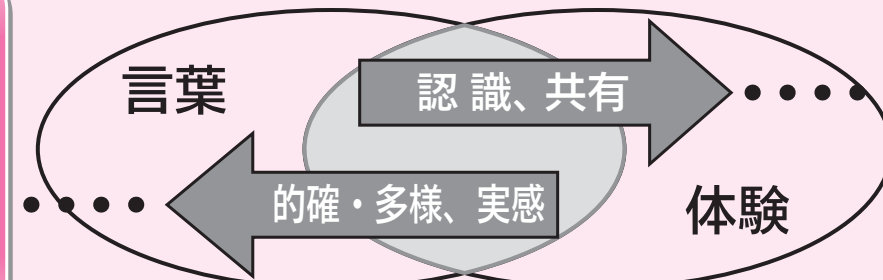
### 体験が言葉に及ぼす作用

#### 1 的確・多様

見る、聞く、味わう、体で感じる、こうした体験により、言葉による表現は、より的確になったり多様になったりする。

#### 2 実感

児童・生徒が、体験を抜きにやり取りする場合、どうしても言葉が上滑りになりがちである。体験を通して自ら実感したことは、より確かな言葉による理解・表現につながる。



### 言葉が体験に及ぼす作用

#### 1 認識

言葉による認識は、体験の質を高める。認識は、体験を単に「なすこと」に終わらせることなく、その過程において「考える」、「感じる」、「想像する」、「表す」といった行為を生む。言葉を発する、文字に表すなどの行為が、児童・生徒を無自覚から自覚へと向かわせ、次の体験を変容させるきっかけとなる。

#### 2 共有

体験による気付きや発見、驚きや喜びなどを言葉を介して交流させることは、児童・生徒が新たな体験を生むことにつながる。認識が個人の学びであるのに対し、共有は集団における学び合いである。

## 学校づくりの主な課題

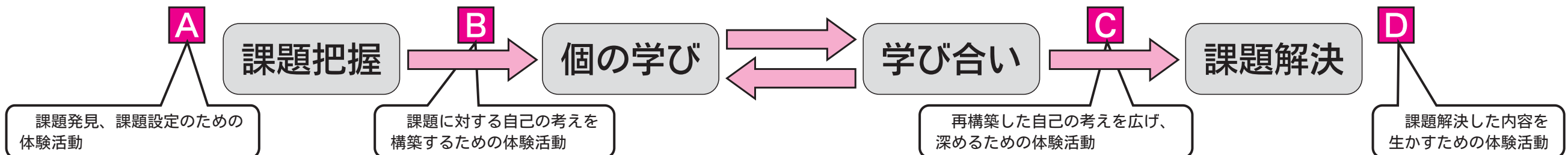
### カリキュラム

- 1 特色ある教育活動が年々刷新され、学校の特色化が思うように進まない。
- 2 体験活動や外部人材、施設等を活用した学習がその場限りのものになりがちで、育てたい能力や態度が十分に定着しない。
- 3 各教科等において関わりのある指導内容について、有機的な関連を図らずに取り扱っているため、学習が深まらない。

### 組織運営

- 1 特色ある教育活動の推進が、一部の教師に委ねられており、全教師が主体的に携わる組織的な取組になっていない。
- 2 学校の教育活動の計画・実施に際して、地域の教育資源や学習環境が必ずしも十分に活用されていない。
- 3 学校から地域への動き掛けが、一方的なものになりがちで、継続・発展した取組になりにくい。

## 多摩地区の伝統・文化を生かした問題解決的な学習の充実



### カリキュラムに係る課題解決の視点

- 1 地域に根差した伝統や文化を取り入れた教育活動を学校経営計画に位置付け、地域の賛同を得ながら、長期の見通しをもって推進する。
- 2 児童・生徒が、伝統や文化の背景や価値について考え、実生活にどう生かしていくかを判断し、自分の言葉で表現し学び合うことを通して、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などを育む。
- 3 相互に関わりのある指導内容について、合科的・関連的な指導を行うとともに、道徳の時間との関連を重視し、育てたい資質や能力がより発展的・調和的に身に付くようにする。

### 組織運営に係る課題解決の視点

- 1 全教師が特色ある教育活動に主体的に携わることで、体験活動の価値を共通に理解する。その上で、同じ目標の達成に向けて、協働する体制を確立する。
- 2 伝統や文化に関する教育には、地域の人々との協力が不可欠である。専門的な知識・技能をもった地域の人々を校内研修に招いたり、教師が地域で調査研究等を行ったりする。
- 3 伝統や文化を次代の児童・生徒たちが引継ぎ、発展させていくことは、地域の願いでもある。学校教育の中で計画的に取り扱い、特色化の柱にすることで、学校・地域双方にとってメリットのある真の連携が実現する。

## 確かな学力

- ◆自ら課題を発見し解決する力
- ◆他者と協働するためのコミュニケーション能力
- ◆物事を多様な観点から論理的に考察する力

## 豊かな心

- ◆郷土の伝統や文化を大切にする心
- ◆郷土を愛する心
- ◆優れた伝統の継承及び新しい文化の創造に貢献しようとする心

# 多摩地区の主な伝統・文化



多摩西部		
青梅	稲作(イ) 33・34ページ	○のらぼう菜(イ) ○獅子舞(ウ) 等
福生	和と洋の文化(ア) 30ページ	○囃子(ウ) ○ミキノクチ制作技術(ウ) 等
羽村	羽村学(ア) 39・40ページ	○玉川上水(ア) ○稲作(イ) 等
あきる野	引田囃子・引田獅子舞(ウ) 21・22ページ	○だんべえ汁(イ) ○軍道紙(ウ) 等
瑞穂	瑞穂音頭(ウ) 31ページ	○狭山茶(イ) ○囃子(ウ) 等
日の出	鳳凰の舞(ウ) 52ページ	○卒塔婆(イ) ○双盤念仏(ウ) 等
檜原	三匹獅子舞(ウ) 32ページ	○林業(ア) ○檜原太鼓(ウ) 等
奥多摩	氷川獅子舞(ウ) 41・42ページ	○森林セラピー(ア) ○ワサビ(イ) 等

多摩南部		
八王子	車人形(ウ) 13・14ページ	○八王子城(ア) ○獅子舞(ウ) 等
町田	生糸(イ) 25ページ	○囃子(ウ) ○獅子舞(ウ) 等
日野	東光寺大根(イ) 15・16ページ	○平山陸稲(イ) ○囃子(ウ) 等
多摩	学校林(ア) 37・38ページ	○多摩川(ア) ○目籠(イ) 等
稲城	里山(ア) 50ページ	○多摩川(ア) ○稲城の梨(イ) 等

多摩北部		
東村山	重松流囃子(ウ) 28ページ	○多摩湖梨(イ) ○押絵羽子板(ウ) 等
東大和	狭山茶(イ) 35・36ページ	○戦災建造物(ア) ○貯水池(ア) 等
清瀬	俳句〈石田波郷〉(ア) 17・18ページ	○獅子舞(ウ) ○囃子(ウ) 等
東久留米	柳久保小麦(イ) 49ページ	○獅子舞(ウ) ○囃子(ウ) 等
武蔵村山	村山大島紬(イ) 19・20ページ	○礼儀・作法に関する指導(ア) ○村山音頭(ウ) 等
西東京	保谷梨(イ) 51ページ	○特産キャベツ(イ) ○囃子(ウ) 等
立川	立川こまち〈東京うど〉(イ) 23ページ	○川越道緑地古民家園(イ) ○東京だるま(ウ) 等
昭島	拝島ネギ(イ) 24ページ	○囃子(ウ) ○獅子舞(ウ) 等
小金井	黄金の昔野菜(イ) 26ページ	○糸あやつり(ウ) ○囃子(ウ) 等
小平	小平市郷土かるた(ア) 27ページ	○特産ブルーベリー(イ) ○平櫛田中(ウ) 等
国分寺	史跡 武蔵国分寺跡(ア) 47ページ	○植木(イ) ○囃子(ウ) 等
国立	くにたち桜守(ア) 29ページ	○養蚕(イ) ○谷保天満宮獅子舞(ウ) 等
武蔵野	武蔵野うどん(イ) 43ページ	○囃子(ウ) ○武蔵野子ども文芸(ウ) 等
三鷹	新川囃子(ウ) 44ページ	○団子まき(ウ) ○三鷹市立アニメーション美術館(ウ) 等
府中	武蔵国府太鼓(ウ) 45ページ	○大國魂神社(ア) ○囃子(ウ) 等
調布	深大寺そば(イ) 46ページ	○深大寺だるま市(イ) ○囃子(ウ) 等
狛江	小足立囃子(ウ) 48ページ	○万葉歌碑(ア) ○むいから民家園(イ) 等

◆ 伝統・文化に係る分類の観点  
(ア) 日本人の心に関すること  
(イ) 衣食住に関すること  
(ウ) 芸能や芸術に関すること

※ 地図中に記載した伝統・文化は、このあとの実践事例で  
取り上げる内容です。



# 多摩地区の主な伝統・文化を取り上げた実践事例

市町村名	キーワード	タイトル	概要	学年	教科等	ページ番号
八王子	車人形	車人形を伝え、広げる子供たちー伝承者と共につくる創作劇ー	専門家から指導を受け、自分たちで新たな劇をつくることを通して、目標を設定し、課題の解決に向けて創造的、協同的に取り組む態度を育てる。	小6	総合的な学習の時間	13
立川	立川こまち(東京うどん)	私の町、立川市の自慢を広げようー立川こまち(東京うどん)ー	立川産東京うどんの特長についてうどん口を見学するなどして調べることを通して、農家の人々の工夫や努力を理解できるようにし、地域への誇りと愛情を育てる。	小3	社会	23
武蔵野	武蔵野うどん	武蔵野うどんを新潟へープレセカンドスクール(長期宿泊体験)で広めるー	武蔵野うどんに使われている小麦を収穫する体験活動を通して、郷土の伝統・文化を大切にすることを育む。	小3	総合的な学習の時間	43
三鷹	新川囃子	プロから学ぼう!郷土の囃子ー新川獅子を学び、地域に広めるー	保存会の人々から囃子の動きやリズムを学んだあと、教え合い、学習発表会で演舞することを通して、伝統芸能を大切にする心を育む。	小5	総合的な学習の時間	44
青梅	稲作	収穫祭でつなぐ学校と地域の輪ー郷土の農家と米作りー	米作り体験を通して発見したことなどを交流することで、郷土の米作りのために自分たちができることを考え、実行しようとする意欲や態度を育む。	小5	総合的な学習の時間	33
府中	武蔵国府太鼓	郷土の人が作った私たちの曲ー武蔵国府太鼓を地域行事で演奏ー	保存会の人々から指導を受け、学校独自の曲を地域行事等で演奏することを通して、郷土や自校を愛する心を育む。	小4~6	クラブ活動	45
昭島	拝島ネギ	幻の拝島ネギを特産物にーメニューづくりから調理・販売へー	拝島ネギを使った料理を開発し、郷土に拝島ネギのよさを広める方法を考え、実行することを通して、課題を解決する力を育成する。	小6	総合的な学習の時間	24
調布	深大寺そば	ふるさとの味を守るー深大寺そば作りー	そば作りを通して郷土に伝わる食と健康との関わりなどについて考え、よりよい生活環境づくりについて考える力を育成する。	小5	総合的な学習の時間	46
町田	生糸	郷土や日本を支えた養蚕業ー日本のシルクロードの通過点・町田ー	伝統産業である養蚕を体験し、そのよさを実感することを通して、郷土で育まれた伝統・文化に関心をもち、大切にしようとする心を育む。	小3	総合的な学習の時間	25
小金井	黄金(こがね)の昔野菜	黄金の昔野菜を使った町おこしー小金井じまんー	黄金の昔野菜の特産品にしようとしている人々の工夫や努力を調べる活動を通して、郷土を愛する心を育む。	小3	総合的な学習の時間	26
小平	小平市郷土かるた	小平のよさを、かるたで発信ー「3年小平かるた」の作成ー	自分たちが発見した小平市のよさを、「小平市郷土かるた」を参考にしながら「3年小平かるた」を作成し、言葉による表現力を育成する。	小3	国語	27
日野	東光寺大根	東光寺大根を守ろうー栽培・加工・販売を通してー	東光寺大根を育て、たくあんに加工し、販売を行う過程で、多様な人々と関わることを通して、コミュニケーション能力を育成する。	小特支	生活単元学習	15
東村山	重松(じゅうま)流囃子	「祭囃子」を地域に発信ー囃子保存会との協同ー	保存会から「祭囃子」について学び、演舞を郷土の人々に披露することを通して、郷土の伝統・文化を大切にする心を育てる。	小4	総合的な学習の時間	28
国分寺	史跡武蔵国分寺跡	史跡武蔵国分寺跡の魅力を大公開ーフィールドワークを通してー	フィールドワークを基に各自の課題を追究することを通して、よりよい町づくりに向け、課題を解決する力を育成する。	中1	総合的な学習の時間	47
国立	くにたち桜守	私たちの環境保全ーくにたち桜守活動ー	学校周辺の桜並木を保全する学習を通して、自然を大切にする心情を育み、環境問題に目を向け、自分にできることを考え、実行する力を育む。	小3	総合的な学習の時間	29
福生	和と洋の文化	わがまちの宝ー福生名所百景づくりー	地域探検を通して、福生市ならではのよさを理解したのち、市の名所百景を作成することで、郷土を愛する心を育む。	中1	総合的な学習の時間	30
狛江	小足立囃子	全学年が取り組む「生き方学習」ー小足立囃子の継承活動から生き方を学ぶー	郷土の専門家が講師となる体験活動を通して、働くことの意義や自分の生き方について考える力を育成する。	中全学年選択	総合的な学習の時間	48
東大和	狭山茶	知らせよう!「狭山茶」のよさー手もみ茶作りを通してー	農家の見学や手もみ茶作りを体験し、緑茶の健康食品としての価値を実感することを通して、郷土の文化を大切にする心を育む。	小3	総合的な学習の時間	35
清瀬	俳句〈石田波郷〉	俳句っておもしろい!みんなで目指そう、石田波郷ー全校で思いを込める「五・七・五」ー	日常体験と結び付けた俳句の創作活動を通して、季節や風情、句に込めた思いなどを思い浮かべたり、国語の美しい響きを感じ取ったりする力を育む。	小2	国語・生活	17
東久留米	柳久保小麦	自分たちで地場産小麦の栽培・加工ー柳久保小麦を使ったうどん作りー	地場産の小麦を使ったうどん作りを通して、地域に古くから伝わる食について学び、食と健康の関わりについて追究する意欲や態度を育成する。	小5	総合的な学習の時間	49
武蔵村山	村山大島紬	私たちの卒業証書カバーは、伝統工芸品ー村山大島紬ー	村山大島紬を生んだ地理的特色や歴史的背景を調べる学習や製織体験を通して、地域の特色を多面的・多角的に考察する力を育成する。	中2	社会	19
多摩	学校林	E S Dで進める学校林活用・再生プロジェクトー多摩丘陵から生活の知恵を学ぶー	学校林のよさや価値に気づき、問題点を受け止め、その解決に向けて、自分たちができることを考え、実行する力を育む。	小6	総合的な学習の時間	37
稲城	里山	稲城の里山を未来へー40年続いている地域との連携ー	里山での稲作体験に関する探究活動を通して、自分と自然の関わり方を考え、郷土を大切にしようとする態度を育てる。	小全学年	生活・総合的な学習の時間	50
羽村	羽村学	羽村の魅力を発見・発信!ー羽村学(郷土学習)ー	フィールドワークを通して自ら発見した羽村の魅力を、外国の人々に英語で発信する力を育成する。	中1	総合的な学習の時間	39
あきる野	引田囃子・引田獅子舞	踊り継がれる引田囃子・引田獅子舞ー伝統文化発表会に向けた取組ー	郷土の祭りを体験し、感じたことや考えたことなどを伝え合うことで、伝統芸能に対する自分なりの考えをもち、郷土を愛する心や誇りを育む。	小5	総合的な学習の時間	21
西東京	保谷梨	保谷梨ブランド化計画ー新作スイーツの開発・宣伝ー	保谷梨の特長を調べ、農家及び商店街の人々と交流することを通して、特産品としての価値を伝えるためにできることを考え、友達と協力して実行する力を育成する。	小6	総合的な学習の時間	51
瑞穂	瑞穂音頭	地域に広める新しい伝統ー踊り伝える瑞穂音頭ー	瑞穂音頭について調べたり、郷土の人々と演舞したりすることを通して、探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。	小3	総合的な学習の時間	31
日の出	鳳凰の舞	「鳳凰の舞」を引継ぎたい!ー江戸時代から続く重要無形民俗文化財ー	町が祭礼の準備を行う時期に演舞を体験したり、継承者にインタビューしたりすることを通して、郷土への誇りと愛情を育てる。	小3	社会	52
檜原	三匹獅子舞	自作の獅子頭で演舞ー三匹獅子舞ー	獅子博物館の館長への聞き取りや獅子頭の製作を行い、郷土の人々に演舞を披露することを通して、郷土の伝統・文化を大切にする心を育む。	小3	図画工作 総合的な学習の時間	32
奥多摩	氷川獅子舞	獅子舞保存会と創る伝統芸能ー各地区のよさを生かした学校独自の獅子舞ー	獅子舞に関する体験活動及び異年齢集団による交流を通して、郷土に誇りと愛着をもち、郷土の一員として生きていこうとする意欲や態度を育む。	小全学年	生活・総合的な学習の時間	41



## I カリキュラムの課題解決に向けた取組

### 1 学校の特色化の着実な推進

学校の特色化を着実に進めるため、校長は、地域や学校の実態及び児童・生徒の特性等を十分踏まえ、長期の展望に立った特色を学校経営計画に明記する。副校長は、目指す学校像の実現に向け、校長の指導の下、当該年度に取り組む、目標の具現化のための重点項目を示す。各分掌部会では、主幹教諭及び主任教諭のリーダーシップの下、課題を解決するための具体策と達成目標を設定し、目標の実現に向けて組織的・継続的な取組を展開するとともに、学校評価によって取組の成果と課題を明らかにする。

こうして学校の特色は、長期を見据えた学校経営計画に基づき、学校全体が組織的に運営され、確実に成果を上げ、継続・発展されることによって深まっていく。

多摩地区の伝統・文化を学校の特色として取り扱う場合にも、カリキュラムや指導方法等をPDCAサイクルに基づいて不断に見直す。伝統・文化に係る取組について評価を行い、改善案を策定して、次年度の取組に生かしていく。

### 2 文化交流の基盤となる思考力・判断力・表現力等の育成

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を踏まえ、多摩地区の伝統・文化を生かした教育を進めるに当たり、目指す児童・生徒像を次のように設定する。

- (1) 多摩地区の伝統・文化の価値を理解し、誇りに思える児童・生徒
- (2) 多摩地区の伝統・文化を世界に発信できる児童・生徒
- (3) 他の地区や国の伝統や文化を理解し尊重するとともに、互いに文化交流ができる児童・生徒

現在、多摩地区の多くの学校は、教育課程に地域の伝統・文化を取り入れ、日々の授業等で指導を行っている。しかしながら、学習者である児童・生徒が、授業で学ぶ地域の伝統・文化の価値について自分なりに考え、判断し、表現するに至っていないことが散見される。そこで、学習過程に発表や討論を取り入れ、児童・生徒が学習対象となる伝統・文化の意味や意義、実生活や自己の生き方との関わりについて考え、判断し、自らの言葉で表現し、学び合う学習活動を重視することで、文化交流の基盤となる思考力・判断力・表現力等を育成する。

### 3 各教科等の関連を図った計画的・系統的な指導の実施

イベント型の単発的な学習では、児童・生徒の理解を定着・発展させることは困難である。これまで実施してきた伝統・文化に関わる指導内容を見直し、学校としてより計画的・系統的に実施するよう教育課程上の工夫・改善を行う。

そのため、各教科等における指導内容の中から、伝統・文化に関わる事項を抽出し、各教科等の関連を明確にした年間指導計画を作成する。

このあとの各事例では、下表のように、各教科等の関連を記した年間指導計画例を掲載する。併せて、年間指導計画に基づき、計画的・系統的な指導を行うための具体的な手だてとして、関連を図るためのポイントを記述する。

例えば、総合的な学習の時間において、体験活動の後に感じたり気付いたりしたことを振り返り、発表し合う活動を行わせるため、国語科における「話すこと・聞くこと」の領域で学んだことを生かす指導の工夫について記す。

	10月	11月	12月	1月	2月
国語	「豊かな言葉の使い手になるためには」 ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。		「白鷹さんのすごさを知って、自分に生かせるところを考えよう」 ○ 「千年の釘」を読み、自分の経験や考えを重ねながら、生き方を考える。		
道徳		「郷土愛」4の(7) ○ 郷土や国を愛する心を育む。			「郷土愛」4の(7) ○ 郷土や国を愛する心を育む。
総合的な学習の時間			「郷土の祭りー発見・体験ー」 ○ 日本の祭りに関心をもつ。 ○ 伝統芸能を味わい、表現する。 ○ 伝統芸能を受け継ぎ、伝える。 ○ 郷土を愛する心をもつ。		
特別活動	学級活動(1)ウ ○ 伝統文化発表会を成功させるために高学年としてできることについて話し合う。				「伝統文化発表会」

## II 組織運営の課題解決に向けた取組

### 1 協働体制の強化

郷土や我が国の伝統・文化に係る学習を特色ある教育活動として教育課程に位置付け、着実に推進するため、「チーム」としての対応力を高め生かすことで、学校の内部はもとより、家庭・地域との連携を一層強化する。

その際、特色ある教育活動に係る指導目標の達成に向けて、既存の校務分掌が役割を分担し、企画調整会議等で各取組を調整・統合する。



### 2 郷土や我が国の伝統・文化に係る学習指導の充実に資する組織運営

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、郷土や我が国、他国の伝統・文化の理解を深め、尊重する態度の育成に向けた学習指導を教育課程に位置付ける。

#### (1) 目標共有

郷土や我が国の伝統・文化の理解を深め、郷土に対する愛着や誇りを育むため、各教科等の年間指導計画を作成し、全校で計画的・系統的な指導を行う。

#### (2) 役割分担〈教科等部会及び学年会〉

- ・教科等部会において、重点的に取り組む内容を設定する。
- ・学年会において、教科等の関連を明確にした年間指導計画案を作成する。

教科等	主な取組例	教科等	主な取組例
国 語	俳句、昔話・神話、毛筆書写 【全学年】	家 庭	和食・各国の伝統的な料理 【5・6年】
社 会	優れた文化遺産、伝統工芸 【3～6年】	体 育	日本及び各国の伝統的なスポーツ・表現活動 【5・6年】
算 数	そろばんを用いた簡単な加法及び減法の計算 【3 年】	道 徳	郷土や我が国の伝統と文化を大切にする心 【全学年】
理 科	四季の移り変わりや天気の変化 【4・5年】	特別活動	「〇〇小昔遊び集会」の企画・運営 【5・6年】
生 活	昔遊びの体験 【1・2年】	総合的な学習の時間	郷土の伝統・文化に係る学習 【3～6年】 茶道・華道の体験 【全学年】
音 楽	和楽器の演奏、各国の伝統的な音楽の鑑賞 【5・6年】	外国語活動	英語による日本の伝統・文化の紹介 【5・6年】
図画工作	墨絵の製作、各国の伝統的な美術作品の鑑賞 【5・6年】		

#### (3) 調整・統合〈企画調整会議〉

- ◆ 各教科等の年間指導計画案について、相互の関連に着目し、より系統的・発展的な指導を行えるよう、指導内容や実施時期を調整する。その際、地域の教育資源を活用するため、地域との連絡・調整を行う担当者を明確にし、その後の会議で進捗状況を報告し、実施について協議する。
- ◆ 例えば、各教科等が取り扱う指導内容や方法について、相互に関わりのあるものについては、合科的・関連的な指導計画案の策定について協議する。
- ◆ その後、定期的に指導実践の進捗状況を報告し合い、課題とその解決の方策について教科等の枠を超えて協議する。

このあとの各事例では、多摩地区の伝統・文化を生かした学校づくりを進めるに当たり、学校が「チーム」としての対応力を高め生かすことで協働体制を強化することに重点を置く。

学校及び地域の実状によって、役割分担及び調整・統合の具体は異なる。ここでは、教科等部会や学年会等、既存の組織を活用して役割を分担し、企画調整会議等で調整・統合を行う事例を掲載する。

# 車人形を伝え、広げる子供たち ― 伝承者と共に作る創作劇 ―

小学校 第6学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈伝統・文化を創造・発信する学校〉 郷土の専門家の指導を踏まえ、児童が新たな伝統・文化を創造・発信する。
	重点項目 (副校長)	○ 郷土の専門家から伝統・文化を学ぶ学習活動の充実
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 車人形発表会に向けた学び合いの充実 ○ 達成目標 児童への質問項目「紹介したい郷土のよさは、車人形である。」に対する肯定的な回答率90%以上
Do	具体策の実施	○ 車人形発表会の開催に向けた実施計画に基づく学習指導の推進
Check	学校評価	○ 総合的な学習の時間における学習実施状況の評価 ○ 学校公開日等に、学校評議員へのアンケートを実施
Action	次年度に向けた改善	○ 指導計画の見直しなど、次年度への引継ぎ事項の決定



【車人形】

江戸時代から伝わる伝統芸能で、三つの車が付いた箱形の車に腰掛け、一体の人形を一人で操る人形芝居である。人形の足が直接舞台を踏むため、力強くリズムカルな演技を行うことができるのが特長である。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「郷土の専門家から学ぶ八王子車人形」

### 2 身に付ける力

- 車人形の専門家から指導を受け、自分たちで劇をつくることを通して、目標を設定し、課題の解決に向けて創造的、協同的に取り組む態度を育てる。

### 3 教材化の視点

- 総合的な学習の時間において、郷土の人材を活用し、第3学年では「小町太鼓」、第4学年は「箏」、第5学年は「茶道・華道」、第6学年は「車人形」に関する学習に取り組む。第6学年において車人形の劇を創作する際、小町太鼓や箏を用いた音楽を流したり、飾り付けに華を生けたりするなど、児童がこれまで学習した内容を活用しながら主体的に学習を進められるようにする。
- 「八王子車人形」は、国の選択無形民俗文化財、東京都の無形文化財、八王子市の指定無形文化財に指定されている。次世代の育成という点でも、双方にメリットのある教育活動となっている。

### 4 指導上のポイント

- 年度当初、第6学年の担当教師は、昨年度の担当者と共に専門家を訪問し、車人形に対する思いを伺うとともに、基本的な動かし方等について学ぶ。このことにより、児童は、主に専門家から動かし方等について指導を受けるが、教師からも学ぶことが可能となり、休み時間や放課後を使い、自主的に練習に取り組むこともできるようになる。
- 車人形に関する学習成果を発表する場として、「車人形発表会」を設定し、保護者及び第5学年の児童に向けて、創作劇を披露する。

### 5 学習過程 (全37時間)

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	課題把握	○ 日本及び八王子市のよさについて考える。 ○ 「八王子車人形」について調べる。 車人形が守り継がれてきた背景を学び、自分たちで新たな車人形劇を作り上げよう。
4 ～ 34	個の学び 学び合い 再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	○ 専門家から車人形に対する思いを伺うとともに、車人形の基本的な動かし方等について学ぶ。 ○ 郷土の昔話を集め、演じたい話を各学級で決定して脚本づくりを行う。 ○ 人形劇の役割分担を決定したのち、劇の練習及び道具の製作を行う。 ・ 脚本、人形製作、大道具及び小道具製作、衣装製作、音響 ・ 人形操作、語り手、台詞 (※ 人形操作は全児童が担当) ○ 互いに練習を見合い、相互評価を改善に生かす。
35 ～ 37	課題解決	○ 車人形発表会で劇を披露する。(学校のホームページ等で事前に広報) ○ 学習したことを振り返り、専門家に手紙を書く。その際、各児童がこれまで学んだ伝統・文化への自らの思いを記述する。



## 6 各教科等との関連

	4月	5月	6月	9月	10月	11月	3月
国語	「声に出して伝えよう」 ○ 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。		「日本語のひびきを味わう」 ○ 親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読する。		「日本の文化を考える」 ○ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。		
社会		「今に伝わる室町文化」 ○ 室町文化が生まれたこと、今もなお多くの人々に親しまれていることを理解する。		「江戸の文化と新しい学問」 ○ 江戸の文化が新しい時代に影響を与えたことを理解する。			
図画工作	「芸術家の心にふれて」 ○ 表現したいものの感じがよく表れるように、絵の具や他の描画材料の扱いを工夫する。						
道徳				「郷土愛」4の(7) ○ 郷土や我が国の文化と伝統を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもととする心情を育てる。			
特別活動						「学習発表会」	「車人形発表会」
総合的な学習の時間	「郷土の専門家から学ぶ八王子車人形」 ○ 専門家の指導を受け、車人形についてどのように追究していくかを考える。 ○ 自分たちで脚本をつくり、人形の操作及び製作を学び、協同して劇をつくる。 ○ 車人形の価値や特長、継承していく人々の思いなどを知り、地域への誇りと愛着をもつ。						

### ◆ 国語科との関連

国語科において、親しみやすい古文を音読することで、内容を理解するとともに、古文は読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感した。

その結果、総合的な学習の時間においては、児童は、主体的に昔話を読み、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもちながら脚本づくりに取り組んだ。

## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	実 感	第4時 車人形の動かし方等を学ぶ
児童は、自作の脚本に沿って人形を操作しながら、語り手の説明や台詞の言い回しを人形の動きに即して修正していった。 人形を使って演じることで、脚本作りの段階では発想できなかった登場人物の心情等に気付き、より豊かな表現が生まれた。		
言葉が体験に及ぼす作用	認 識	第10時～34時 劇をつくる
児童は、劇の場面ごとに、情景や登場人物の気持ちの変化等を想像し、意見交流を経て人形操作や音響等を仕上げていった。 人形操作を担当する児童は、意見交流で得たイメージを生かし、従前に増して自ら工夫して演じるようになった。		



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

他地区から本校に着任した教師の大半は、車人形のことを知らない。専門家から直接指導を受け、その歴史的・文化的価値に気付く教師たちは、その魅力を児童と共有すべく、年々創意工夫を加えながら指導を続けている。教師自ら本物に学び、好きになることが、継続・発展した指導を生んでいる。

一方、児童は、車人形の理解にとどまらず、自分たちで劇を作って発表する。そのことが、主体的な学びを支えている。

劇に必要な道具や音響、衣装等を自ら製作することは、郷土の伝統・文化の価値を理解し、尊重しようとする意欲と態度を育んでいる。

## Ⅲ 考 察

当该校では、第3学年から総合的な学習の時間で伝統・文化に関する学びを系統的に進めている。各学年で学んだことが、次の学年で生きるよう、カリキュラムを工夫している。本事例では、第5学年で学んだ箏の演奏と生け花が生かされている。

元来、八王子車人形は、浄瑠璃が基本である。語りに込められた喜怒哀楽を自分なりに解釈し、人形に置き換え表現する。児童は、既存の昔話を基に、場面ごとの登場人物の心情や情景を想像し、意見交換を繰り返して劇をつくり上げていった。郷土に伝わる昔話、文化財としての車人形も、ここでは児童による新たな文化創造の源となっている。

本事例では、郷土の伝統・文化を単に理解し、継承するものとして捉えず、児童が自ら感性を働かせ、新たな文化の発信として劇づくりを行っている。そのことが、児童の思考・判断・表現をより一層活性化させ、主体的な学びを実現させている。

資料提供 八王子市教育委員会

# 東光寺大根を守ろう ― 栽培・加工・販売を通して ―

小学校 特別支援学級 生活単元学習

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈社会をたくましく生き抜く力を育む学校〉 郷土の伝統・文化を学ぶことを通して、社会をたくましく 生き抜く力を育む。
	重 点 項 目 (副校長)	○ 伝統・文化を生かした体験活動の充実
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 東光寺大根の栽培・加工・販売 ○ 達成目標 児童への質問項目「東光寺大根を地域に広め るために、友達と相談したり、協力したりすることができ た。」に対する肯定的な回答率80%以上
Do	具 体 策 の 実 施	○ 東光寺大根の栽培から販売までの実施計画に基づいた学 習活動を実施
Check	学 校 評 価	○ 学校公開の機会のみならず、保護者や地域の人々に対し て、定期的に授業を公開し、アンケートの実施
Action	次年度に向けた改善	○ 個に応じたきめ細かな指導計画の作成及び実施



【東光寺大根】

「練馬大根」の流れを受  
け継ぐ。辛みが多く、た  
くあんなどに加工されて  
いる。

収穫後の大根干しの様  
子は、日野の冬の風物詩  
ともなっている。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「東光寺大根を育て、たくあんを作って販売しよう」

### 2 身に付ける力

- 東光寺大根を育て、たくあんに加工し、販売を行う過程で、多様な人々と関わることを通してコミュニケーション能力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 東光寺大根の生産、出荷している農家は、15年前には25軒程あったが、現在は2軒である。東光寺大根の畑を学校に提供している農家によれば、「日野市の特産、名産を守っていくことを誇りに思っている。子供たちには、もっと東光寺大根のことを知ってもらいたい、何より土に触れてほしい。」とのことである。そこで、児童が農家の人々と共に活動することを通して、人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを適切に受け止め、応ずることができるようにする。

### 4 指導上のポイント

- 東光寺大根を栽培し、たくあんに加工して販売する過程で、児童一人一人に他者との関わり方の基礎を培うため、家庭及び農家の人々に協力を依頼し、定期的にきめ細かな打合せを行う。
- 栽培・加工・販売の各活動の直後に、体験を通して分かったことや気付いたことなどを伝え合う学習活動を設定する。
- 単元を通して、話を聞く態度、人々への挨拶や感謝の表し方など、望ましい習慣の形成を図り、身に付けたことが生活に生かせるようにする。

### 5 学習過程（全25時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握	○ 東光寺大根について、知っていることを話し合う。 みんなで力を合わせて東光寺大根を育て、たくあんを作り、販売しよう。
2 ～ 14	個の学び ↑ 学び合い ↓ 再構築した自己の考えを広げ、 深めるための体験活動	○ 東光寺大根を育てる。 ・ 種まき、草取り、成長の様子についての観察 等 ○ 大根の適切な抜き方について各自考えたあとで、収穫する。 ○ 東光寺大根をたくあんに加工する。 ・ 地域の人々からたくあんの作り方について教わる。 ・ たくあんを作る。
15 ～ 25	課題解決	○ 農家の人から販売の仕方や値段の決め方等について指導を受け、店開きの準備を行う。 ○ 学校公開日の機会を活用して、たくあんを販売する。 ○ これまでの学習で学んだことなどについて、保護者や地域の人に発表する。 ○ 世話になった農家の人に礼状を書き、手渡す。



## 6 各教科等との関連

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語						「手紙を書こう」 ○ 世話になった人に礼状を書く。	
算数				「計算をしよう」 ○ 数を数える。 ○ 代金やおつりの計算をする。			
図画工作				「たくあんを宣伝しよう」 ○ 宣伝ポスターの作成			
自立活動	○ 人間関係の形成    ○ コミュニケーション 集団の中で、行動の仕方や人との関わりの楽しさを体得する。 ※ 特設していないが、教育活動全体を通して指導を行っている。						
生活単元学習	「東光寺大根を育て、たくあんを作って、販売しよう」 ○ 栽培    ○ 収穫    ○ たくあん作り    ○ 販売						

### ◆ 算数科との関連

算数科における計算の学習では、たくあんを販売する活動に先駆け、個に応じた指導を実施した。例えば、販売の場面を想定し、「お客さんから『たくあんを4個ほしい。』と言われました。商品を数えてみましょう。」「1個100円のたくあんで3個買ったお客さんが500円玉で支払ったときのおつりはいくらでしょう。」といった発問を行った。

その後の生活単元学習では、算数科の学習を生かし、児童が自ら商品を数えて渡したり、代金を計算しておつりを払ったりするなどして、たくあんを販売することができた。

## 7 言葉と体験の相互作用

言葉が体験に及ぼす作用	認識	第8時 収穫の仕方を教わる
<p>児童は、大根の抜き方に関する各自の考えを発表し合ったあと、収穫を行った。真上に向けて抜いた大根の多くは、折れてしまった。</p> <p>児童は、農家の人とのやりとりを通して、どうしたら大根を折らずに抜くことができるかについて学び、大根が曲がっている方向に抜けばよいことを、再度収穫を通して体得していった。</p>		
体験が言葉に及ぼす作用	実感	第9・10時 大根の収穫を行う
<p>収穫後に、教師は児童に「みなさんが抜いたのは、どのような大根でしたか。」「大根を上手に抜くコツを教えてください。」などと問い掛けた。すると各児童は、自信をもってはっきりと、大根が曲がっている方向に抜くべきことを自らの言葉で回答していた。</p> <p>日頃、言葉で表現することが苦手な児童も、体験を基に臆せず話することができるようになった。</p>		



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

児童は、あらかじめ自分なりに考えた抜き方で大根を収穫した。予想に反して思うように抜けない児童は、その解決の視点を探るべく、農家の人と自ら進んでやりとりを行った。

どうしたら大根を傷付けずに抜くことができるかという対話の「目的意識」、専門家である農家の人とやりとりするという「相手意識」を明確にもたせたことにより、児童の自ら関わろうとする意欲が高まった。

「この大根は右に向いているから、右の方に引っ張ってみよう。」とつぶやきながら作業する子供の姿が印象に残った。

## Ⅲ 考 察

当該の特別支援学級では、生活単元学習において、郷土の伝統・文化を取り扱った学習活動を設定し、各教科等における学習活動と関連付けて経験させ、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学ばせている。

当該学級の児童は、言葉による交流が苦手である。そこで、児童が知的な好奇心や探究心をもって主体的に取り組む体験活動と交流活動とを組み合わせることで、交流の必然性をもてるよう工夫している。また、家庭及び地域に協力を依頼し、栽培・加工・販売を行う過程で、児童が多くの大人と関わりをもてるよう工夫し、幅広いコミュニケーション能力を育んでいる。

本事例では、東光寺大根の栽培から販売に至る学習過程で生じた課題の解決策について、各自で考え、発表し合う場面を多く設定した。そのことにより、人と関わろうとする意欲と態度を培っている。また、たくあんを販売する活動に先駆けて算数で行った学習を生かし、日常生活において、物の値段を調べたり、代金やおつりの計算をしたりするなど、身に付けた知識や技能を日々の生活で活用しようとする意欲と態度も育んでいる。

資料提供 日野市教育委員会

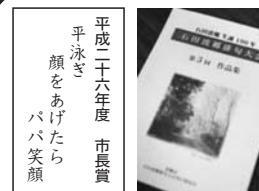


# 俳句って面白い！みんなで目指そう、石田波郷

— 全校で思いを込める「五・七・五」 —  
小学校 第2学年 国語・生活

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈言語文化を大切にする学校〉 郷土の教育資源を生かし、古典に親しむ態度と言語に関する能力を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 俳句の創作活動を通して言語能力の向上を図る校内研究の推進
	具体策と達成目標 (研究推進部)	○ 具体策 全学年で俳句の創作活動を実施 ○ 達成目標 全学級による授業研究の実施
Do	具体策の実施	○ 年間計画に基づく校内研究の推進
Check	学校評価	○ 俳句の創作及び交流活動により、児童一人一人の表現がどう変わったかを評価し、取組を検証
Action	次年度に向けた改善	○ 次年度への引継ぎ事項の決定



### 【石田波郷俳句大会】

清瀬市では、昭和の俳人であり、市内にあった国立東京療養所で療養生活を送ったことのある石田波郷氏を称え、6年前から「石田波郷俳句大会」を実施している。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「俳句に親しもう」

### 2 身に付ける力

- 身の回りの物事や体験、心の動きなどを捉えて俳句をつくり、友達と交流することで、季節や風情、歌や句に込めた思いなどを思い浮かべたり、国語の美しい響きを感じ取ったりする力を育む。

### 3 教材化の視点

- 10月に開催される石田波郷俳句大会に向け、1学期の初めに、俳句大会実行委員会から講師を招き、全学年で俳句の創作活動に取り組む。夏季休業中から2学期にかけて、校外学習及び学校行事との関連で俳句の創作活動を複数回行い、豊かな表現力を育成する。
- 運動会や遠足などの学校行事、生活科や社会科における校外学習などにおける体験を生かして繰り返し創作活動を行えるよう、年間指導計画を作成する。

### 4 指導上のポイント

- 専門家から俳句づくりの基本的な事項について指導を受けるに当たり、研究主任及び各学年の担当者が専門家と事前に打合せを行う。
- 第2学年では、生活科における体験活動を通して、児童が感じたことや気付いたことを俳句として表現できるようにする。

### 5 学習過程（全5時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握	○ 俳句について知り、石田波郷や他の俳人の作品を読み、感じたことや考えたことを伝え合う。 石田波郷さんから学び、俳句名人になろう。
2	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動 ↓ 個の学び	○ 郷土の俳句名人から、俳句のつくり方を学び、生活科における体験を基に俳句をつくる。 【俳句づくりのポイント】 ① 五、七、五のリズム ② 季語 ③ 言葉集め ・ 感じたことや感動したことについて、言葉を吟味しながら俳句をできるだけ多くつくる。
3	↓ 学び合い	○ つくった俳句を発表し合い、感想を伝え合う。 ・ どんなことを詠んだ句なのかを説明する。 ・ 互いのよいところを交流する。
4	↓	○ 夏休み中の体験を基に、俳句をつくる。 ○ 全校集会で、自分がつくった俳句について交流する。
5	課題解決	○ 学校行事や生活科における体験活動などの後に俳句を創作するとともに、学級や学年で交流を行う。



## 6 各教科等との関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国語	「大事なことを聞こう」 ○ ゲームを通して交流の仕方を学ぶ。	「俳句のつくり方を学ぼう」 ○ 専門家から俳句のつくり方を学ぶ。		「俳句の創作」 ○ 夏をテーマに俳句をつくる。		「俳句の交流」 ○ 夏休みの俳句を交流する。	「全校俳句大会」	「俳句の創作」 ○ 秋をテーマに俳句をつくる。	
生活		「町たんけん①」 ○ 施設の場所を知る。		「やさいを育てよう」 ○ 野菜を育てる。		「町たんけん②」 ○ 町の紹介をする。			
道徳						「郷土愛」4の(5) ○ 郷土や国を愛する心を育てる。			
特別活動								「運動会」「遠足」「学習発表会」	
日常的な活動				「夏休みの課題」 ○ 体験したことを俳句に表現する。				「日常的な俳句の創作」 ○ 俳句づくりに親しむ。	
地域							「石田波郷俳句大会」		

### ◆ 生活科との関連

児童が俳句の創作活動に意欲的に取り組むためには、表現したいと思う事象に出会わせることが大切である。そこで生活科において、四季やそれに伴う生活の変化、動植物の成長や自分たちの住む町に関して気付きが生じるような学習活動を行わせたのち、国語科で俳句の創作活動を行った。

## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	実 感	第2時 生活科の体験を基に俳句をつくる
<p>児童は、生活科における体験活動から感じた喜びや驚きを3・4名のグループごとに発表し合ったあと、専門家から俳句づくりの基本を学んだ。</p> <p>俳句の創作に当たり、児童は、体験を通して気付いたことを十七音で表現しようと言葉を選び、語順を入れ替えるなど、自ら表現を工夫した。</p>		
言葉が体験に及ぼす作用	共 有	第3時 交流する
<p>児童は、自分でつくった俳句とそこに込めた思いを発表し合い、互いに感想を述べ合った。</p> <p>よい俳句には自分なりの発見が盛り込まれていることを事前に専門家から学んでいた児童たちは、その後、何度も推敲を重ね、詠んだ事象を再確認しに行く児童も現れた。</p>		



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

俳句の創作を始めて間もない頃、児童は、十七音で表現することができればそれだけで満足していた。創作を続けるに従い、何度も推敲を重ね、音読してリズムや言葉の響きを確認める、余分な言葉を切り取ってより適切な言葉を付け足すなど、一語一語の言葉を吟味する姿や、言語感覚を働かせて自らの思いを表現しようとする姿が見られるようになっていった。

十七音という言葉の制約の中で、児童は、体験によって生じた自分なりの思いをより豊かに表現しようと、様々な工夫を重ねていった。

## Ⅲ 考 察

俳句は、十七音の中に、季節や風情、思いを込めて表現する日本の伝統的な言語文化の一つである。当学校では、全児童の言語能力を高めるため、郷土の専門家の指導の下、全学年で俳句の創作活動に年間を通して取り組んでいる。

十七音の中に自分の思いを表現する体験を通して、児童は、言葉のもつ響きや意味に違いがあることに気付き、一つ一つの言葉にこだわって表現するようになり、言語感覚が豊かになっていった。また、俳句に込めた思いを交流し、一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことで、自分なりの思いを俳句で表現することの楽しさを味わい、創作意欲を高めた。この意欲の高まりは、日常生活においても自分なりの発見をしたいという思いにつながっていった。

本事例のように俳句の創作活動を全校で行う際には、各教科等との関連を図り、児童が俳句で表現したいと思うような事象に出会う体験活動をより多く設定することが重要である。

資料提供 清瀬市教育委員会

# 私たちの卒業証書カバーは、伝統工芸品 — 村山大島紬 —

中学校 第2学年 社会（地理的分野）

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈自ら課題を解決する能力を育む学校〉 郷土の伝統・文化を生かした問題解決的な学習を通して、 自ら課題を解決する能力を育む。
	重 点 項 目 (副校長)	○ 郷土の伝統・文化を生かした体験活動の充実
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 村山大島紬に係る体験活動の充実 ○ 達成目標 生徒・保護者の学校評価アンケート結果授 業満足度80%以上
Do	具 体 策 の 実 施	○ 各教科等において郷土の伝統・文化を生かした授業の実施
Check	学 校 評 価	○ 郷土の伝統・文化を生かした学習活動の実施状況につ いて評価 ○ 学校評議員会で新たな郷土の取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 郷土の伝統・文化を生かした教材開発



【村山大島紬】

村山大島紬は、全ての過程が手作業で行われる、緻密な絹織物である。  
品質や丈夫さが高く評価され、東京都指定無形文化財として認められている。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「身近な地域の調査」

### 2 身に付ける力

- 村山大島紬を生んだ自然環境や歴史的背景について調べる学習及び製織体験等を通して、地域的特色を多面的・多角的に考察する力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 東京都の伝統工芸品である村山大島紬は、市内全小学校で卒業証書のカバーに使われており、生徒にとって身近である。生徒は、調査活動や織物体験を通して、地域的特色を多面的・多角的に考察するとともに、地域の変容を捉え、地域の課題や将来像について追究する。

### 4 指導上のポイント

- 村山大島紬を生んだ自然環境及び歴史的背景について、当該地区と他地区の土地利用図との比較及び村山大島紬の発展に係る年表の作成を通して理解できるようにする。また、歴史的背景を理解することで、伝統・文化としての村山大島紬の価値について考えを深めることができるようにする。
- 織物協同組合及び地域の工房で働く人々の協力を得て、郷土における伝統・文化の特色を多面的・多角的に考察できるようにする。

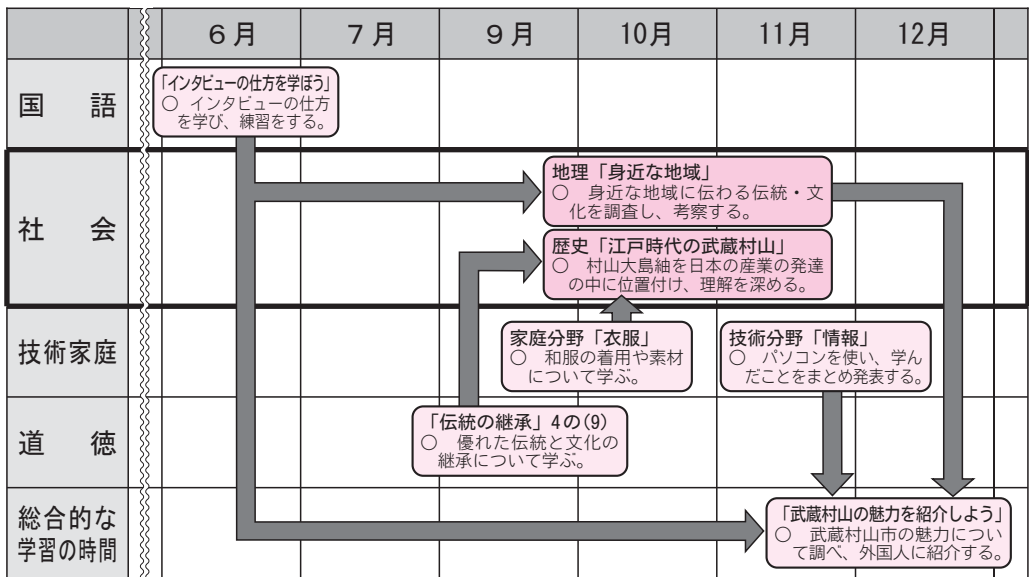
### 5 学習過程（全7時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村山大島紬が生んだ自然環境や歴史的背景について、地形図及び年表等を活用して調べ、分かったことを発表し合い、調査するテーマを決める。 村山大島紬が現代まで続いているのはなぜだろう。</li> <li>○ テーマに対して仮説を立てる。「～だから…ではないか」という形にまとめる。「桑畑が多く養蚕が盛んで交通の便がよいことから、織物が発展したのではないか。」</li> <li>○ 仮説を検証する方法について考える。</li> </ul>
2・3	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 村山大島紬の歴史を調べ、地域の発展の経過について理解する。</li> <li>○ 生産者及び販売者、地域の人々の話を聞いたり、村山大島紬の実物に触れたりする。</li> <li>○ 織物協同組合の人の指導の下、すり込捺染や製織に係る体験を行う。</li> </ul>
4・7	個の学び ↓ 学び合い ↓ 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料で調べたことや体験を通して学んだことを基に、仮説を確かめ、村山大島紬を生んだ地域的特色についてレポートにまとめる。</li> <li>○ 工房の人々の話を聞き、村山大島紬が変容を求められている一方、現在も高い価値を有し、守ろうとする動きがあることを知る。</li> <li>○ 村山大島紬が変容を求められている事実を理解した上で、現在の都市化及び国際化の視点から武蔵村山市の地域的特色を再度検証し、レポートにまとめる。</li> <li>○ 学級内でレポートを読み合い、武蔵村山市の地域的特色について、各自の考えを広げ深めるとともに、指導を受けた工房の人々にレポートを届ける。</li> </ul>





# 6 各教科等との関連



## ◆ 総合的な学習の時間との関連

総合的な学習の時間では、社会科における身近な地域に関する調査活動を行ったあと、生徒が自ら課題を設定し、武蔵村山市の魅力を外国人に紹介する学習活動を行った。

その際、社会科で学習した、武蔵村山市の自然環境や歴史的背景等を振り返らせ、各自が紹介したい武蔵村山市の魅力

がどのように生まれたか、仮説を立てさせた。その後、フィールドワーク等を行い、調査結果を踏まえて仮説を確かめ、考察することができるようにした。

# 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	実 感	第3時 製織体験を行う
<p>生徒は、製織体験において、経糸に緯糸を一本一本正確に合わせて柄が織り出される作業の細かさに注目し、「こんなに時間をかけて手作りの作業を行うから、独特の模様ができるのか。」と、感嘆の声を上げていた。</p> <p>村山大島紬が継承され発展してきた要因として、自然環境や歴史的背景とともに、産業を支える人々の工夫や努力があったことに気付いた生徒は、そのことをレポートに各自の言葉でまとめた。</p>		
言葉が体験に及ぼす作用	認 識	第5時 考察したことをレポートにまとめる
<p>仮説を検証し、その結果をレポートにまとめる過程で、生徒は、今後も村山大島紬の発展について更に追究していきたい、との思いを高めていった。</p> <p>その後、生徒は放課後等を利用して、工房の人々へのインタビューを自主的に行った。その中で生徒は、今後も村山大島紬を発展させるためには、品質管理の徹底や、時代の変化に合わせたデザインの工夫など、様々な努力が必要であることを学んだ。</p>		



## ◆ 学習の質の高まりや深まり

生徒は、自ら資料を収集して調べ、製織体験を行うことで、地域的特色を自然環境や産業の変化と関連付けて考察した。当該地域は畑や桑畑が多く、先人が発展させた織物は近代日本の発展を支えた重要な産業であったこと等が、レポートに記されていた。また、自主的にインタビュー活動を行い、村山大島紬が現在も変容を続けながら国際的に評価を受けていることを知った生徒は、卒業証書カバーの価値を再認識していた。

こうした一連の学習を通して、生徒は、郷土に対する誇りをもち、愛着を深めていった。

# Ⅲ 考 察

当該地域では、小学校の卒業証書カバー及び成人式で記念品として贈呈される印鑑ケースが村山大島紬でできている。人生の節目に郷土の伝統・文化を手にすることで、郷土への愛着を高めている。

本事例では、学習過程に専門家へのインタビュー、製織などの体験活動を設定することで、村山大島紬が今日まで継承され発展してきた理由について、地形、気候、交通、歴史など、多様な観点から考察させることができた。また、調査過程で生じた疑問について自主的に追究し、地域的特色を多面的・多角的に捉えることで、村山大島紬を継承していくためにできることを考え、郷土を大切にしようとする思いを高めていった。

当該校では、社会科における地域の学習で学んだ視点や方法を生かし、総合的な学習の時間で、郷土の魅力を調査し、その結果を生かして外国人と交流する学習活動を行っている。

資料提供 武蔵村山市教育委員会

# 踊り継がれる引田囃子・引田獅子舞 — 伝統文化発表会に向けた取組 —

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈郷土に対する愛着と誇りを育む学校〉 伝統芸能の保存会と連携した取組を通して、郷土に対する愛着と誇りを育む。
	重点項目 (副校長)	○ 郷土の伝統芸能を活用した学習活動の充実
	具体策と達成目標 (文化的行事委員会)	○ 具体策 伝統文化発表会に向けた学習活動の充実 ○ 達成目標 伝統文化発表会のアンケートにおける肯定的な評価80%以上
Do	具体策の実施	○ 伝統文化発表会の実施計画に基づく伝統芸能に係る学習活動の実施
Check	学校評価	○ 伝統文化発表会に向けた取組や年間指導計画の実施状況について評価。また、郷土の保存会の人々と共に、伝統芸能に関する新たな取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 次年度への引継ぎ事項の決定



【引田囃子・引田獅子舞】

囃子は、葛西流を継承している祭囃子で、八雲神社祭礼・引田三社祭にて演奏されている。  
獅子舞は、あきる野市無形民俗文化財で約440年前から、天下泰平、五穀豊穡等を願い、踊り継がれている。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「郷土の祭り — 発見・体験 —」

### 2 身に付ける力

- 郷土の祭りを体験し、感じたことや考えたことなどを伝え合うことで、伝統芸能に対する自分なりの考えをもち、郷土を愛する心や誇りを育む。

### 3 教材化の視点

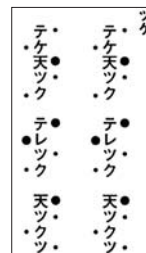
- 当该校では、低学年は囃子「にんば」のリズム、第3学年は囃子「にんば・おかめ・ひょっとこ」、第4学年は囃子「屋台・天狐」、第5学年は獅子舞「御神楽」、第6学年は獅子舞「四つ花」と計画的・系統的に学習指導を行っている。また、郷土の伝統芸能に対する自己の考えを発信する能力の育成を目指し、毎年、教育課程に伝統文化発表会を位置付けている。郷土の誇りである伝統芸能を学校の教育課程に位置付けることで、学校に対する地域の協力体制は、一層強化されている。

### 4 指導上のポイント

- 伝統芸能は口伝が基本であるため、楽譜などの資料がなく、専門家に直接指導を受けることが必要である。このため、継続した指導が難しい。そこで当该校では、郷土の保存会の協力を得て、低学年でも分かる楽譜、踊りの絵図、面の作り方、太鼓の打ち方などを記したテキストを作成した。テキストを活用・改善することで、児童が主体的に練習したり、教え合ったりすることができるようになっている。
- 上級生が下級生に教える活動を設定する。上級生は昨年度の体験を想起しながら、下級生に分かりやすい教え方を工夫させる。

### 5 学習過程 (全13時間)

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本各地の祭りについて調べたことをまとめたり、引田地区の祭りについて知っていることについて話し合ったりする。</li> <li>○ 昨年度の伝統文化発表会のビデオを視聴する。</li> </ul> <p>囃子・獅子舞が長く受け継がれてきた秘密を探り、伝統文化発表会を成功させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保存会から指導を受け、自分たちで練習計画を立てる。</li> </ul>
4 ～ 10	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動 個の学び 学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上級生から、今年度取り組む獅子舞「御神楽」を教わる。</li> <li>○ 下級生に、昨年度体験した囃子「屋台の太鼓」、「天狐の踊り」を教える。</li> </ul>
11 ～ 13	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きや隊形移動の仕方について、保存会の人々から指導を受け、継続して練習する。</li> <li>○ 保存会の人々を招き、伝統文化発表会で演舞を披露する。</li> <li>○ 学習を振り返り、保存会の人々や上級生に礼状を書く。</li> </ul>



## 6 各教科等との関連

	10月	11月	12月	1月	2月
国語	「豊かな言葉の使い手になるためには」 ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。		「白鷹さんのすごさを知って、自分に生かせることを考えよう」 ○ 「千年の釘」を読み、自分の経験や考えを重ねながら、生き方を考える。		
図画工作			太鼓の修復		
音楽	「音楽の旅」 ○ 日本の民謡や子守歌に親しみ、特徴を感じ取る。		「獅子舞・御神楽」 ○ 郷土に伝わる伝統文化の良さを感じて表現する。		
道徳	「郷土愛」4の(7) ○ 郷土や国を愛する心を育む。			「郷土愛」4の(7) ○ 郷土や国を愛する心を育む。	
総合的な学習の時間			「郷土の祭りー発見・体験ー」 ○ 日本の祭りに関心をもつ。 ○ 伝統芸能を味わい、表現する。 ○ 伝統芸能を受け継ぎ、伝える。 ○ 郷土を愛する心をもつ。		
特別活動	学級活動(1)ウ ○ 伝統文化発表会を成功させるために高学年としてできることについて話し合う。			伝統文化発表会	
地域				郷土の祭り ○ 郷土の人々と共に演舞を披露する。	

### ◆ 国語科との関連

上級生が下級生に囃子・獅子舞を教える活動を充実させるため、国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、自分と相手の考えとを比べ、共通点や相違点を見付けること、クリティカル・シンキングを働かせること（「他に考え方はないか。」「筋が通って、分かりやすいか。」「本当にこれでよいか。」）について話し合う際のポイントとして示し、話し合う内容の質の向上を図った。

総合的な学習の時間で話し合い活動を行う際には、クリティカル・シンキングを促進させる三つの内言を児童が自ら発するよう、発問や言葉掛けを工夫した。

### ◆ 道徳の時間との関連

総合的な学習の時間に先駆け、道徳の時間において郷土の発展に尽くし文化を育てた先人に学ぶことで、郷土の文化に対する愛着を培った。

## 7 言葉と体験の相互作用

### 言葉が体験に及ぼす作用 認識 第6時 上級生から演舞の仕方を教わる

5年生が6年生から演舞の仕方を学ぶ際、「獅子舞は、悪いものをやっつける姿を想像しながら、力強く踊るんだよ。」という説明を受けた。

5年生は、そのことをどう表したらよいのか演舞しながら考え、動きを工夫する姿が繰り返し見られた。



### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様 第7時 下級生に演舞の仕方を教える

5年生は練習の開始直後には、「ここは、強く打って。」などと、テキストどおりに4年生に教えていた。

その後、自己の演舞に関するこれまでの体験を想起しながら模範演技を示す過程で、「地域の人に思いを伝えたいから、友達と力を合わせて体育館いっぱいに響くように力強く打とう。」などと、自分なりの思いを込めて教えることができるようになった。



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

児童は、練習を積み重ねる中で、テキストの記述に自分の思いや願いを添えて互いに教え合うようになっていった。引田囃子・引田獅子舞に対する愛着はもとより、郷土への誇りの高まりを自覚していったことが、学習の振り返りカードの記述から明らかになった。

当该校では、他地区から異動してきた教師が保存会の練習に参加し、郷土の伝統・文化の習得に努めている。また、全学年が計画的・系統的に囃子・獅子舞の練習に取り組み、伝統文化発表会で郷土の人々に発表している。そうした学校の風土が、児童の学習意欲を高めている。

## III 考察

当该校では、教師が保存会の人々と協働して、低学年でも分かる楽譜、踊りの絵図、面のつくり方、太鼓の打ち方などを記したテキストを作成・活用することで、児童が自主的・自発的に練習に取り組むようになった。

本事例では、教育課程に伝統文化発表会を位置付け、各教科等との関連を明記した年間指導計画を作成した。特に、国語科における「話すこと・聞くこと」との関連を重視することで、児童は、前年度の体験を想起し、クリティカル・シンキングを働かせながら下級生に教えるようになり、その過程で各自の演奏・演舞への思いが次第に強くなっていった。

各学校が、本事例のような取組を継続して実施するに当たっては、教師自身が郷土の伝統・文化に興味・関心を持ち、その価値を理解することを通して、児童に指導していきたいという意識を強くもつことが肝要である。

資料提供 あきる野市教育委員会



# 私の町、立川市の自慢を広げよう ― 立川こまち（東京うど） ―

小学校 第3学年 社会

## I 目指す特色ある学校

### 〈社会貢献に必要な資質・能力を育む学校〉

郷土の伝統・文化に係る教育資源を活用し、社会に貢献できる資質・能力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「わたしたちのくらしと農家のしごと」

### 2 身に付ける力

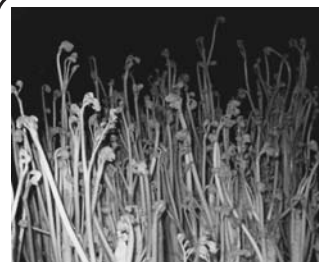
- 立川産東京うどの特長についてうどもロを見学するなどして調べ、農家の人々の工夫や努力を理解できるようにし、地域への誇りと愛情を育てる。

### 3 教材化の視点

- 立川市のウドの生産量は、東京一と言われているが、ウドについて詳しく学ぶ機会は少ない。そこで、キャベツ農家の仕事について学習した後、立川産ウドについて調べるとともに、うどもロを見学して生産者の思いを知ることを通して、市の自慢として伝えていこうとする心情を育む。

### 4 学習過程（全13時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握 ↓ 個の学び	○ 給食に使用される立川産の野菜について調べる。 給食で使用されている立川こまちが、どのようにして作られているのか、調べてみよう。
3	↓	○ ウドについて調べたいことを発表し合う。 ・生産方法、生産量、ウドを使った料理など
4	学び合い	○ 調べて疑問に思ったことをまとめる。
5・6	再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	○ ウドについて分かったことや、更に疑問に思ったことを発表し合う。
7・10	↓	○ うどもロを見学するとともに、事前に調べて疑問に思ったことについて農家の人に質問する。
11・13	課題解決	○ ウドについて調べたことやうどもロ見学等を通して分かったことを新聞にまとめる。 ○ 立川こまちの特長について話し合う。
		○ 作成した新聞をうど農家に配布し、直売所等に掲示してもらうよう依頼する。



### 【立川こまち（東京うど）】

江戸時代に生産が始まった。現在も都内各市場に出荷される。東京を代表する野菜である。独特な香りと歯ごたえがある。

うどんラーメンやうどんパイなど、様々な加工食品も考案されている。

### 言葉が体験に及ぼす作用 認 識

#### ＜ウドについて調べ、うどもロを見学する＞

児童は、ウドが日の当たらない低温の場所で育つことなど、栽培に適した環境等を調べたのちにうどもロを見学した。

事前にウドについて調べる過程で、低温の場所が適している理由を知りたいなど、新たな疑問を抱いた児童は、見学の際に、農家の人に自ら進んで質問していた。



### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様

#### ＜うどもロを見学したのち、新聞をつくる＞

児童は、うどもロに入って、ウドを見たり触ったりした。

その後、「ウドは、ひんやりした場所で育つため、茎が白く、ひょろっと長くなる。」等、ウドの成長の様子を体験を踏まえて記事にまとめた。



## III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	11月	12月	1月	2月
国 語	「新聞をつくって、伝えよう」 ○ 関心のある事柄などから話題を決め、新聞を作成する。			
社 会	「わたしたちのくらしと農家のしごと」 ○ ウドについて調べ、うどもロ見学を行う。 ○ 調べたことについて新聞を作成し、発表する。			
図画工作	「絵と言葉で表そう」 ○ 自分の思いを、絵と言葉を組み合わせて表す。			
道 徳	「伝統・文化」4の(5) ○ 郷土の伝統・文化を大切にすることを育む。			

### ◆ 図画工作科との関連

図画工作の「絵と言葉で表そう」と題する学習で、身の回りから季節を感じる事柄を探して、絵を描き、自分が感じたことについて説明を書き添え、絵葉書を作成した。

社会科において、新聞を作成するにあたっては、「地域に一番伝えたいことは何か。」と自ら問い掛けながら、記事と共に挿絵を描く活動を取り入れた。特に強調したい部分を大きく描くなど、写真では表現できない児童の思いを絵として表現することにつながった。

資料提供 立川市教育委員会

# 幻の拌島ネギを特産物に ―メニューづくりから調理・販売へ―

小学校 第6学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土の伝統・文化に学ぶ学校〉

伝統・文化を取り扱った体験活動を通して、郷土愛を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「昭島市のよさを広めよう」

### 2 身に付ける力

- 拌島ネギを使った料理を開発し、郷土に拌島ネギのよさを広める方法を考え実行することを通して、課題を解決する力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 総合的な学習の時間において、郷土の人々に関わる体験活動を通して、課題解決能力、社会参画能力などの育成を図る。当該学年では、農家の人や市役所の産業活性化室の職員との交流を通して、拌島ネギの特長などを調べ、拌島ネギを用いた料理を考案し、自分たちで調理して販売する。

### 4 学習過程（全25時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 13	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習及び生活経験を基に、下級生に紹介したい昭島市の魅力について考える。 ・拌島ネギ ・ゆでまんじゅう ・とうふ など</li> <li>○ 拌島ネギの特長や歴史を調べるとともに、インタビューを行い、農家の人の思いを知る。</li> <li>○ 拌島ネギの特長を広めるために、自分たちにできることを考える。</li> </ul>
14 ～ 16	個の学び ↓ 学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養士、保護者及び農家の人の指導・助言を受け、拌島ネギのよさを生かした料理を考える。</li> <li>○ 「市主催食育シンポジウム」で考案した料理を紹介し、市民から意見を集める。</li> </ul>
17 ～ 21	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農家の人の思い、料理を考案するまでの過程、自分たちの地域に対する思いなどについて、プレゼンテーションシートを作成する。</li> <li>○ プレゼンテーションシートを用いて、市役所や郷土の人々に説明する。</li> </ul>
22 ～ 25	課題解決した内容を 生かすための 体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拌島ネギの特長を生かした料理を作って販売し、郷土の人々からの意見を集める。</li> <li>○ 学習の成果をまとめ、5年生に伝える。</li> </ul>



【拌島ネギ】

昭和初期に水戸から種をもらい、拌島地区で栽培が始まった。  
群馬の下仁田ネギに似て白根が太く、熱を加えると甘みが増す。  
最盛期には20人ほど栽培していたが、現在は数軒が自家用に栽培するのみで、「幻のネギ」と称されている。

### 言葉が体験に及ぼす作用 認 識

#### ＜プレゼンテーションを行う＞

児童は、ネギが熱を加えると甘くなることを知り、いためたネギをソースに加えて串揚げにかけけることを考案し、その調理過程をシートに書き表した。  
この一連の学習を通して、児童はネギの特長をより深く理解し、そのよさを口頭で伝えながら料理を販売した。

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜料理を作り、販売する＞

児童は、自分たちで考案し作った料理を販売する際、「拌島ネギを初めて食べたよ。」「ネギと白玉が合っているね。」などと声を掛けられた。  
その後児童は、5年生に学習の成果を発表する際、自分たちがネギのよさを広めることができたことを喜びを込めて伝えていた。



Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けた実践事例

## Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	12月	1月	2月	3月
国 語		「町のよさを広げよう」 ○ 資料を提示しながら説明する。		
家 庭		「レシピづくり」 ○ 食への関心を高める。 ○ 栄養を考え、1食分の献立を考える。		
道 徳	「郷土愛」4の(7) ○ 郷土の伝統・文化を大切にし、郷土愛を育む。			
総合的な学習の時間	「昭島市のよさを広めよう」 ○ 昭島市の特産物を使った名物料理を考える。 ○ 自分たちで考えた名物料理を郷土に提案する。 ○ 名物料理を販売する。			

### ◆ 家庭科との関連

総合的な学習の時間で、地場産野菜を用いた料理を考案する際、家庭科における栄養を考えた食事及び調理の方法に関する学習内容を生かすよう指導した。

給食や家庭での食事に着目させ、食品の組合せや栄養のバランスに配慮した料理を考案することができた。

資料提供 昭島市教育委員会

# 地域や日本を支えた養蚕業 — 日本のシルクロードの通過点・町田 —

## 小学校 第3学年 総合的な学習の時間

### I 目指す特色ある学校

#### 〈豊かな体験を通して、学び合う学校〉

郷土の伝統・文化に係る体験活動を協同して行い、豊かな心を養う。

### II 授業づくり

#### 1 単元名 「蚕を育て、生糸を作ろう」

#### 2 身に付ける力

- 伝統産業である養蚕を体験することを通して、郷土で育まれた伝統・文化に関心を持ち、大切にしようとする心を育む。

#### 3 教材化の視点

- 町田市は、1859年の横浜港の開港から、八王子から横浜へつながる「絹の道」の通過点となり、養蚕業が盛んとなった。そのため、桑畑が多く見られ、当該校周辺には今でも桑畑が存在する。郷土に残る養蚕農家の指導の下、養蚕の体験活動を通して、郷土の伝統産業と郷土を大切にしたい気持ちを育む。

#### 4 学習過程（全20時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 4	課題把握	○ 4年生から養蚕や生糸作りの話を聞いたり、絹織物を見たりして、自己の課題を設定する。 蚕を育てて、生糸を作ってみよう。
5 ～ 14	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	○ 各自、ふ化した蚕を育てる。 ・ 桑の葉を自ら集め、蚕に与える。 ○ まゆ→さなぎ→蛾と成長する様子について観察を行う。 ・ まゆの固さや色、オス・メスの違い ○ まゆ玉を使った製作を行う。 ○ 農家の指導を受け、糸取り機を使用して糸取りを行う。
15 ～ 19	個の学び 学び合い	○ 班でポスターセッションの準備を行う。 ・ 図鑑で調べたり、自分の観察記録を確認したりして発表内容を考える。 ・ 発表の仕方や役割分担について話し合い、発表の練習を行う。
20	課題解決	○ 2年生に養蚕や生糸作りについて学んだことを発表する。

#### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

##### 〈養蚕から糸取りまでを体験する〉

児童は、自ら蚕を育て、まゆ玉を使って小物を製作するとともに、まゆから生糸を作る体験を行った。

そうした体験を通して、織物が織り上がるまでには、多くの時間と労力がかかることについて理解を深めていった。



#### 言葉が体験に及ぼす作用 共 有

##### 〈2年生への発表に向けて話し合う〉

蚕の世話や観察、まゆ玉を使った製作及び糸取りの体験を通して、自ら発見したことや感じたことを班内で交流したあと、2年生に何をどのように伝えるかについて話し合った。

話し合いを重ねる中、2年生に伝えたい内容が次第に焦点化するに従い、発表への意欲も高まっていった。

### III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	4月	5月	6月	7月	11月	12月	1月	2月
国 語	「よい聞き手になろう」 ○ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりする。					「進行を考えながら話し合う」 ○ 互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う。		
社 会		「わたしのまちはどんなまち」 ○ わたしたちの町や市を知る。				「むかしておもしろい」 ○ 昔の暮らしを調べる。 ○ 昔盛んだった産業を知る。		
理 科			「チョウを育てよう」 ○ チョウの育ち方を知る。 ○ 観察記録をとってみる。					
道 徳		「自然愛・動植物愛護」3の(2) ○ 生命を大切にする心を育む。				「伝統・文化」4の(5) ○ 郷土の伝統・文化を大切にしたい心を育む。		
総合的な学習の時間	「蚕を育て、生糸を作ろう」 ○ 蚕を育てるとともに、蚕の成長の様子を観察する。 ○ まゆ玉を使った製作をしたり、糸取りの体験を行ったりする。 ○ 2年生にポスターセッションを行い、学習の成果を発表する。							

#### ◆ 社会科との関連

社会科における、町田市の特色ある地形と土地利用、産業、昔の暮らしなどの学習から、郷土の伝統・文化に関心をもたせるとともに、郷土を支えた産業である養蚕業について学ばせた。

総合的な学習の時間において、探究的な活動を行うことで郷土の伝統産業を大切にし、発信しようとする気持ちが生まれた。

資料提供 町田市教育委員会



# こがね 黄金の昔野菜を使った町おこし ― 小金井じまん ―

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土の魅力を広く発信する学校〉

郷土の伝統・文化を理解し、その魅力を効果的に発信する力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「わたしたちの小金井じまん ～黄金の昔野菜～」

### 2 身に付ける力

- 黄金の昔野菜を特産品にしようとしている人々の工夫や努力を調べる活動を通して、課題を解決する力や郷土を大切に作る心を育む。

### 3 教材化の視点

- 当該市では、伝統大蔵大根、黄金のまくわうり、寺島なす、のらぼう菜などを生産している。現在ではどの品種も生産量が少なく、貴重な品種となっている。児童は野菜を育て、食する体験を通して、黄金の昔野菜のよさや生産に携わる人々の工夫や努力に気付く。また、黄金の昔野菜を広めるためのリーフレットを作成することを通して、郷土の一員としての自覚を育む。

### 4 学習過程（全23時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題発見、課題設定のための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土のよさを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野川 ・ はけ ・ 黄金の昔野菜</li> </ul> </li> <li>○ 「農業祭」で販売されている昔野菜とスーパーマーケットで販売されている野菜とを見比べたり、食べ比べたりして、気付いたことを話し合う。</li> </ul>
3・4	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な名称の江戸東京野菜が生産されている理由について話し合う。</li> <li>黄金の昔野菜のよさを広めるために自分たちにできることを考えよう。</li> </ul>
5・15	個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農協の人から指導を受け、黄金の昔野菜を育てる。</li> <li>○ 黄金の昔野菜の特長を資料で調べたり、栄養価について栄養士から話を聞いたりする。</li> </ul>
16・21	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 黄金の昔野菜のよさを伝えるために、リーフレットを作成する。</li> <li>○ 各自作成したリーフレットのよい点や改善点を班で話し合う。</li> <li>○ 販売所等にリーフレットを置いてもらうよう依頼し、郷土の人々に発信する。</li> </ul>
22・23	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 黄金の昔野菜のよさを広めるために、自分たちにできることを話し合う。</li> </ul>

### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様

#### 〈野菜の昔と今を比較する〉

黄金の昔野菜と現在の野菜とを見比べたり、食べ比べたりする体験を通して気付いたことを、友達と話し合った。

形状等の違いを指摘する児童、そのわけを述べる児童、自分の生活経験と関連付けて発言する児童など、多様な見方や考え方をする児童の姿が見られた。



### 言葉が体験に及ぼす作用 共有

#### 〈リーフレットを作成する〉

黄金の昔野菜の特長を伝えるリーフレットを作成して、友達と読み合ったのち、広めていきたい野菜のすばらしさについて意見交換を行った。

こうした一連の学習を経て、児童は、自分たちの学びの成果を郷土の人々に早く伝えたいという思いを高めていった。

Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けた実践事例

## Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	9月	10月	11月	12月
国語			「調べたことを整理して書こう」 ○ 知りたいことについて調べ、調べたことを整理して文章に書く。	
社会		「農家のしごと」 ○ 農家の仕事と自分たちの生活とが関わっていることが分かる。 ○ 農家の工夫や努力が分かる。		
道徳	「尊敬・感謝」2の(4) ○ 生活を支えている人々や高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもつ。	「勤労」4の(2) ○ 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。		「郷土愛」4の(5) ○ 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。
総合的な学習の時間		「わたしたちの小金井じまん」 ○ 郷土で生産されている黄金の昔野菜について調べる。 ○ 黄金の昔野菜を育てる。 ○ 黄金の昔野菜のよさを伝えるリーフレットを作成する。		

### ◆ 道徳との関連

道徳の時間において、生活を支えている人への尊敬・感謝について学んだのちに、社会科及び総合的な学習の時間で、農家や農協の職員の指導の下、野菜を育て、食する体験活動を行った。

体験活動を通して、道徳的価値について児童が内面的な自覚を図ることができるようにした。

資料提供 小金井市教育委員会

# 小平のよさを、かるたで発信 —「3年小平かるた」—

小学校 第3学年 国語

## I 目指す特色ある学校

### 〈言語能力を高め生かす学校〉

郷土かるたなど、郷土の言語文化を生かした学習指導を充実させ、児童の言語能力を高める。

## II 授業づくり

### 1 単元名

『3年小平かるた』を作ろう

### 2 身に付ける力

- 自分たちが発見した小平市のよさについて、「小平市郷土かるた」を参考にしながら「3年小平かるた」を作成し、言葉による表現力を育成する。

### 3 教材化の視点

- かるたに関する説明的な文章を読んだ後、「小平市郷土かるた」を参考にし、「3年小平かるた」を作成する学習活動を設定する。かるたを作成するに当たり、児童は、「いろはかるた」、「百人一首」、「小平市郷土かるた」など、様々なかるた遊びを体験する。また、社会科で学習した郷土の特色を参考にしながら、自ら発見した小平市のよさを盛り込んだかるたを作成できるようにする。

### 4 学習過程（全7時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題発見 課題設定のための体験活動  課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「いろはかるた」、「百人一首」などを体験し、ことわざや慣用語の表現のよさを実感する。</li> <li>○ 「小平市郷土かるた」を体験し、社会科等で学んだ郷土の特色を振り返る。</li> </ul> <p>小平市のよさを2年生に紹介するため、「3年小平かるた」をつくろう。</p>
3・6	個の学び ↓ 学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「3年小平かるた」を作成する。</li> <li>① 各自、読み札の内容を考える。</li> <li>② 班で、読み札及び取り札に関する各自の考えを話し合い、内容を決める。</li> <li>③ 役割を分担し、かるたを作成する。</li> <li>○ 学級内で「3年小平かるた」を発表し合い、小平市のよさが伝わる表現になっているか、意見を述べ合う。</li> </ul>
7	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かるたの作成や2年生に紹介する活動を振り返り、新たに発見した郷土のよさについて発表し合う。</li> </ul>

#### 体験が言葉に及ぼす作用

#### 的確・多様

##### 〈様々なかるた遊びを体験する〉

児童は、「いろはかるた」や「小平市郷土かるた」等、様々なかるた遊びを通して、言葉のリズムを感じ取った。  
また、社会科で学んだ郷土の特色を思い出し、自分が発見した小平市のよさが伝わるよう、表現を工夫してかるた作りに取り組んだ。

#### 言葉が体験に及ぼす作用

#### 認識

##### 〈「3年小平かるた」を作成する〉

2年生に小平市のよさが伝わるよう、ことわざや慣用語、「小平市郷土かるた」の表現を参考に、読み札の文句を考え、かるたを作成した。  
児童は、かるたを作る過程で、郷土の特色に関する探究心を一層深めていった。



## III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	12月	1月	2月	3月
国 語	「声に出して楽しもう」 ○ 易しい文語調の短歌や俳句について、リズムを感じ取りながら音読する。	「かるたについて知ろう」 ○ 中心となる語や文を捉えて文章を読む。	「『3年小平かるた』をつくろう」 ○ 自分たちが発見した小平市のよさを2年生に伝えるために、かるたを作成する。	
社 会		「くらしのうつりかわり」 ○ 昔の道具や、道具を使っていた人々の暮らしを調べる。 ○ 小平市に残る昔からの習わしを調べる。		
道 徳		「伝統・文化」4の(5) ○ 郷土の伝統・文化を大切にする心を育む。		
特別活動			「『3年小平かるた』で遊ぼう」 ○ 2年生と一緒にかるたで遊ぶ。	

### ◆ 社会科との関連

社会科で学習した小平市の特色ある地形と土地利用、産業、昔のくらしなどの事柄を参考にし、かるたを作成する学習を行った。

読み札の言葉を考えるに当たっては、社会科見学で行った地域で活躍している人々へのインタビューを生かし、先人の小平市を誇りに思う気持ちを想像させた。

資料提供 小平市教育委員会

# 「祭囃子」を地域に発信 ― 囃子保存会との協同 ―

小学校 第4学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土の一員としての自覚と誇りを育む学校〉

囃子をはじめとする伝統芸能を学ぶ過程で、郷土の伝統・文化を尊ぶ心を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「私の町の宝物『秋津囃子』に学ぶ」

### 2 身に付ける力

- 保存会から「秋津囃子」について学び、郷土の人々に演舞を披露することを通して、郷土の伝統・文化を大切にする心を育てる。

### 3 教材化の視点

- 当該校では、平成18年度から秋津町祭囃子保存会及びふるさと歴史館の指導を受け、郷土の伝統芸能に関する学習活動を継続している。囃子に込められた郷土の人々の願いを想像しながら演舞したり、学習の成果を新聞にまとめ、地域に発信したりすることを通して、郷土の一員としての自覚と誇りを育む。

### 4 学習過程（全13時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握	○ 保存会の実演を見学したり、生活経験を想起したりして、学習課題を設定する。 「秋津囃子」について学んだことを郷土の人々に伝えよう。
3・7	個の学び	○ ふるさと歴史館の学芸員から、囃子の歴史や演舞の特徴について指導を受ける。 ○ 保存会から演舞の指導を受けたあと、友達同士で教え合う。 ○ 学習の成果について、「秋津囃子新聞」にまとめる。
8・12	学び合い 再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	○ 新聞を読み合い、郷土の人に分かりやすく伝えるための改善点を話し合う。 ○ 運動会の発表に向け、演舞を練習し、良い点や改善点について話し合う。 ○ 運動会で演舞を披露する。
13	課題解決	○ 地域の施設や地域行事等で演舞を披露する際、各自作成した「秋津囃子新聞」を配布する。 ○ 郷土の人々と対話した内容を伝え合い、学習を振り返る。

### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様

#### ＜「秋津囃子新聞」を作成する＞

保存会の人々やふるさと歴史館の人から指導を受けたあと、学習の成果を新聞にまとめ、演舞の練習を行った。

囃子に対する郷土の人々の願いなどを文章に書き表すことで、児童は演舞への意欲を高め、より主体的に練習に取り組むようになった。

### 言葉が体験に及ぼす作用 共有

#### ＜演舞を披露する＞

児童は、運動会や地域行事等で、郷土の人々と共に演舞を行った。その際、自作の新聞を配布しながら、学習の成果を郷土の人に口頭で伝えていった。

「秋津囃子に込められた思いを初めて知った。」「囃子が100年、200年先まで続いてほしい。」など、囃子に対する思いを自分の言葉で熱心に語っていた。



III カリキュラムの課題解決に向けた実践事例

## III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	4 月	5 月	6～12月
社 会	「受け継がれる文化財」 ○ 東村山市には六つの祭囃子があることを知る。		
道 徳		「郷土愛」4の(5) ○ 郷土の伝統・文化を大切にし、郷土を愛する心を育む。	「尊敬・感謝」2の(4) ○ 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
総合的な学習の時間	「私の町の宝物『秋津囃子』に学ぶ」 ○ 学芸員から、囃子の歴史などについて学ぶ。 ○ 学習の成果について新聞にまとめる。 ○ 囃子に対する郷土の人々の願いに気付く。		「『秋津囃子』を地域に発信」 ○ 高齢者施設や地域行事等で演舞を披露する。
特別活動		運動会『秋津囃子』 ○ 囃子の軽快なリズムに乗って、全身で踊る。	

### ◆ 社会科との関連

社会科の副読本「わたしたちの東村山市」に掲載されている六つの囃子について学習する過程で、児童は、市内各地区で多くの人々が囃子の練習に参加し、大切に受け継がれていることを知った。

この一連の学習が、学区域の囃子について、課題を設定し、解決していこうとする意欲を喚起した。

資料提供 東村山市教育委員会



# 私たちの環境保全 ―くにたち桜守活動―

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈心豊かに生き抜く児童を育てる学校〉

郷土の伝統・文化を守り発展させるために、できることを考え、実行する力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「わたしたち・ぼくたちの桜を守ろう」

### 2 身に付ける力

- 学校周辺の桜並木を保全する学習を通して、自然を大切にできる心情を育み、環境問題に目を向け、自分にできることを考え、実行する力を育む。

### 3 教材化の視点

- 国立市民に愛され、誇りとされている桜並木が衰弱してきている。その並木を保全するために活動しているくにたち桜守から保全活動について学び、実際に桜守活動を体験する。その上で、今後、自分たちができることは何なのかを考え、発信することを通して、郷土を大切にしようとする心を育む。

### 4 学習過程（全15時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2		○ くにたち桜守から桜の保全活動に係る内容を学ぶ。
3・4・5	課題発見、課題設定のための体験活動	○ 木の健康診断を行う。(大学通りの桜並木) ・ 弱っている木を見たり、触ったりする。 ・ 桜の木の健康診断（小づちで叩いて音の違いを感じる、幹の太さを測る活動等）を行う。 ・ 桜の木の根元に肥料をまく。
6・7	課題把握	○ くにたち桜守の話や桜の木の健康診断などの体験活動から、桜の保全のために自分たちができていることを考えようという課題をもつ。 国立の桜を守るため、自分たちにできることを考えよう。
8・9・10	個の学び	○ 桜の保全のためにできることを考える。 ・ 各自考えを発表し合い、新聞にまとめ、郷土の人々に配布することを決める。
11・12・13・14・15	学び合い 課題解決	○ 桜守の体験活動を通して考えたことや伝えたいことを各自「桜守新聞」としてまとめる。 ○ 「桜守新聞」を保護者及び郷土の人々に配布する。

### 体験が言葉に及ぼす作用

### 実 感

#### ＜桜の木の状態を知る＞

児童の一人は、桜の木を小づちで叩く体験を通して、「コンコンと高い音がするところは元気、ドンドンと低い音がするところは弱っている。」などとつぶやいていた。

こうして、木の状態を確認する際に気付いた事実を、擬音語を用いて新聞に書き表していた。



### 言葉が体験に及ぼす作用

### 認 識

#### ＜桜を守る取組を実行する＞

児童は、弱った桜を元気にし、桜並木を守るために何をすべきか話し合った。

話し合いの結果、児童は肥料を作ったり、学習の成果を新聞にまとめて郷土に発信したりする取組を考案し、実行した。

## III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	4月	5月	6月	7月	9月	10月
国 語			「ほうこくする文章を書こう」 ○ 調べたことを報告する文章を書く。			
社 会	「わたしのまち みんなのまち」 ○ 学校の回りの様子を知る。 ○ 自慢の場所を見付ける。		「わたしのまち みんなのまち」 ○ 自分たちの住む市の中で、紹介したいところを調べる。			
図画工作					「ポスターをつくろう」 ○ 桜の保全を伝えるポスターを制作する。	
道 徳		「自然愛・動植物愛護」3の(2) ○ 自然を大切にすることを学ぶ。				
総合的な学習の時間	「わたしたち・ぼくたちの桜を守ろう1」 ○ 桜守活動を知る。 ○ 桜の健康診断を行う。 ○ 桜守活動の体験を通して、自分にできることを考える。				「わたしたち・ぼくたちの桜を守ろう2」 ○ ポスターを活用し、桜の保全活動を実行する。	

### ◆ 社会科との関連

総合的な学習の時間において、児童が体験活動を通して自ら課題を設定できるよう、社会科における身近な郷土の学習との関連を図った。

特に、特色ある地形、土地利用の様子などと共に、郷土の特色である桜並木を守ってきたくにたち桜守の活動に着目させることで、郷土の人々の生活の向上に尽くしている人々の働きや苦心について考えることができるようにした。

資料提供 国立市教育委員会

# わがまちの宝

## — 福生名所百景づくり —

中学校 第1学年 総合的な学習の時間

### I 目指す特色ある学校

#### 〈国際社会を生き抜く資質・能力を育む学校〉

郷土の伝統・文化を探る体験活動を通して、福生市に対する愛着と誇りを培う。

### II 授業づくり

#### 1 単元名

「わがまちの宝探し」

#### 2 身に付ける力

- 地域探検を行うことを通して、福生市ならではのよさを理解したのち、市の名所百景を作成することで、郷土を愛する心を育む。

#### 3 教材化の視点

- 福生市には、多摩川流域の自然豊かな風景、酒蔵等の古い街並み、アイスクリーム屋や古着屋などの店が立ち並ぶ基地周辺など、様々な街並みがある。また、米軍基地があることから、多くの外国人が住んでいる。そうした郷土のよさを「福生名所百景」としてまとめ、外国人に紹介する活動を通して、郷土を愛する心を育む。

#### 4 学習過程（全24時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福生市がホームページで紹介している「福生十景」から、福生市のよさを考える。</li> <li>○ 様々な写真を基に福生市の特徴をキーワードでまとめ、分類・整理する。</li> <li>○ 班ごとに、福生市について調べたい事項を決める。</li> </ul>
3～11	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「1年 福生名所百景」を作り、郷土の人々に紹介しよう。</li> </ul>
12～19	個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 班で選んだ事項について、資料等で調べる。</li> <li>○ 疑問点や更に調べたいことについて班で話し合う。</li> <li>○ 地域探検の計画を立てる。</li> <li>○ 地域探検を行う。</li> </ul>
20～24	学び合い 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自で調査結果をまとめる。</li> <li>○ 班で発表資料を作成する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 班でまとめたことを学級内で発表する。</li> <li>○ 学年発表会を行い、「福生市名所百景」として取り上げたい福生市ならではのよさについて話し合う。</li> <li>○ 地図にまとめ、「福生名所百景」を作成し、郷土の人々に配布する。</li> </ul>

#### 言葉が体験に及ぼす作用

#### 認 識

##### 〈キーワードでまとめる〉

福生市の様々な場所について、インターネットや市の広報紙等を活用して調べる活動を通して、生徒は福生市ならではのよさに気付いていった。各自が発見した内容をキーワードでまとめ、学級全体で分類・整理することで、福生市のよさが更に明確になり、課題意識をもって地域探検を行うことができた。

#### 体験が言葉に及ぼす作用

#### 的確・多様

##### 〈地域探検を行う〉

地域探検の後、社会科で学んだ身近な郷土の歴史に関する学習を想起させることで、生徒は調査結果について昔の様子と比較しながらまとめていった。こうした一連の学習により、蔵のある古い町並み、基地の移り変わりなどに気付いた生徒は、「福生名所百景」として、ぜひ取り上げたいという思いを高めていった。



Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けた実践事例

### Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	4月	5月	6月	7月	9月	10月
国 語			「分かりやすく説明しよう」 ○ 説明する観点を決めて情報を整理し、分かりやすい構成を考えて書く。			
社 会	「身近な地域の歴史」 ○ 地域への関心を高め、我が国の歴史をより具体性と親近感をもたせながら理解する。					
道 徳				「郷土愛」4の(8) ○ 社会の一員として郷土を愛し、郷土の発展に努める。		
総合的な学習の時間			「わがまちの宝さがし」 ○ 福生市には様々な景観が見られることを知る。 ○ 福生市について地域探検を行う。 ○ 福生市のよさを紹介する資料を作成する。 ○ 地図にまとめ、「福生名所百景」を作成し、発信する。			

#### ◆ 社会科との関連

社会科では、文化遺産である酒造蔵等を取り上げ、江戸時代に発達した産業について学習した。その際、江戸時代に発達した酒造りが、現在も続いていることに気付かせた。

総合的な学習の時間では、酒蔵等を日本の伝統的な風景を伝える貴重な文化遺産であることを捉えさせ、郷土を愛する心を育むことができるよう指導を工夫した。

資料提供 福生市教育委員会

# 地域に広める新しい伝統 ― 踊り伝える瑞穂音頭 ―

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土に学ぶ学校〉

郷土の伝統・文化を理解し広める学習活動を通して、主体性を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「瑞穂町のよさを1年生に紹介しよう」

### 2 身に付ける力

- 瑞穂音頭について調べたり、郷土の人々と演舞したりすることを通して、郷土に関する学習に主体的に取り組む態度を育てる。

### 3 教材化の視点

- 町内の全小学校では、運動会等の学校行事で瑞穂音頭を演舞する。また、観光協会主催のサマーフェスティバル等の地域行事の際に、児童、保護者及び地域住民が共に演舞する。
- 瑞穂音頭には、「六道山」、「御伊勢山遊歩道」、「狭山池」、「狭山茶」、「村山大島紬」など、町の特徴を表す歌詞がある。それらを手掛かりとして町のよさを発見し、下級生に紹介する活動を通して郷土を愛する心を育む。

### 4 学習過程（全13時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	課題把握 課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土の人から、瑞穂音頭の踊り方を学ぶ。</li> <li>○ 瑞穂音頭の歌詞から、町の特徴を表している語句を探す。</li> <li>○ 社会科の学習を振り返り、町のよさについて話し合い、学習課題を設定する。</li> </ul>
4 ～ 8	↓ 個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 瑞穂町を探索する計画を立てる。</li> <li>○ 地域探索を行い、よさとその理由について伝え合う。</li> <li>○ 各自で1年生に伝えたい事柄を決める。</li> </ul>
9 ・ 10	↑ 学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 類似した事柄ごとに班を編成し、紹介したい内容を考える。</li> <li>○ ポスターセッションの準備を行う。</li> </ul>
11	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポスターセッションを行い、よい点や改善点について伝え合う。</li> </ul>
12 ・ 13	↓ 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年生にポスターセッションを行い、質問に答える。</li> <li>○ 1年生の質問や感想を基に、各自で発表を振り返る。</li> </ul>

### 言葉が体験に及ぼす作用 認 識

＜歌詞に着目し、よさを見付ける＞  
瑞穂音頭の歌詞に着目することで、児童は、身近な場所や風物が町のよさであることを再確認した。

児童の中には、歌詞の「六道山」についてもっと詳しく知りたいと思い、歌詞に出てくる場所を、町探索の行先として設定する者が複数現れた。



### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様

#### ＜町探索を行う＞

児童は、「自分が伝えるべき町のよさは何か。」と問い続けながら探索を行う中で、複数のよさを発見し、1年生に伝える内容を各自設定した。

ポスターセッションでは、1年生の諸々の質問に対して、体験したことを基に答えていた。

## III カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	4月	5月	6月	7月
国 語			「ほうこくする文章を書こう」 ○ 調べたことを報告する文章を書く。	
社 会	「学校の周りの様子を探索しよう」 ○ 学校の周りの様子を調べる。 ○ 場所によって違いがあることが分かる。		「町の様子を知ろう」 ○ 町の特色ある場所の様子を詳しく調べ、表や地図などにまとめる。	
道 徳				「伝統・文化」4の(6) ○ 我が国の伝統・文化に親しむ。
総合的な学習の時間		「瑞穂町のよさを1年生に紹介しよう」 ○ 瑞穂音頭の歌詞から、瑞穂町のよさを考える。 ○ 自分たちの住む町の中で、紹介したいところを調べる。 ○ 地域や保護者に向けて、郷土のよさを発表する。		
特別活動		「運動会」 ○ 郷土の人に瑞穂音頭の指導を受ける。 ○ 運動会で郷土の人々と踊る。		

### ◆ 社会科との関連

社会科では、同じ町内でも、場所によって土地の様子、住宅や町の施設、交通事情等に違いがあることについて学習した。

総合的な学習の時間では、社会科で学習した地域を調べる際の視点を生かし、児童の親族が在住している地域等と瑞穂町とを比較させた。そうした学習過程で、児童が瑞穂町のよさを再確認することができるようにした。

資料提供 瑞穂町教育委員会



# 自作の獅子頭で演舞 — 三匹獅子舞 —

小学校 第3学年 図画工作、総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土の伝統・文化を継承・発展させる学校〉

専門家との協働により、伝統・文化を継承・発展させる意欲と態度を培う。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「檜原村をしょうかいしよう」

### 2 身に付ける力

- 獅子博物館の館長へのインタビューや獅子頭の製作を行い、郷土の人々に演舞を披露することを通して、郷土の伝統・文化を大切にすることを育てる。

### 3 教材化の視点

- 獅子博物館の館長から獅子舞のいわれや歴史、獅子に込められた村人の願いや思い、三匹獅子舞の特徴などについて学ぶ。
- 檜原村全7地区の獅子舞を対象とし、年間一つずつ、保存会から演舞に関する指導を受ける。

### 4 学習過程（全18時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 3	課題把握	○ 各地区の祭りや獅子舞について調べ、学習課題を設定する。 「三匹獅子舞」に込められた、郷土の人々の思いを理解し、演舞に生かそう。
4 5	個の学び	○ 獅子舞博物館の見学及び館長へのインタビューを通して、獅子舞に込められた願いを知り、課題に対する自己の考えをもつ。
6 14	学び合い	○ 三匹獅子舞や祭りに込められた願いを基に、各自獅子頭をデザインし、互いに見せ合い、助言し合う。 ※ 図画工作で獅子頭を製作する。 ○ 郷土の人に演舞の指導を受ける。 ○ よりよい演舞に向けて助言し合う。
15 16	再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	○ 自分で製作した獅子頭を使って演舞を行い、村人や保護者に披露する。
17 18	課題解決	○ 学習を振り返り、感じたことや考えたことを話し合う。 ○ 学習の成果を文集にまとめ、図書室に置くとともに博物館の館長及び保存会の人々に送る。



【三匹獅子舞】

檜原村の多くの地区に伝えられている「獅子舞」は、全て一人立ち三匹獅子によるものであり、その起源は室町時代にまでさかのぼる。

各獅子舞は、8月下旬から9月中旬の神社の例祭で奉納上演される。

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜村人に演舞を披露する＞

児童は、演舞を披露したのちに、村人にインタビューを行い、獅子舞に対する熱い思いを知った。

学習の成果をまとめた文集には、「村に長く受け継がれている獅子舞を大切にしたい。」「他の地域の人々に紹介したい。」などの記述が多く見られた。

### 言葉が体験に及ぼす作用 認 識

#### ＜学習の成果を文集にまとめる＞

児童は、学習の成果を文集にまとめる過程で、獅子舞に込められた村人の願いを想像し、友達と交流した。

そのことにより、演舞への意欲を一層高め、新年度の1年生を迎える際にぜひ披露したい、と提案する児童が現れた。



Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けた実践事例

## Ⅲ カリキュラムの課題解決に向けて〈各教科等との関連〉

	1月	2月	3月
社 会	「のこしたいもの つたえたいもの」 ○ 自分たちの住む村の中で、紹介したい年中行事を調べる。		
図画工作		「獅子頭をつくる」 ○ 各自獅子のイメージに合った獅子頭を作成する。	
道 徳	「伝統・文化」4の(6) ○ 我が国の伝統・文化に親しむ。		
総合的な学習の時間			「檜原村をしょうかいしよう」 ○ 檜原村の三匹獅子舞について知る。 ○ 三匹獅子舞に込められた願いや思いを調べる。 ○ 三匹獅子舞の演舞を体験する。

### ◆ 社会科、図画工作科との関連

社会科では、地域行事に込められた村人の願いや思い、保存・継承するための工夫や努力について考えさせた。

総合的な学習の時間においては、社会科で学んだことを踏まえ、三匹獅子舞について調べたあと、図画工作で作った獅子頭を使って演舞させた。その後、村人の感想を聞いたり、学習の成果を文集にまとめたりすることを通して、郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを育んだ。

資料提供 檜原村教育委員会

# 収穫祭でつなぐ学校と地域の輪 ― 郷土の農家と米作り ―

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈心豊かに学び合う学校〉 郷土の伝統・文化を生かした体験活動を通して、豊かな心を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 郷土の伝統・文化を生かした交流活動の重視
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 生活科及び総合的な学習の時間の授業における体験活動及び言語活動の充実 ○ 達成目標 全教師による授業実践及び年間指導計画の改善・充実
Do	具体策の実施	○ 体験活動と言語活動を適切に設定し、学び合う価値を自覚できる学習活動の実施
Check	学校評価	○ 生活科及び総合的な学習の時間における学習実施状況について評価 ○ 学校評議員等と共に、郷土の教育資源を生かした新たな取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 次年度への引継ぎ事項の決定



### 【米の収穫祭】

当该校では、校門前の水田で稲作体験を行っている。収穫したもち米は、児童と保護者で餅つきを行い、世話になった農家の人々に振る舞う。児童は、米作り体験から学んだことを農家の人々に伝え交流することを楽しみにしている。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「米づくりにチャレンジ」

### 2 身に付ける力

- 児童が、農家の人々の指導を受けながら米作りを行う体験活動を通して、気付いたり考えたりしたことを友達と交流することで、郷土の米作りのために自分ができることを考え、実行しようとする意欲や態度を育む。

### 3 教材化の視点

- 当该校は周囲を山に囲まれ、校門の前には清流を生かした水田がある。恵まれた自然を生かし、農家の人々の協力を得て進める米作りの過程、田植え、水管理、稲刈り、脱穀、粃摺り（もみすり）、わらを利用した縄作りに取り組みさせる過程で、探究的な学習を実施することで、児童が米作りのよさを実感し、郷土に対する愛着心を育む。

### 4 指導上のポイント

- 児童は、農家の人々の指導の下、田植え、水管理、稲刈り、脱穀、粃摺り（もみすり）などを行う。社会科で行う米作り農家に関する学習と関連させ、稲の成長や米作りの工夫などに関する課題を設定し、体験活動を通して追究する。各体験活動の後に、気付いたことや考えたことなどを絵や文章で表現し、友達と交流する場面を設定することで、米作りや収穫祭で発表することへの意欲を高める。
- 収穫祭において、米作りに関する学習の成果と課題を報告し合い、郷土の米作りを継承・発展させるために自分たちにできることについて考えさせ、農家の人々に提案させる。

### 5 学習過程（全30時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	課題把握	○ 社会科で調べたことを基に、米作りについての自己の課題を設定する。 ○ 収穫祭に向けて、米作りの工夫や農家の人々の努力を調べ、米作りを成功させよう。
4 ～ 19	課題に対する自己の考えを構築するための体験活動 ↓ 個の学び	○ 農家の人々指導を受け、米作りを行う。 （田植え、水管理、稲刈り、脱穀、 <sup>もみすり</sup> 粃摺り） ○ 各体験を通して気付いたことや考えたことなどを絵や文章にまとめるとともに、友達と交流する。
20 ～ 25	↓ 学び合い	○ 体験して気付いたことなどを発表し合い、収穫祭で伝えたい事柄について話し合う。
26 ～ 30	↓ 課題解決	○ 収穫祭で学習の成果を発表するとともに、農家の人々に感謝の気持ちを伝える。 ○ 米作りについて振り返るとともに、わらの利用について調べ、しめ縄作りを体験する。 ○ 郷土の米作りの発展のため、自分たちができることを考え、農家の人々に提案する。




## 6 組織的な対応

### (1) 目標共有

農家の人々の指導の下、郷土の自然を生かした米作りを体験させ、自ら気付いたことなど交流することで、自ら探究的に学び、郷土を大切にしようとする気持ちを育てる。

### (2) 役割分担【学校・家庭・地域】

年度当初の農家の人々との打合せ、保護者会及び学校評議員会において、単元の学習指導計画及び学習の進捗状況等を報告し、学校、家庭及び地域の役割分担を徹底する。

役 割	主 な 取 組	担 当
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月当初に、農家の人々と学年代表の保護者が打合せを行う。</li> <li>他教科等との関連を明記した総合的な学習の時間の単元指導計画を作成する。</li> <li>児童と農家の人々との交流の様子などをホームページ等で発信する。</li> <li>児童が作成した報告文を学年及び学級通信で紹介し、学習の進捗状況を伝える。</li> <li>本単元の取組や児童の作品などをまとめ、次年度の学年担当者に学習指導の成果と課題を引き継ぐ。</li> </ul>	第5学年学級担任 副校長・教務主任 
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科との関連を図り、各家庭で米炊きを複数回体験させる。児童及び保護者が体験の感想をカードに記録し、担任に提出する。</li> <li>米の実りに感謝して食事するよう声を掛ける。</li> </ul>	第5学年保護者学級代表等
地 域	<ul style="list-style-type: none"> <li>米作りに係る指導及び稲の管理を行う。</li> <li>収穫祭に参加し、学校と協同して行う米作りのよさ等について伝える。</li> </ul>	農家の人々 学校評議員

### (3) 調整・統合【年間6回の保護者会及び学校評議員会】

- 年度初めの保護者会で、農家の人々が家庭で取り組める事項を伝える。保護者は、夏休み中の稲の世話や収穫祭の手伝いなど、協力できることを提案する。
- 毎回の保護者会で、担任が学習の進捗状況及び家庭における親子での取組（米袋の情報を読む、御飯を炊く等）について説明する。保護者は、家庭での子供の様子などを報告し合う。
- 収穫祭後の保護者会や学校評議員会において、改善点や要望を聞き取り、次年度に引き継ぐ。

## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	的確・多様	第4～25時	田植え、水管理、稲刈りなどを行う
<p>多くの児童にとって田植えは初めての体験であった。「くつ下で田んぼに入ったとき、水をふくんだスポンジを踏んだようで、今までに感じたことのない感触だった。」など、体験を通して気付いたことを書き表していた。</p> <p>体験から得たことを文章にすることで、自らの気付きを農家の人々に伝えたいという思いを膨ませていった。</p>			



言葉が体験に及ぼす作用	認 識	第4～25時	自らの気付きを文章にし、交流する
<p>児童は、田植え、水管理、稲刈りなどの各体験の後に、気付いたことを文章に書き表し、友達と交流する活動を通して、新たな気付きや疑問をもつことができた。</p> <p>こうした活動を積み重ねる過程で、農家の人々が丹精込めて育てている米に今まで以上に関心をもち、その後の米作りの体験活動に対する意欲を高めていった。</p>			



### ◆ 学習の質の高まりや深まり



田植え、水管理、稲刈り等、米作りに関する体験活動ごとに、自ら気付いた事柄等を文章にまとめさせ、友達同士で交流する学習を継続して行わせることで、次の体験活動について見通しをもたせるようにした。このことにより、児童は米作りに関する一連の学習に関心・意欲をもち続け、主体的に体験活動に取り組むようになった。

体験活動を設定するに当たり、児童が活動の振り返りと見通しをもてるよう、自らの言葉で学習の成果をまとめたり、予想を立てたりする場面を多く設定したことが、学習の質を高めることにつながった。

## III 考 察

当该校では、社会科との関連を重視し、校門前の水田を生かした米作りに関する体験活動を実施し、地場産業を大切にしていこうとする意欲と態度を育成している。

本事例では、農家の人々の協力を得て、年間を通して保護者会及び学校評議員会を活用し、児童の様子や学習の進捗状況を確認し合い、取組の成果と課題を共有した。そのことで、児童は課題意識をより明確にもち、体験活動に取り組むようになった。

学習の過程で、体験活動の直後に気付いたことなどを文章で表現させるなど、言語活動を効果的に設定し、学習の質を高めた。体験することによって多様な言葉が生まれ、表現は豊かになった。また、体験して気付いたことを人に伝えたくなるなど、言葉で表現しようとする意欲が高まった。なお、体験を通して得たことを言葉で交流させることで、体験しただけでは無自覚に終わる事柄について、自分なりに価値付けを行わせ、学習の成果として認識させることにつながった。

資料提供 青梅市教育委員会



# 知らせよう！「狭山茶」のよさ — 手もみ茶作りを通して —

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈郷土と我が国を愛する心を育む学校〉 伝統・文化を取り扱う学習活動を通して、郷土愛・祖国愛を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 地場産の「狭山茶」を活用した学習活動の充実
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 「狭山茶」に関する体験活動の充実 ○ 達成目標 学校関係者評価（保護者）における肯定的な評価80%以上
Do	具体策の実施	○ 第3学年における「狭山茶」を活用した学習の実施
Check	学校評価	○ 総合的な学習の時間における学習実施状況について評価 ○ 農家の人々と共に、「狭山茶」に関する新たな取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 農家との協議を生かした学習指導計画の作成



### 【狭山茶】

埼玉県西部及び西多摩地域を中心に生産されている茶で、静岡茶、宇治茶と並んで「日本三大茶」と呼ばれる。  
他産地に比べて寒冷であることから、コクと香味が強いのが特長である。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「みんなに知らせよう！『狭山茶』のよさ」

### 2 身に付ける力

- 農家の見学や手もみ茶作りを体験し、「狭山茶」が郷土の特産品として引き継がれてきた背景について理解するとともに、緑茶の健康食品としての価値を実感することを通して、郷土の文化を大切にすることを育む。

### 3 教材化の視点

- 当該地域には茶畑が多くあり、児童にとって「狭山茶」は身近な農作物となっている。緑茶に関心をもっている児童は多いが、ペットボトルに入った緑茶を飲むことが多く、急須で緑茶を入れ色や香りを楽しみながら飲むことは少なくなっている。こうした実態を踏まえ、茶摘みの見学、手もみ茶作りなどの体験活動を行い、「狭山茶」のよさを実感できるようにする。

### 4 指導上のポイント

- 児童は、社会科で当該地域には野菜畑や果樹園と並んで茶畑が多いことを学ぶ。また、特産品として「狭山茶」が販売されていることなどから、「狭山茶」への関心を高める。
- 特産品としての「狭山茶」のよさを説明するにはどのような方法があるか、児童自ら考えを出し合うことで、体験活動に対する関心・意欲を高める。

### 5 学習過程（全12時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握	○ これまでの学習や生活経験から、郷土の特産品である「狭山茶」に関して学習課題を設定する。 「狭山茶」について調べ、お茶のよさを多くの人に知らせよう。
2 ～ 7	課題に対する 自己の考えを構築するための体験活動 ↓ 個の学び	○ 農家を訪問し、緑茶の製造工程を見学するとともに、手もみ茶作りを体験する。 ○ 農家及び製茶販売店の人々から、緑茶の健康食品としての価値について話を聞くとともに、おいしい緑茶の入れ方及び作法を教わり、緑茶を味わう。 ○ 各自、緑茶について資料等を収集し、栽培方法や歴史等について調べる。 ○ 体験を通して分かったことや資料等を用いて調べたことを「緑茶レポート」にまとめる。
8 ～ 10	↓ 学び合い	○ 農家の人々をはじめ郷土の人々を招待する「3年茶話会」の計画を立てる。 ○ 各自が作成した「緑茶レポート」を基に、郷土の人々に伝える事項について話し合う。
11 ・ 12	↓ 課題解決	○ 「3年茶話会」を開き、学んだことや感謝の気持ちを伝え、一緒に「狭山茶」を飲む。 ○ 農家の人々及び製茶販売店員から、「緑茶レポート」及び「3年茶話会」の感想を聞く。

## 6 組織的な対応

### (1) 目標共有

郷土の特産品である「狭山茶」に関する学習活動を通して、健康食品としての価値等を理解させるとともに、緑茶の文化や作法に親しませることで、郷土の文化を大切にすることを育む。

### (2) 役割分担【学校・家庭・地域】

役 割	主 な 取 組	担 当
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校朝会における講話で「狭山茶」を取り上げる。</li> <li>保健便りで緑茶の健康食品としての価値を知らせる。(抗菌作用、虫歯予防、リラックス作用等)</li> <li>各教科で茶を取り扱う。 国語(俳句)、社会(土地の利用)、音楽(季節の歌「茶摘み」)など</li> </ul>	校長 養護教諭 第3学年学級担任
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑茶を飲む機会を設け、おいしい緑茶の入れ方を実践する。</li> <li>緑茶の健康食品としての価値について話題とする。</li> </ul>	第3学年保護者
地 域	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家及び製茶工場の見学、手もみ茶作り体験等の実施</li> <li>授業の実施(「狭山茶」の特長、健康食品としての価値、緑茶の入れ方等)</li> <li>「3年茶話会」で児童と「狭山茶」について話し、感想を伝える。</li> </ul>	茶農家の人々 製茶販売店員 学校評議員

### (3) 調整・統合【保護者会】

- 年度初めに各学級担任が農家及び製茶販売店を訪問し、「狭山茶」の学習についての協力を依頼する。
- 保護者会で、各学級担任から学習指導計画について説明する。また、家庭において、急須で緑茶を入れて飲む機会を設けることや緑茶を話題にすることなどについて依頼する。

## 7 言葉と体験の相互作用

### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様 第2～4時 手もみ茶作りを体験する

児童は、茶摘み、緑茶の製造過程の見学、手もみ茶作りといった体験活動を行うとともに、緑茶の入れ方についても農家の人から教わった。  
こうした一連の過程で、気付いた茶葉の色や香り、手触り、急須で入れた緑茶の味わいなど、「狭山茶」のよさについてレポートにまとめた。その際、互いにレポートを読み合い、本当にこれで郷土の人々に狭山茶のよさが伝わるかと、表現を工夫し合う姿が見られた。



### 言葉が体験に及ぼす作用 共 有 第5～12時 「緑茶レポート」にまとめる

児童の多くが、農家の見学を通して学んだ「狭山火入れ」(冬の寒さを乗り越えた茶葉に熱を加える茶の製造工程)についてレポートにまとめていた。  
単元の終わりに行った茶話会で、ある児童が、「狭山茶は、冬の寒さを乗り越えるからこそ、甘くておいしいお茶になるのだと思います。」と発言すると、別の児童は、「その後の火入れが狭山茶のよさを生み出すのだと考えます。」と補足説明を行っていた。



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

児童は、農家及び製茶販売店の見学、手もみ茶作りなどを体験したあと、自ら気付いたことをレポートにまとめたり、茶話会で郷土の人々に伝える内容を事前に友達と話し合ったりした。こうした体験を通して気付いたことを文章に書き表したり、交流したりすることで、「狭山茶」のよさをより深く理解していった。  
茶話会では、「狭山茶」のよさが引き立つよう、湯の温度に気を付けたり、湯呑み茶碗をあらかじめ温めたりするなど、事前に学習した緑茶の入れ方を生かし、心を込めてもてなす児童の姿が多く見られた。

## Ⅲ 考 察

当該校では、本単元の学習を行うに当たり、管理職及び学級担任が3軒の茶農家を訪ねて綿密な打合せを行い、指導目標を共有した。

本事例では、当該地域に狭山丘陵を生かした茶畑が広がっていること、日本でも有名な茶の生産地であることに着目させ、「狭山茶」のよさについて調べることを課題として設定した。課題を追究する過程では、社会科の学習内容を活用できるよう工夫したり、農家を見学し、実際に手もみ茶を作る体験活動を行わせたりした。

児童のレポートには、摘んだ茶葉から紅茶を生産したり、「狭山茶」を練り込んだうどんを開発したりするなど、「狭山茶」を新たな商品として次代に引継ぐ農家の人々の努力や工夫が記述されていた。児童は、郷土の人々の「狭山茶」に対する思いを知ることで、「狭山茶」のよさを多面的に捉えるとともに、そのよさをより多くの人に伝えたいという意欲を高めていった。

資料提供 東大和市教育委員会

# ESDで進める学校林活用・再生プロジェクト — 多摩丘陵から生活の知恵を学ぶ —

小学校 第6学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈人、社会、自然とつながる学校〉 持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決する力を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 学校林を生かした問題解決的な学習の充実
	具体策と達成目標 (研究推進部)	○ 具体策 総合的な学習の時間における体験活動及び言語活動の充実 ○ 達成目標 全教師による授業実践及び年間指導計画の改善・充実
Do	具体策の実施	○ 体験活動及び言語活動を適切に設定するとともに、児童の主体性を育む指導を実施
Check	学校評価	○ 総合的な学習の時間の学習実施状況を評価 ○ 学校運営連絡協議会において、郷土の教育資源を生かした持続可能な取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 新たな提案を取り入れた学習指導計画の策定



### 【学校林】

学校が保有する森林のこと。  
当校の校庭横にある学校林は都内最大で、およそ7100㎡の広さがある。コナラを中心とした雑木林で、多摩丘陵では珍しくなった植物が繁茂する。

## II 授業づくり

1 単元名 「魅力ある学校林にするために、自分たちができにことに挑戦しよう」

### 2 身に付ける力

- 学校林のよさや価値に気付き、問題点を受け止め、その解決に向けて、自分たちができにことを考え実行する力を育む。

### 3 教材化の視点

- 当校では、多摩ニュータウン開発時にも手付かずに残る敷地内の学校林を活用した児童の創造的な営みを、全学年で計画的・系統的な指導を進めている。  
児童の発案により実施された活動には、階段整備、ドングリ等の自然物を生かした工作、ヨモギ団子作り、コゲラの巣箱作り、ベンチの設計・製作、学校林キャラクターの考案等がある。  
こうした学校林を活用した活動を通して、児童は学校林のよさや現在抱えている問題に気付き、問題の解決に向けて友達と協同して、今、できにことについて考え実行する。こうした学習過程で、答えが一つではない問題に向き合い、考え、粘り強く実行していこうとする意欲と態度を育む。

### 4 指導上のポイント

- 児童は、自分たちが学校林を活用して取り組みたい活動を決め、班を編成する。班ごとに活動の目的やゴールイメージ（最終目標）及び内容等について話し合い、問題の解決に向けて実行する。各班の活動が分かるように活動計画表や進行管理表を掲示し、情報交換を行う機会を設定する。必要に応じて、市立グリーンライブセンター及び多摩グリーンボランティア連絡会等に、児童からの発信で助言を求める。
- 毎時間の活動内容を報告集にまとめることで、新たな課題を発見できるようにする。林野庁等主催の「学校の森・全国子どもサミット」、「エコプロダクツ2014」等の機会を捉え、活動内容を発信する場を設定し、学校間で交流することで活動を一層充実させ、持続可能な社会づくりに関する考えを広げ、深める。

### 5 学習過程（27時間／全70時間扱い）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 5	課題把握	○ 昨年度の学習内容を振り返るとともに、パルテノン多摩歴史ミュージアム学芸員から「里山の自然」について話を聞き、学校林の活用に向け、自己の課題を設定する。 魅力ある学校林にするために、自分たちができにことを考え、実行しよう。
6 ～ 8	個の学び	○ 資料等から情報を収集し、整理・分析をして、自分の考えをまとめる。
9 ～ 23	学び合い 再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	○ 各自の考えを全体で分類、整理し、「整備」、「遊び」、「交流」、「食」、「自然」、「製作」、「遊具」の7班を編成する。 ○ 班ごとに、活動の目的やゴールイメージ（最終目標）及び内容等を話し合い、活動計画を立てる。 ○ 活動計画を実行し、学校林のよさや問題点に気付く。
24 ～ 27	課題解決	○ 各班の活動をまとめ、発表する。 ○ 「学校の森・全国子どもサミット」等の機会を生かし、他校へ発信する。





## 6 組織的な対応

### (1) 目標共有

学校林の活用及び再生を目指し、地域の関係諸機関等の指導及び保護者の協力の下、児童が学校林を未来へと発展させるために、自分たちにできることを主体的に考え、実行しようとする態度を育む。

### (2) 役割分担【学校林活用・再生プロジェクトチーム】

学校林の保全作業に取り組んでいる地域の関係諸機関等と連携し、プロジェクトチームを結成する。定例会を開き、目標の実現に向けて企画・運営を行う。



役 割	主 な 取 組	担 当
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画の作成、学校林を活用した学習材の開発</li> <li>プロジェクトチームの定例会の企画、運営</li> <li>学校林の価値を保護者や地域の方々及び児童と共有できる学習会やイベントを企画</li> </ul>	校長・副校長・学級担任 学校経営支援部 教育連携コーディネーター 研究推進委員会
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校林の価値を学ぶ学習会やイベントの参加</li> <li>学校林の整備の手伝い</li> </ul>	保護者 PTAボランティア組織
地 域	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校林の持続可能な取組への指導及び助言（倒木処理、樹木伐採、シタケ栽培、表土の流出止め、階段作り等）</li> <li>保護者や地域及び児童向けの学習会、講演会、イベントの実施</li> </ul>	学校運営連絡協議会 グリーンライブセンター・市民 ボランティア・樹木匠等

### (3) 調整・統合【学期2回以上のプロジェクトチーム定例会】

- 年度初めに、「持続可能かつ地域の宝としての学校林にしていくために活用・再生していくこと」を任務としてプロジェクトチームを結成し、学校・家庭・地域で実施する活動内容を計画する。
- 担任と教育連携コーディネーターは、児童が編成した7班の活動計画、活動状況を把握する。活動状況を児童に報告させ、「聞いて・助けて・見守り・任せる」役割を自覚し、活動計画の見直しと改善を行わせる。その都度、必要に応じてプロジェクトチームが活動に対する助言や支援を行う。

## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	実 感	第9～23時 学校林を活用・再生する
児童は、体験を通して学校林のよさ（＋）と問題点（－）をレポートにまとめた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>＋ いつでも散策し、珍しい鳥や植物を観察できる。</li> <li>＋ 自然のすばらしさや四季の移り変わりを覚えることができる。</li> <li>－ 大きくなり過ぎた木を切らないと林の中に光が届かず、キンランが咲かない。</li> <li>－ 林の中に希少植物が育っていることを、多くの人が知らない。</li> </ul>		
言葉が体験に及ぼす作用	共 有	第9～23時 学習計画を協同で実行する
学校林の活用・再生のためにできることを考案し、友達と協同で実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然に親しみ安らぐためのベンチやウッドデッキの作成・設置</li> <li>・ 朽ちた階段の改修や、丸太を使った歩道の整備</li> <li>・ 貴重な植物を守り、所在を気付かせることをねらいとした、看板作りや杭の設置</li> </ul>		



### ◆ 学習の質の高まりや深まり

総合的な学習の時間の探究が、スパイラルに連続する学習過程を重視するとともに、教師が「聞いて・助けて・見守り・任せる」役割を自覚して支援した。その結果、児童は自ら問題を発見し、その解決に向けて「どうしたいのか」「何ができるのか」を自分たちで考え、ゴールイメージ（最終目標）をもって意見を出し合い、児童が協同して活動を計画的に進められるようになった。報告集やシンキングツール等を活用した話し合いの場面、専門家やプロジェクトチームに助言を得る場面、初対面の人々に向けて発信する場面などで、児童が活動の意図や願い、活動を通じた自らの成長、今後の見通しについて雄弁に語るようになった。

## Ⅲ 考 察

当校は、持続発展教育・ESDを「学校林」の活用・再生を柱として教育課程に位置付け、全学年で授業実践を進めている。具体的には、遊びの場、学びの場、育ちの場としての「学校林」の活用に関心をもち、地域の関係諸機関を始め、PTAボランティア組織、保護者と連携を強化し、第3学年から総合的な学習の時間において問題解決的な学習に取り組んでいる。

単なる体験にとどまることなく、学習過程で高まっていく問題解決の探究プロセスが大切であり、児童が様々な体験を通して学校林の現状を知り、自分たちにできることはないかを考え、友達と協同して実行し、評価・改善していくことに価値を見いだしている。

重要なのは、体験の量ではなく、質を高めることである。そのため、児童が体験を通して、何をどのように学び、どのような資質・能力が育まれるのかについて、教師があらかじめ見通しをもち、「聞いて・助けて・見守り・任せる」役割を自覚し、個に応じた支援を適時適切に行っていくことが必要である。

資料提供 多摩市教育委員会

# 羽村の魅力を発見・発信！ — 羽村学（郷土学習） —

中学校 第1学年 総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈郷土の魅力を世界に発信する学校〉 郷土に伝わる伝統・文化を理解し、その内容を英語で発信する力を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 羽村学を生かした、国際理解教育の推進
	具体策と達成目標 (教科等部会)	○ 具体策 羽村学における探究的な学習活動の充実 ○ 達成目標 学校関係者評価における肯定的な評価80%以上
Do	具体策の実施	○ 学校支援地域本部を活用した、総合的な学習の時間における探究的な学習活動の実施
Check	学校評価	○ 羽村学における学習状況の評価 ○ 全国学力・学習状況調査質問紙調査の「総合的な学習の時間」に関する項目で、肯定的な評価90%以上
Action	次年度に向けた改善	○ 英語で発信する学習活動の適時適切な設定



### 【羽村学（郷土学習）】

小中一貫教育の推進における、羽村市独自の特色ある学習。羽村のよさに気づき、これからの羽村に生きる人々の生活、文化や環境などを守っていく態度や能力を育成し、実践力を高めることを目指す。小学校第1学年から中学校第3学年までを三段階に区分し、学習に取り組んでいる。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「羽村学（郷土学習）・羽村の魅力を発見・発信！」

### 2 身に付ける力

- フィールドワークやインタビュー活動を通して、自ら発見した羽村市の魅力を、外国の人々に英語で発信する力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 「小中一貫教育基本カリキュラム」に基づき、地域の教育力を生かした生活科及び総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する。第1学年では、フィールドワークやインタビュー活動を行い、その学習過程や自ら発見した郷土の魅力をプレゼンテーションソフトを活用して発表したあと、姉妹都市の中学生に伝えたり、A L Tに英語で紹介したりする活動を設定する。

### 4 指導上のポイント

- フィールドワーク及びインタビュー活動を通して、郷土に関する情報を収集・分析し、自ら郷土のよさに気づき、その内容について、表現方法を工夫して姉妹都市の中学生に伝える。
- 郷土の魅力を世界の人々に発信する力を育むため、A L Tに英語で紹介する場面を設定する。また、A L Tから母国の伝統・文化等を紹介してもらうことで、多様な文化を理解し、受容できる態度や資質を育む。

### 5 学習過程（全20時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握 課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	○ これまでの学習を生かして郷土の魅力について意見を出し合い、分類・整理して、自らのテーマを決定する。 ・ 方言 ・ 伝説 ・ まいまいず井戸 ・ 羽村橋のケヤキ ・ 民家（旧下田家）等 自ら発見した羽村市の魅力について、外国の人に紹介しよう。
3～10	個の学び	○ 学校支援地域本部から助言を受けながら、自ら決めたテーマに関するフィールドワーク及びインタビュー活動を行うとともに、関連資料を収集・分析する。 ○ 調査活動の過程や郷土の魅力について、プレゼンテーション資料を作成する。
11～19	学び合い	○ 各自作成したプレゼンテーション資料について友達と交流し、修正する。 ○ 学年発表会を行う。 ○ 類似した発表内容ごとに班を編成し、紹介する事項を決め、英語でどう表現するかについて、外国語科の担当教師から指導を受ける。 ○ 郷土の魅力をA L Tに英語で紹介するとともに、A L Tの母国の伝統・文化等についての説明を受ける。
20	課題解決	○ 学習を振り返り、我が国はもとより他国の文化を大切にするために、自分たちにできることについて話し合う。



## 6 組織的な対応

### (1) 目標共有

「小中一貫教育基本カリキュラム」に基づき、学習指導・生活指導・特別活動・羽村学・人間学・特別支援教育について、中学校区共通の取組を実施することで、児童・生徒に確かな学力及び豊かな心を育む。

### (2) 役割分担【中学校区内の全教師】

全教師が役割を分担し、当該中学校区における小中一貫教育の運営に当たる。

役 割	主 な 取 組	担 当
小中一貫教育担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の小中一貫教育に関する活動の実施状況について把握</li> <li>活動の成果と課題、改善の具体的方策を明らかにし、全教師で共有</li> </ul>	各校の小中一貫教育担当者
分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3回実施</li> <li>全教師が学習指導・生活指導・特別活動・羽村学・人間学・特別支援教育の6分科会に所属し、分科会が担当する活動について計画立案及び運営</li> </ul>	全教師がいずれかの分科会に所属
全体会	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間3回実施</li> <li>各校の全教師で組織。小中一貫教育の取組に関する共通認識をもち、情報交換の実施</li> </ul>	全教師

### (3) 調整・統合【運営委員会】

- 各校の副校長、主幹教諭、教務主任、各分科会の世話人、学校支援コーディネーターにより、運営委員会を組織し、年間10回実施する。
- 校長の指導の下、中学校区における小中一貫教育の運営に当たる。
- 各校における取組状況を踏まえ、よりよい運営の在り方について協議を行う。

## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	的確・多様	第3～10時 郷土の魅力を調べる
<p>生徒は、フィールドワークやインタビュー、関連資料の収集・分析を通して、生活や文化、歴史など、多様な観点から各自のテーマについて考察した。</p> <p>プレゼンテーションシートの作成時には、調査活動で明らかになった郷土の魅力をより効果的に伝えるため、言葉の使い方や構成等を工夫していた。</p>		
言葉が体験に及ぼす作用	共有	第15～19時 プレゼンテーションを行う
<p>説明内容について事前に友達同士で紹介し合い、気付いたことを指摘し合う活動を通して、テーマを多面的に考察し、学年発表会への自信と意欲を高めていった。</p> <p>A L Tへの説明内容は、班ごとに協同で構案することで、英語での表現を可能にした。</p>		



### ◆ 学習の質の高まりや深まり



生徒は、各自のテーマを追究するためにフィールドワークを行うだけでなく、関連資料を収集・分析・活用し、より多面的な考察を行った。友達同士の交流では、自分一人では気付かなかった新たな視点を持ち、あらかじめ考えた説明内容を多角的に捉え修正・補強した上で、学年発表会で発表することができた。

A L Tとの交流では、郷土の魅力を紹介する活動に加え、A L Tの母国の伝統・文化について質問する時間を設けることで、他国の文化を郷土の伝統・文化と比べながら理解し、尊重しようとする意欲と態度を育むことにつながった。

## III 考 察

当該地域では、「小中一貫教育基本カリキュラム」に基づき、生活科と総合的な学習の時間を中心に、郷土の伝統・文化を計画的・系統的に指導している。

本事例では、既習の学習内容を基に、生徒が自らテーマを設け、フィールドワークやインタビュー等を通して学んだ郷土の魅力についてプレゼンテーションシートにまとめた。その内容を友達同士の交流、学年発表会での発表、姉妹都市の中学生との交流、さらにはA L Tとの交流を通して、段階的により広い視野から捉え、修正・補強させ学習過程を設定した。こうしたことが、生徒の学びの質を高めることにつながった。

A L Tとの交流では、説明内容の一部分を英語で語ることを共通課題とし、第3学年での全文を英語で表現する活動へとつなげている。また、生徒が郷土の魅力を紹介するだけでなく、A L Tの母国の伝統・文化と比較して、意見を述べたり質問したりする時間を設けることで、他国の文化を理解し、尊重する態度を育成することに重点を置き、文化交流の基盤づくりを行っている。

資料提供 羽村市教育委員会



# 獅子舞保存会と創る伝統芸能 — 各地区のよさを生かした学校独自の獅子舞 —

小学校 全学年 生活・総合的な学習の時間

## I 学校づくりの流れ

Plan	目指す特色ある学校 (校長)	〈郷土愛を育む学校〉 体験を通して郷土の伝統・文化を学び、継承していく意欲と態度を育む。
	重点項目 (副校長)	○ 地区の伝統芸能を活用した学習活動の充実
	具体策と達成目標 (氷川獅子委員会)	○ 具体策 「氷川獅子舞」に関する学習活動の充実 ○ 達成目標 学校関係者評価における肯定的な評価80%以上
Do	具体策の実施	○ 「氷川獅子舞」の実施計画に基づく学習活動を実施
Check	学校評価	○ 生活科及び総合的な学習の時間における学習実施状況について評価 ○ 保存会の人々と共に、獅子舞に関する新たな取組について協議
Action	次年度に向けた改善	○ 次年度への引継ぎ事項の決定



【氷川獅子舞】

町内10地区の獅子舞を参考に、学校が独自で創作した獅子舞。  
全児童が、獅子頭を冠った獅子方、花笠を冠ったささら方、掛け声を担当する囃子方、篠笛方に分かれて、演奏・演舞を行う。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「自分たちの『氷川獅子舞』をつくろう」

### 2 身に付ける力

- 獅子舞に関する体験活動及び異年齢集団による交流を通して、郷土への誇りと愛着をもち、郷土の一員として生きていこうとする意欲と態度を育む。




### 3 教材化の視点

- 学区を構成する10地区には、それぞれ獅子舞が受け継がれている。当該校では、今年度はA地区、次年度はB地区、というように、各地区の獅子舞を順次対象として学習活動を行っている。また、児童が演舞・演奏できるよう、各地区の獅子舞の特徴を生かした学校独自の「氷川獅子舞」を教師と高学年の児童が協同でつくり、学年ごとに役割を分担して全児童が演舞・演奏を行っている。

### 4 指導上のポイント

- 毎年度、児童は、各地区の保存会の人々から、獅子舞の歴史や特徴などについて学ぶ。また、獅子舞の実演を見学し、演舞や演奏の仕方について直接指導を受ける。こうした活動を通して、児童は、郷土の伝統芸能のよさに気付き、主体的に郷土に関わろうとする態度を育てるとともに、自分の生き方と結び付けて伝統芸能について考える機会を得ている。
- 低学年・中学年・高学年の各グループに分かれ、それぞれ上級生が下級生に「氷川獅子舞」を教える。その際、演舞や演奏のポイントを「氷川獅子マニュアル」(以下「マニュアル」という。)として文章にまとめて活用させることにより、上級生が保存会の人々から学んだ事項を振り返りつつ、下級生に教えることができるようにする。

### 5 学習過程 (全12時間)

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ・ 2	<b>課題把握</b> 課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	○ 昨年度の「氷川獅子舞」のビデオを視聴する。 ○ 今年度取り組む獅子舞の歴史や特徴を知る。 獅子舞に込められた郷土の人々の思いを知り、自分たちの「氷川獅子舞」をつくろう。
3 ・ 5	<b>個の学び</b>	○ 保存会から指導を受ける。その後、各自の演舞・演奏を振り返り、マニュアルを作成する。
6 ・ 10	<b>学び合い</b>	○ 獅子及び篠笛、ささら、囃子方の各グループに分かれ、上級生が下級生に教えながら、練習を行う。  <small>〈第5・6学年〉獅子及び篠笛</small>  <small>〈第3・4学年〉ささら</small>  <small>〈第1・2学年〉囃子方</small>
11 ・ 12	<b>課題解決</b>	○ 運動会で「氷川獅子舞」を披露する。 ○ 保存会の人々を招き、振り返りの会を行う。その際、各児童が、獅子舞をはじめとする町の伝統・文化から何を学び、今後どのように関わっていきたいかをまとめた文集を配布する。

## 6 組織的な対応

### (1) 目標共有

郷土が誇る伝統芸能、獅子舞に関する教育資源を活用し、児童主体の体験活動及び学年相互の交流を充実させることで、郷土の伝統・文化を大切にし、受け継いでいこうとする意欲・態度を育てる。

### (2) 役割分担【氷川獅子委員会】

- 「氷川獅子舞」の構成を考案し、練習計画を立案する。
- 全教師が役割を分担し、各グループの指導を担当する。



役 割	主 な 取 組	担 当
全体指導	獅子舞の特徴を踏まえた「氷川獅子舞」に関する構成の考案 「氷川獅子実行委員」である高学年児童の指導	委員長、保存会担当者 第5・6学年の指導者
獅 子	獅子舞の演舞、マニュアルの作成	第5・6学年の指導者
篠 笛	篠笛の演奏、楽譜の作成	第5・6学年の指導者、専科の指導者
ささら	ささら（楽器）の演奏、マニュアルの作成	第3・4学年の指導者、専科の指導者
囃 子 方	獅子の先導等の動き、掛け声	第1・2学年の指導者、専科の指導者

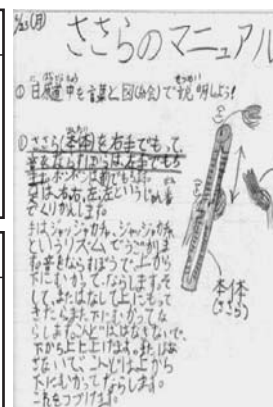
### (3) 調整・統合【毎月1回の氷川獅子委員会】

- 年度初めに、保存会の担当者を招へいして獅子舞について学び、全教師間で指導のポイントについて共通に理解する。
- 各グループの指導を担当する教師が、練習の進捗状況等を「氷川獅子新聞」にまとめる。毎月の委員会では、新聞を活用しながら進捗状況を確認し合い、練習計画の見直しを行う。
- 各マニュアルについて確認するとともに、より適切な内容にするため、協議を行う。



## 7 言葉と体験の相互作用

体験が言葉に及ぼす作用	的確・多様	第3～5時	保存会から獅子舞を教わる
<p>児童は、保存会の人々による実演を見学するとともに、演舞や演奏の仕方を教わることを通して、獅子舞のよさやそこに込められた郷土の人々の思いを知った。</p> <p>演舞や演奏を実際に行ったことで、マニュアルの作成時に、楽器の扱い方等について言い表す言葉、擬音語などを吟味し、読み手により正確に伝わる表現を工夫する姿が見られた。</p>			
言葉が体験に及ぼす作用	認 識	第6～10時	上級生が下級生に教える
<p>児童は、マニュアルを作成・活用しながら上級生が下級生に教える活動を通して、互いに自己の演舞や演奏を振り返り、改善点を自覚するようになっていった。</p> <p>このことが、その後の練習や運動会における、獅子舞の演舞や演奏に対する意欲を高め、質の向上につながった。</p>			



### ◆ 学習の質の高まりや深まり



児童は、マニュアルの作成・活用を通して、体験活動で学んだことを振り返り、自らの課題と改善の方向性に気付き、自発的に練習に取り組む意欲を高めていった。運動会の開催が近付くと、児童は休み時間を使って計画的に練習するようになっていった。

上級生が下級生に教える活動は、児童に自らが伝統・文化の継承者であるとの自覚を促した。また、保存会の人々と獅子舞に対する思いを共有し、郷土への愛着を高めることにもつながった。

毎年度、異なる地区の保存会の人々と触れ合いながら練習を積む中、郷土の一員としての自覚は、着実に高まりつつある。

## Ⅲ 考 察

当该校では、10地区の獅子舞の特徴を生かした学校独自の「氷川獅子舞」を、全児童が演舞・演奏する過程で、郷土の伝統・文化に対する、誇りとともに、受け継いでいこうとする意欲と態度を育成している。

本事例では、保存会の協力を得て「氷川獅子委員会」を設け、全教師が指導上の役割分担を行い、定期的に演舞・演奏に関する指導の進捗状況や課題を共有した。指導の内容や方法を調整することで、より効率的・効果的な取組を行うことが可能になった。

また、保存会の人々から直接指導を受ける体験活動や、異年齢集団による交流を繰り返し設定した。上級生が下級生に教えるに当たっては、児童自らが作成したマニュアルを活用した。児童は、保存会の人々から学んだ事項を文章に書き表す中で、読み手により正しく伝わるよう、推敲を何度も繰り返していた。

マニュアルの作成・活用が、児童の言葉と体験の相互作用を一層促進させた。

資料提供 奥多摩町教育委員会

# 武蔵野うどんを新潟へ — プレセカンドスクール(長期宿泊体験)で広める —

小学校 第3学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈社会に貢献する人材を育む学校〉

郷土の伝統・文化を他の地域に広める学習活動を通して、郷土愛を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「小麦を育てよう」


### 2 身に付ける力

- 武蔵野うどんに使われる小麦を収穫する体験活動を通して、郷土の伝統・文化を大切にすることを育む。

### 3 教材化の視点

- 当該校では、商工会議所・J A東京むさし武蔵野支店の人々の指導の下、武蔵野うどんに関する体験活動を行っている。児童が、小麦を収穫したり、武蔵野うどんの歴史や特長を調べたりすることを通して、郷土の食文化を大切にし、武蔵野うどんを広めようとする意欲と態度を育む。

### 4 学習過程(全14時間)

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	課題発見、 課題設定の ための体験 活動	○ 農家の人から指導を受け、 小麦の収穫及びはざかけを 行う。 
4	課題把握	○ 武蔵野うどんが有名になった理由を考え、 学習課題を設定する。 ○ 武蔵野うどんの歴史や特長を調べる。 武蔵野うどんの特長を調べ、他の地域の人々 に紹介しよう。
5 ～ 10	個の学び ↓ 学び合い	○ 農家の人にインタビューを行い、小麦を作っ ている理由及び工夫や努力について話を聞く。 ○ 武蔵野うどんや小麦について調べたことを 各自新聞にまとめる。 ○ 友達と新聞を読み合い、よい点や改善点を 伝え合う。
11 ～ 14	課題解決	○ 各自の新聞を学級でまとめ、次年度、プレ セカンドスクール(宿泊体験)で世話になる 農家や役場の人々に送る。 ○ 学習を振り返り、感想を伝え合う。

※ 関連教科等：国語、社会、理科、道徳



【武蔵野うどん】

原料の小麦粉は、武蔵野台地で生産されたものを使用している。武蔵野台地は、浸水量が多く、かねてから水田を使用する米より小麦の生産が盛んである。手打ちうどんを「糧」と呼ばれるゆでた野菜などの具材と共に、だし汁につけて食べる。

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜収穫やはざかけを行う＞

児童は、収穫やはざかけの体験を通して、「こんなに大変だとは思わなかった。」と感想をもらし、生産農家の苦労や努力に思いを馳せていた。

その後、農家の人から小麦作りに関する工夫や努力について話を聞く際、各自の体験と結び付け、うなずきながら聞き入る児童の姿が多く見られた。



### 言葉が体験に及ぼす作用 共 有

#### ＜新聞にまとめ、紹介する＞

児童は、体験したことや調べたことを新聞にまとめ、友達と読み合うことで、郷土に対する思いを共有した。

次年度のプレセカンドスクールで世話になる他の地域の人々に対しても、郷土のよさを紹介したい、という思いを強めていった。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈プレセカンドスクールを中核とした体験活動の充実〉

学校・家庭・地域が連携を図り、郷土の教育資源を活用した体験活動を充実させる。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	農業体験の充実を図り、郷土の食文化を大切にする態度を培う。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画の作成及び説明、農家等との連絡・調整、給食指導 など
	家庭 武蔵野うどんを食する機会及び小麦について話題にする機会の設定 など
	地域 商工会議所、農家及びJ Aによる指導・助言 など
調整・統合 【開かれた学校づくり協議会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 年度当初、保護者会及び開かれた学校づくり協議会において、学習指導計画及び内容について説明し、意見を求める。</li> <li>◆ 「市民性を高める教育」に関する全体計画に基づき、プレセカンドスクールにつなぐファーストスクール(日常の学校生活)の体験活動を充実させるよう、全教師が共通理解する。</li> </ul>

資料提供 武蔵野市教育委員会



# プロから学ぼう！ 郷土の囃子 — 新川囃子を学び、地域に広める —

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土を愛し、誇りに思う児童を育む学校〉

郷土に伝わる伝統芸能を学ぶことを通して、郷土愛を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「新川囃子を学び、広めよう」

### 2 身に付ける力

- 保存会の人々から囃子の動きやリズムを学んだあと、児童同士で教え合い、学習発表会で演舞することを通して、伝統芸能を大切にする心を育む。

### 3 教材化の視点

- 学区域では、新川囃子を伝承する人が減少している。そこで、当該校では、保存会の人々の指導の下、児童が囃子を受け継ぐことができるシステムを構築した。児童は、保存会の人々から指導を受けたあとで、友達と教え合い、学習発表会や地域行事の開催会場で演舞することを通して、囃子を大切にしようとする意欲を高める。

### 4 学習過程（全8時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保存会の人々から囃子の動きやリズムについて話を聞いたり、実演を見学したりする。</li> <li>○ 各自担当を決める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太鼓、笛、おかめ、ひょっこ、獅子舞</li> </ul> </li> </ul> <p>新川囃子を守り広めるために、学習発表会や地域の行事を成功させよう。</p>
2・3	個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新川囃子の歴史を調べる。</li> <li>○ 保存会から指導を受け、各自練習する。</li> </ul>
4・5・6	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当グループごとに練習を行う。</li> <li>○ 全体練習を行い、改善点について話し合う。</li> <li>○ 再度、保存会から指導を受ける。</li> </ul>
7・8	課題解決 課題解決した内容を生かすための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習発表会で披露する。</li> <li>○ 指導を受けた保存会の人々に感謝の気持ちを伝える手紙を書く。</li> <li>○ 地域行事で披露するとともに、地域の人々と囃子について話をする。</li> </ul>

※ 関連教科：社会、音楽、体育



【新川囃子】

江戸時代から続く新川囃子。目黒囃子や連間船橋流を汲む囃子と言われている。

現在では、新川天神社祭礼をはじめ、種々の地域行事で演じられ、平成5年に三鷹囃子（大沢）と共に三鷹市の文化財指定を受けた。

### 言葉が体験に及ぼす作用

### 共 有

#### ＜友達と教え合う＞

全体練習を行う中、児童同士が「今の動きは、太鼓のリズムに合っていない。音をよく聞こうよ。」などと助言し合う姿が見られた。保存会の人々の言葉を思い出しながら交流することで、新川囃子の特徴の一つであるリズムを共有することができた。

その後の練習では、従前に増してリズムに気を付け、演舞しようとする姿が見られた。



### 体験が言葉に及ぼす作用

### 実 感

#### ＜囃子を披露する＞

学習発表会における演奏・演舞に対して、郷土の人々から称賛の声が多く寄せられた。児童は、囃子の魅力を再認識し、今後も演奏・演舞を行っていきたいという思いを強めた。

本単元の学習を終えたあとも、自ら進んで地域行事に参加し、囃子を披露する姿が複数見られた。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校、家庭、地域が協同して育む伝統芸能を受け継ぐ心〉

学校、家庭、地域が連携を図り、郷土の伝統芸能に関する学習活動を充実させる。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	新川囃子に関する学習活動を通して、囃子を受け継いでいこうとする心を育てる。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画の作成及び説明、家庭及び保存会との連絡調整 など
	家庭 地域行事への参加の依頼、囃子に関する授業での支援 など
	地域 地域行事で新川囃子を披露する場面の設定、学習発表会への参加 など
調整・統合 【学校運営協議会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 管理職が新川囃子に関する学習内容について説明し、保存会及び地域の協力を依頼する。</li> <li>◆ 小・中一貫カリキュラムの学習領域である「地域に関する課題」に、新川囃子の学習活動を位置付け、全教師が計画的に指導を行えるようにする。</li> </ul>

資料提供 三鷹市教育委員会

# 郷土の人が作った私たちの曲 — 武蔵国府太鼓を地域行事で演奏 —

小学校 第4～6学年 クラブ活動

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土に対する愛着と誇りを育む学校〉

保存会等と連携し、本物に触れ親しむことで、郷土への愛着と誇りを育む。

## II 活 動

### 1 クラブ活動 「太鼓クラブ」

### 2 身に付ける力

- 武蔵国府太鼓保存会の人々の指導を受け、学校独自の曲を地域行事等で演奏することを通して、郷土や自校を愛する心を育む。

### 3 教材化の視点

- 当該校では、第3学年の社会科において、武蔵国府太鼓について学習している。太鼓クラブでは、保存会の人々が作曲した学校独自の曲「〇〇小夢太鼓」、「〇〇小幸流太鼓」を地域行事等で演奏することで、郷土や自校を愛する心を育む。

### 4 活動過程（全20時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握	○ 前年度の地域行事の演奏の映像から、気付いたことや感じたことを話し合う。 観客を感動させる演奏をしよう。
3・10	個の学び	○ どのような演奏を目指したいか、どのような曲を演奏したいかを考え、話し合う。 ○ 保存会の人から、演奏の指導を受ける。 ○ 自分のパートを練習する。
11・17	学び合い	○ パートごとに、演奏のよい点や改善点を話し合う。 ○ 全体で練習を行う。
18・19	課題解決	○ 学校独自の楽曲や府中市に関わる楽曲を演奏する。 ○ 運動会などの学校行事で演奏する。 ○ 地域行事で演奏する。
20	課題解決した内容を生かすための体験活動	○ 活動を振り返り、次年度に向けての改善点等をまとめる。

※ 関連教科等：社会、道徳、特別活動



【武蔵国府太鼓】

武蔵国府太鼓は、府中に新しい郷土芸能をつくりたいとの願いから、昭和57年に創作された。自然、歴史、風土を盛り込んだ、全5曲から構成されている。

### 言葉が体験に及ぼす作用

### 認 識

#### ＜パートごとに教え合う＞

児童は、保存会の人から指導を受け、太鼓に対する思いを幾度となく聞いたあとで、パートに分かれ、太鼓の叩き方などについて助言し合った。

保存会の人々の思いをどう演奏に生かすか、話し合いを重ねたのち、意欲的に練習に取り組んだ。



### 体験が言葉に及ぼす作用

### 的確・多様

#### ＜地域で演奏を披露する＞

学校行事等で演奏を複数回披露する中、児童は太鼓を正しく叩くだけでなく、そこに込めた思いを表現したいと願うようになっていった。このことは、活動を振り返る際、次年度に向けた改善点として、「演奏に込める思いを全員で確認し、それが十分に観客に伝わるよう、練習を積み重ねたい。」という記述につながった。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈郷土の伝統芸能に関する学習活動に継続的に取り組ませるための指導体制の確立〉

特別活動部が中心となり、全教師が関わる指導体制を構築する。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	郷土の伝統芸能に関する学習活動を推進し、郷土や自校を愛する心を育む。
役 割 分 担 【学校管理職、特別活動部 クラブ活動顧問、学年・学級担任】	学校管理職 保存会や地域行事に関する関係諸機関に協力依頼 指導の進捗状況の把握 など
	特別活動部 年間活動計画の作成、各地域行事への引率者の調整 など
	クラブ活動顧問 地域行事や学校行事での演奏披露に向けた練習計画の作成及び指導 など
	学年・学級担任 武蔵国府太鼓に関する学習指導 当日の引率 保護者への連絡 など
調整・統合 【特別活動部】	◆ 特別活動部が年間活動計画を作成する。児童への指導、保護者への連絡や地域行事の引率など、業務の調整を図ることで、継続的・組織的な取組を行う。

資料提供 府中市教育委員会

# ふるさとの味を守る — 深大寺そば作り —

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈よりよい社会の担い手を育む学校〉

郷土の伝統・文化を生かした学習活動を通して、よりよい社会の担い手に必要な資質・能力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「そば作りにチャレンジ！」

### 2 身に付ける力

- そばについて調べたり、そばを作ったりする活動を通して、郷土に伝わる食と健康との関わりなどについて考え、よりよい生活環境づくりについて考える力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 深大寺周辺は豊かな自然と湧水に恵まれ、参道や寺の近隣には、多くのそば屋が立ち並んでいる。神代植物公園分園における水生植物園の一角で行うそばの栽培と、深大寺そば組合の指導の下で行うそば打ち体験を通して、郷土の味を守るとともに、自分の食生活を見つめ直すとする意欲と態度を育成する。

### 4 学習過程（全32時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1・2	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そば組合が実施するそばの種まき（春まき）を見学し、興味をもつ。</li> <li>○ 自分の課題をもち、学習計画を立てる。</li> </ul>
3～10	個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 深大寺そばの歴史や由来、栄養、そばの育て方や打ち方などについて調べる。</li> <li>○ そば職人にインタビューを行う。</li> <li>○ 調べたことを発表する。</li> </ul>
11～30	学び合い 再構築した自己の考えを広げ、深めるための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そば組合の指導の下、そばを育てる。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そばの種まき（秋まき）をする。</li> <li>・ そばの成長の様子を観察する。</li> <li>・ そばを収穫する。</li> <li>・ そばの実を石臼で挽き、そば粉にする。</li> </ul> </li> <li>○ そば職人の指導を受け、そば打ちを行う。</li> <li>○ そばをゆでて、食べる。</li> <li>○ そば職人から伝統の味を守ってきた努力や健康食としてのそばの話を聞く。</li> </ul>
31・32	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習を振り返り、自分の食生活を見直すとともに、改善策を考え、報告書にまとめる。</li> </ul>

※ 関連教科等：国語、社会、理科



【深大寺そば】

江戸時代、稲作に向かない土地のためにそばを作り、米の代わりにそば粉を寺に納めた。寺でそばを打って来客をもてなしたのが、始まりと伝えられている。

### 言葉が体験に及ぼす作用

### 認 識

#### 〈そばについて調べる〉

児童は、深大寺そばの歴史や特徴、そば作りが盛んになった理由などについて調べ、そば職人にインタビューを行った。そうした活動を通して、そばが体によいことに気付き、そば作りに対する意欲を高めていった。

### 体験が言葉に及ぼす作用

### 実 感

#### 〈そばを作って食べる〉

児童は、そば組合の指導を受けながら、種まき、収穫、石臼粉ひき、そば打ちなど、そば作りの体験を行ったのち、自分たちで打ったそばを食べた。一連の過程で、そばのおいしさや栄養について理解を深めるとともに、伝統の味を守り続けてきた人々の努力や極めて優れた健康食としてのそばのよさに気付き、報告書にまとめた。



## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校・家庭・地域が協同して伝統・文化に関する学習活動を推進〉

郷土の伝統・文化に関する探究的な学習を通して、食と健康について考察し、自分の生活を見直す。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	そば作りに関する学習活動を通して、食と健康について学び、自分の生活を見直す。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画の作成・説明及び学習の進捗状況の把握・説明 など
	家庭 そばの栄養価等に関する知識について親子で学ぶ機会の設定 など
	地域 そば組合及びそば職人による指導 など
調 整 ・ 統 合 【保護者会・学校支援本部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全教師が学校支援本部と定期的に連携を図り、郷土の人材を活用した学習活動を推進する。</li> <li>◆ 年度初めに、学年担当者が、学習指導計画及び内容について、そば組合の人々と協議する。</li> <li>◆ 年度初めの保護者会において、学年主任が、家庭における食生活を児童と共に見直す機会を設定するよう依頼するとともに、学期末保護者会において、学習に係る進捗状況について報告し合う。</li> </ul>

資料提供 調布市教育委員会



# 史跡 武蔵国分寺跡の魅力を大公開 ― フィールドワークを通して ―

中学校 第1学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈社会の形成者としての資質・能力を育む学校〉

郷土の伝統・文化について探究する学習活動を通して、自ら課題を発見し解決する力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「国分寺調査！」

### 2 身に付ける力

- 郷土の人々に指導を受けながら、フィールドワークを基に各自の課題を追究することを通して、よりよい町づくりに向け、課題を解決する力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 当学校では、国分寺ふるさと文化財愛護ボランティア・ハケの自然を守る会（以下「自然を守る会」という。）の指導を受け、史跡武蔵国分寺跡（以下「史跡」という。）のフィールドワークを実施している。

生徒が追究した史跡の魅力を保護者や郷土の人々に伝える発表会を設定することで、課題を解決する力を育むとともに、郷土に対する誇りと愛着を高める。

### 4 学習過程（全27時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 3	<b>課題把握</b>	○ 史跡について知っていることを話し合い、学習課題を設定する。 史跡武蔵国分寺跡の魅力を調べ、地域の人々に伝えよう。
4 ～ 14	<b>課題に対する自己の考えを構築するための体験活動</b>	○ 課題解決に向け、学校図書館、施設等の資料から必要な情報を収集し、調べる。 ○ 自然を守る会の指導を受けながらフィールドワークを行う。
15 ～ 20	<b>個の学び</b>	○ 更に疑問に思ったことを調べるとともに、各自レポートを作成する。
21 ～ 25	<b>学び合い</b>	○ レポートを読み合い、各自が伝えたい史跡の魅力について交流する。 ○ 保護者・地域の人々を招待し、史跡の魅力を伝える会を行う。
26 ～ 27	<b>課題解決</b>	○ 学習を振り返り、史跡の魅力を守るため、自分にできることを考える。

※ 関連教科等：社会、道徳



【史跡武蔵国分寺跡】

奈良時代に聖武天皇の詔により建立される。古代官道沿いの東に僧寺、西に尼寺が配置される国指定史跡。全国の国分寺の中でも規模が大きい。

武蔵国分寺の伽藍（がらん）は、元弘3年（1333年）の分倍河原の合戦の際に焼失したと伝えられており、現在は、歴史公園として整備・活用するための事業が進められている。

### 体験が言葉に及ぼす作用 的確・多様

#### ＜史跡のフィールドワークを行う＞

生徒は、自然を守る会の人々の説明を聞きながらフィールドワークを行うことで、郷土の人々の史跡を守り続けてきた思いや、未来に向けた願いを理解した。

レポートの作成時には、フィールドワークの前に調べたことと実際に見たり触れたりしたこととを結び付けながら、自らの発見や新たな疑問について記述する姿が見られた。



### 言葉が体験に及ぼす作用 認識

#### ＜史跡の魅力を伝えるレポートを作成する＞

自ら発見した史跡の魅力について、表現を工夫しながらレポートにまとめる過程で、生徒はより多くの地域の人々に魅力を伝えたい、史跡を守っていききたい、という思いを高めていった。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校・家庭・地域が史跡武蔵国分寺跡の魅力について共有することで、課題を解決する力を育成〉

生徒が史跡武蔵国分寺跡について学び、史跡を守るために、それぞれの立場でできることを考える。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
<b>目標共有</b>	自ら発見した史跡の魅力を伝えることで、郷土の一員として自分にできることを考えさせる。
<b>役割分担</b> 【学校・家庭・地域】	<b>学校</b> 学習指導計画の作成及び説明、家庭及び地域との連絡調整 など
	<b>家庭</b> 市報等の関連記事の子供と読み合い、史跡の魅力を伝える会への参加 など
	<b>地域</b> フィールドワークにおける指導、史跡の魅力を伝える会への参加 など
<b>調整・統合</b> 【保護者会・教科等部会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 保護者会で史跡に関する学習内容について説明し、家庭で市報等の関連記事を親子で読み合ったり、史跡について話題にしたりすることなどを依頼する。</li> <li>◆ 夏季休業期間を活用し、教師自ら史跡のフィールドワークを体験し、教師間の引継ぎを円滑に行えるようにする。</li> </ul>

資料提供 国分寺市教育委員会

# 全学年が取り組む「生き方学習」 — 小足立囃子の継承活動から生き方を学ぶ —

中学校 全学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈よりよい生き方を学ぶ学校〉

郷土の専門家から郷土の伝統・文化を学ぶ過程で、よりよい生き方について考えを深める。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「自分の生き方を見つめよう」

### 2 身に付ける力

- 郷土の専門家が講師となる体験活動を通して、働くことの意義や自分の生き方について考える力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 当该校では、平成14年度から、全学年において総合的な学習の時間で「生き方学習」に取り組んでいる。郷土における様々な専門家を講師として、毎年15講座前後を開催する。生徒は、自分の興味・関心に応じた講座を選択し、様々な体験及び交流活動を通して、自分が就きたい職業及び自己の生き方について考える。3年間で3講座を経験し、専門家との交流を通して郷土に対する愛情を深める。

### 4 学習過程（全5時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題把握 ↓ 課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽の学習を生かして、伝統芸能に関する学習課題を設定する。</li> <li>○ 伝統芸能を学び、自分の将来の生き方に照らして、その価値について考えよう。</li> <li>○ 小足立囃子について知っていることや調べたいことを発表し合う。</li> </ul>
2・3	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保存会の獅子舞を見学し、囃子で使用する和楽器に関する説明を聞く。</li> <li>○ 太鼓のリズムを学び、演奏する。</li> <li>○ 保存会の人々にインタビューを行い、小足立囃子に込められた願いや思いに気付く。</li> </ul>
4	↓ 個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの学習を振り返り、保存会の人々の生き方に対して感じたことや自分の将来への考えをまとめる。</li> </ul>
5	↓ 学び合い ↓ 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級で報告会を行い、互いの考えを発表し合う。</li> <li>○ 自分の生き方について、更に探究する。</li> </ul>

※ 関連教科等：音楽、道徳



### 【小足立囃子】

小足立囃子は、目黒囃子の船橋流を継承する祭囃子で、明治の中頃から盛んに行われるようになった。

現在は、八幡神社の祭礼や11月の狛江市民まつりにおいて披露されている。

### 「生き方学習」講座【例】

- 季節の日本料理
- 琉球古武道
- 絵手紙
- 伝統芸能「小足立囃子」
- 日本茶
- 折り紙
- 朗読教室
- 俳句
- など

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜小足立囃子を演奏する＞

生徒は、保存会の人々の指導を受け、小足立囃子の太鼓の打ち方を学んだ。子供の頃から親しんできた太鼓のリズムを自ら太鼓を打つことで体感していった。そうした体験が、保存会の人々の囃子への思いに対する理解を深めた。



### 言葉が体験に及ぼす作用 認 識

#### ＜生き方に関する意見交換を行う＞

小足立囃子の演奏を通して学んだことについて友達と交流することで、生き方に対する自己の考えを広げることができた。そのことは、次年度の「生き方学習」への意欲を高めることにつながった。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校・家庭・地域が協同して、多様な体験活動の場を設定〉

郷土の人材を活用した体験及び交流活動を通して、自らの生き方を考えさせる。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	多様な体験活動を設定し、生徒に自らの生き方を考えさせる。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画及び実施計画の作成、全教師が分担して1講座を担当 講師の募集、担当する講座の講師との打合せ、会場、道具の調整 など
	家庭 職業や講座の内容について親子で話し合う機会の設定、講座のボランティア など
	地域 担当教師との打合せ及び事前準備、講座における指導 など
調整・統合 【進路指導部会・保護者会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 進路指導部において、全教師が協働して取り組むための実施計画案を策定する。</li> <li>◆ 年度初めの保護者会で、「生き方学習」について説明し、協力を依頼する。</li> <li>◆ 各担当教師が、講座の成果及び課題、講師の要望等を記録し、次年度に引継ぐ。</li> </ul>

資料提供 狛江市教育委員会

# 自分たちで地場産小麦の栽培・加工 — 柳久保小麦を使ったうどん作り —

小学校 第5学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈健やかな社会の担い手を育成する学校〉

郷土の伝統・文化の学びを生かし、健やかな社会の担い手に必要な資質・能力を育む。

## II 授業づくり

- 1 単元名 「自分たちで柳久保小麦を育て、うどんを作ろう」
- 2 身に付ける力
  - 地場産の小麦の栽培やうどん作りを通して、食と健康の関わりについて追究する意欲と態度を育成する。
- 3 教材化の視点
  - 小麦の生産農家及び市役所の職員など、郷土の人々と交流しながら小麦を栽培・加工する活動を通して、食と健康の関わりについて調べ、柳久保小麦のよさを広めるために自分たちでできることを考える。
- 4 学習過程（全15時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 柳久保小麦の特長について知る。</li> <li>○ 市役所の職員から、柳久保小麦の特産品としていこうとしている説明を聞く。</li> </ul>
2 ～ 5	課題発見、課題設定のための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農家の人から、小麦の栽培方法や生産理由などについて説明を受ける。</li> <li>○ 栄養士から説明を受け、柳久保小麦の栄養価が高く、うどんは消化によいことなどを知る。</li> <li>○ 柳久保小麦うどん作り保存会の人々の指導の下、自分たちで栽培した小麦を使ったうどん作りを行う。</li> </ul>
6 ～ 10	課題把握 ↓ 個の学び ↑ ↓ 学び合い ↓ 課題解決	<p>柳久保小麦のよさを広めるために、自分たちでできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土の特産品として広めるためのアイデアを出し合い、自分たちにできることを考える。</li> <li>○ これまで学んだことや柳久保小麦に対する自分の思いを郷土の人々に発信するため、リーフレットを作成する。</li> </ul>
11 ～ 14	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自が作成したリーフレットを基に、班で協同してリーフレットを完成する。</li> </ul>
15	課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 完成したリーフレットを市役所や農家に届けるとともに、感想を聞かせてもらう。</li> </ul>

※ 関連教科等：国語、社会、道徳



【柳久保小麦】

柳久保小麦は、倒れやすく、収量が少ないことから、一時期、「幻の小麦」となった。最近では年々増産され、うどん、パンなどの原料として使われており、市を代表する特産品になりつつある。柳久保小麦で作ったうどんは、香りがよい。

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜小麦を育て、うどんを作る＞

児童は、農家の人から小麦を生産する上での苦労話を聞き取ったあと、自ら栽培・収穫した小麦でうどんを作って食べた。食する際には、「香りのいい、こしのあるうどんだね。」と自分なりにうどんの特長を言い表していた。こうした体験を踏まえ、児童たちは、うどんにすると香るという柳久保小麦のよさを多くの人に知ってほしいという思いを高め、リーフレットの作成に意欲的に取り組んだ。

### 言葉が体験に及ぼす作用 共 有

#### ＜リーフレットで発信する＞

リーフレットを作成する過程で、児童は、小麦のよさを分かりやすく伝えるためにはどのように書き表せばよいか、繰り返し話し合った。リーフレットの完成時には、「一日も早く郷土の人々に届けたい。」と教師に伝える児童も現れた。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈地域の教育資源を生かした食に関する指導の充実〉

柳久保小麦及び地場産野菜を活用して、食と健康の関わりについて追究する意欲と態度を育成する。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	郷土の農作物を大切に、食と健康の関わりについて追究する意欲と態度を育成する。
役 割 分 担 【生活指導部会】	生活指導主任 食育の全体計画に基づく、農家等と連絡・調整 など
	給食主任 郷土の農作物を材料とした給食の献立を作成、提供 など
	担 任 郷土の農作物を生かした、食と健康の関わりについて追究させる学習指導の実施 など
調整・統合 【企画調整会議】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 年度初めに、各学年の学習活動の実施時期や指導内容、地域との連携について調整する。</li> <li>◆ 毎月、指導実践の進捗状況を報告し合い、課題とその解決の方策について協議する。</li> </ul>



資料提供 東久留米市教育委員会



# 稲城の里山を未来へ — 40年続いている地域との連携 —

小学校 全学年 生活・総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈地域の未来を考え、行動する力を育む学校〉

伝統・文化を生かした学習を通して、郷土を持続発展させていく意欲と態度を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「里山を未来につなげよう」

### 2 身に付ける力

- 里山での稲作体験に関する探究活動を通して、自分と自然の関わり方を考え、郷土を大切にしようとする態度を育てる。

### 3 教材化の視点

- 当該校は、古くからの里山や雑木林が保たれている地区にある。こうした特徴を生かし、谷戸の棚田を借り受け、農家の指導の下、育苗、田植え、稲刈りなどの稲作の各過程を学年ごとに分担し、毎年米作りを行う。
- 第6学年で稲刈りを担当することで、全過程を体験したことになる。こうした稲作体験を通して、児童は、人や自然とのつながりや里山文化について追究するとともに、郷土を大切にしようとする態度を養う。

### 4 学習過程（全12時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1	課題発見、課題設定のための体験活動	○ 第5学年までの学習を振り返り、稲刈りを行うに当たり、疑問点を出し合う。
2 3 4 5		○ 疑問点について、農家の人の指導を受け、稲刈りを体験する。 ○ 刈った稲をはざがけする。
6 7	課題把握 ↓ 個の学び ↑ 学び合い ↓	里山を残していくために、大切にしたいことについて考えよう。 ○ 下級生に向け、これまでの学習を振り返り、米作りに関する調査報告文を書く。 ○ 書いた文章を友達と読み合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
8		○ 学級内で、「里山を残していくために、大切にしたいこと」について、考えを伝え合う。 ○ 6年間指導を受けた農家の人に対する感謝の気持ちを伝えるために、どのような収穫祭を行うか、考える。
9 10	課題解決	○ 収穫祭の準備を行う。
11 12		○ 全学年で収穫祭を行う。

※ 関連教科等：国語、理科、社会、道徳、特別活動



【稲城の里山】

稲城の丘陵部は、多摩ニュータウンに代表される土地開発が進行中である。

この地域には、谷戸の恵みを受け、代々土地を切り開いた昔ながらの里山が残されている。豊かな土壌と水源により、古くから稲作など農業が盛んである。

### 体験が言葉に及ぼす作用

### 的確・多様

#### ＜稲刈りを行う＞

児童は稲刈りを体験する際、干すことにより、稲が太陽の影響を大きく受けることを実感した。

調査報告文には、農家の人から、天日干しすることで米がおいしくなると教わったことを関連させ、「太陽の恵みに感謝したい。」という記述が見られた。



### 言葉が体験に及ぼす作用

### 認識

#### ＜調査報告文を書く＞

児童は、調査報告文に、体験を通して知った豊かな土壌や水源等について書き表していた。

そうしたことから児童は、収穫祭で下級生や指導を受けた農家の人に学習の成果を伝えることを楽しみにしつつ、発表内容及び方法を一層工夫した。

## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校・家庭・地域が共に取り組む持続発展教育〉

郷土の教育資源を生かした探究的な活動を通して、郷土を大切にしようとする態度を培う。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	米作りに関する学習活動を通して、郷土を大切にしようとする態度を培う。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画の作成・説明及び学習の進捗状況の把握・説明 など
	家庭 里山のよさ、里山を残していくための取組を、親子で話題にする機会の設定 など
	地域 農家の人を中心とした、地域の稲作指導担当者の決定 など
調整・統合 【地域稲作担当・保護者会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 年度初めに、副校長が地域の稲作指導担当者と学習指導計画及び内容について協議する。</li> <li>◆ 全教師が、PTA役員と地域の稲作指導担当者と連携を図り、学習指導を行う。</li> <li>◆ 保護者会において、家庭での取組や収穫祭への協力を依頼するとともに、家庭で行える具体的内容について協議する。</li> </ul>

資料提供 稲城市教育委員会

# 保谷梨ブランド化計画 — 新作スイーツの開発・宣伝 —

小学校 第6学年 総合的な学習の時間

## I 目指す特色ある学校

### 〈新たな伝統・文化を創造する学校〉

地域ならではのよさを生かし、児童自ら新たな伝統・文化を創造する力を育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名 「保谷梨プロジェクト」

### 2 身に付ける力

- 保谷梨の特長を調べ、農家及び商店街の人々と交流することを通して、特産品としての価値を伝えるためにできることを考え、友達と協力して実行する力を育成する。

### 3 教材化の視点

- 当該地区では、約30年前から保谷梨を栽培しており、農家には特産品として広めたいという願いがある。こうした背景を踏まえ、学校で農家や商店街の協力を得て、児童が保谷梨の特長などを調べ、効果的に宣伝するための方法を考え、実行する学習活動を設定することを通して、郷土の一員としての自覚を育む。

### 4 学習過程（全50時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 ～ 17	<b>課題把握</b> 課題に対する自己の考えを構築するための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農家の見学等を通して、保谷梨の特長、栽培の工夫等について調べる。</li> <li>○ インタビューを通して、保谷梨に対する農家の人々の思いを知る。</li> </ul> <p>郷土の特産品である保谷梨を宣伝し、保谷梨のよさを多くの人に知らせよう。</p>
18 ～ 42	<b>個の学び</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保谷梨のよさを多くの人々に伝える方法をえる。</li> <li>○ 地域のパン職人やパティシエから指導を受けながら、保谷梨のよさを生かしたパンや菓子などの商品を開発する。</li> </ul>
43 ～ 47	<b>学び合い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開発した商品の魅力を伝えるためのチラシやポスターを製作する。</li> <li>○ チラシやポスターを活用し、商品を宣伝する。</li> </ul>
48 ～ 50	<b>課題解決</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域住民を対象にアンケート調査を実施し、宣伝効果を検証する。</li> <li>○ 学習を振り返り、今後、自分にできることを考え、農家及び商店街の人々に伝える。</li> </ul>

※ 関連教科等：国語、算数、図画工作、家庭、道徳



### 【保谷梨】

西東京市の特産品の一つ。武蔵野の豊かな緑で育て上げられた「保谷梨」は、木になったまま完熟させる。

5月に摘果を繰り返し、実の大きいものを育てている。そのため大玉で甘いのが特長である。

### 体験が言葉に及ぼす作用 実 感

#### ＜商品を開発する＞

児童は、商品を開発するために試作品を作り、試食する体験を積み重ねた。

そのことにより、チラシやポスターを製作する際、保谷梨の特長などについて「ほかの梨よりさっぱりした甘さ」、「みずみずしさがパン生地とマッチ」などといった多様な表現を生んだ。



### 言葉が体験に及ぼす作用 共 有

#### ＜商品の魅力を伝える＞

チラシやポスターを製作する過程で、児童は開発した商品の魅力を再確認し、キャッチコピーを考案した。

商品の魅力をキャッチコピーにまとめる活動は、その後、児童が商品を宣伝する意欲を高めた。



## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校・家庭・地域が協同して育む郷土を愛する心〉

郷土の教育資源を活用して、児童に郷土を愛する心を育む学習活動を充実させる。

「チーム」としての対応	主 な 内 容
目 標 共 有	保谷梨に関する学習活動を通して、児童に郷土の一員としての自覚を育む。
役 割 分 担 【学校・家庭・地域】	学校 学習指導計画の作成・説明及び学習の進捗状況の把握・説明 など
	家庭 保谷梨を食する機会及び梨を用いた調理を行う機会の設定 など
	地域 農家及び商店街の人々による指導 など
調整・統合 【保護者会・学校評議員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 年度初めの保護者会及び学校評議員会で、学習指導計画及び内容について協議する。</li> <li>◆ 毎回の保護者会で、学級担任が学習の進捗状況について説明するとともに、家庭における親子での取組（梨の試食、試作品の開発等）について提案する。保護者は、家庭での児童の様子などを報告し合い、学習の成果と課題を共有する。</li> </ul>

資料提供 西東京市教育委員会

# 「鳳凰の舞」を引継ぎたい！ — 江戸時代から続く重要無形民俗文化財 —

小学校 第3学年 社会

## I 目指す特色ある学校

### 〈郷土の伝統・文化の担い手を育てる学校〉

伝統芸能を学ぶ体験活動を通して、郷土への愛着と誇りを育む。

## II 授業づくり

### 1 単元名

「わたしたちの町に受け継がれる 鳳凰の舞」

### 2 身に付ける力

- 町が祭礼の準備を行う時期に演舞を体験したり、継承者にインタビューしたりすることを通して、郷土への誇りと愛情を育てる。

### 3 教材化の視点

- 学区域には、重要無形民俗文化財の一つである鳳凰の舞がある。  
祭礼の準備を行っている時期に保存会の人々から、演舞の指導を受けたり、自ら調べたりしたことを文章にしてリーフレットにまとめることで、鳳凰の舞を生んだ郷土や守ってきた人々の願いを理解し、郷土への愛着や誇りを育てる。

### 4 学習過程（全7時間）

時	問題解決の過程	学 習 活 動
1 2	課題把握 ↓ 個の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域行事について知っていることを発表する。</li> <li>○ 鳳凰の舞の映像を見て、感じたことを話し合う。</li> </ul> <p>鳳凰の舞を受け継いでいる人たちは、どのような思いをもっているのだろう。</p>
3 4 5	↓ 学び合い ↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保存会の人々の話を聞き、鳳凰の舞について理解するとともに、演舞の指導を受け、舞の型の意味や演舞のポイントを知る。</li> <li>○ 郷土の人々への取材を通して、鳳凰の舞を継承・保存してきた人々の思いを知る。</li> </ul>
6	↓ 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鳳凰の舞について調べたことを基に、鳳凰の舞を紹介するリーフレットを作成する。</li> </ul>
7	課題解決した内容を生かすための体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域行事の準備に参加する。</li> <li>○ 準備に参加したときの感想を話し合う。</li> <li>○ 実際に祭礼で踊った児童に、感想を発表してもらう。</li> <li>○ 今後も残していきたいことや伝えたいことを話し合い、リーフレットを完成させる。</li> <li>○ 郷土の人々にリーフレットを配布する。</li> </ul>



【鳳凰の舞】

鳳凰の舞は、上方から伝わった雨乞い踊りに、祇園囃子と風流踊りが結び付き、さらに江戸で生まれた奴（やっこ）歌舞伎の太刀（たち）踊りが加わったものと考えられている。

干ばつが続いたときや悪病が流行したときに行われていた。

### 体験が言葉に及ぼす作用

### 実 感

#### ＜リーフレットを作成する＞

児童は、鳳凰の舞の歴史や、郷土の人々が祭礼の日を楽しみにしながら受け継いできたことをリーフレットにまとめ、友達同士で気付いたことを交流した。

こうしたことから、自分たちも郷土の伝統や文化を受け継いでいく一人であるという意識を養い、地域行事への参加意欲を高めていった。



### 言葉が体験に及ぼす作用

### 共 有

#### ＜地域行事に参加する＞

児童は、指導を受けた保存会の人々と共に自作の灯ろうを立てるなど、行事の準備を協同で行った。

そのことにより、郷土の人々の鳳凰の舞に対する思いをより深く理解した。



## III 組織運営の課題解決に向けて〈「チーム」としての対応〉

### 〈学校支援コーディネーターを活用して育む地域行事への参加意識〉

学校支援コーディネーターを中心として、郷土の教育資源を活用した学習活動を充実させる。

「チーム」としての対応	主 な 内 容	
目 標 共 有	鳳凰の舞に関する学習活動を通して、自分たちの郷土に対する誇りと愛着を高める。	
役 割 分 担 【学校・コーディネーター・地域】	学校	年間指導計画に基づき、コーディネーターに保存会の人々の招へいを依頼 など
	コーディネーター	指導内容に応じた講師や活動場所の紹介、連絡調整 など
	地域	鳳凰の舞に関する指導及び学習支援 など
調整・統合 【学校支援連絡会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 年度当初に学校とコーディネーターで年間指導計画について確認する。</li> <li>◆ 毎月、学校支援連絡会を開催し、学校の担当者、コーディネーター及び指導を依頼された郷土の人が出席して、学習活動に関する打ち合わせを行うとともに、学習の成果と課題を共有する。</li> </ul>	

資料提供 日の出町教育委員会



## 児童・生徒対象の調査結果

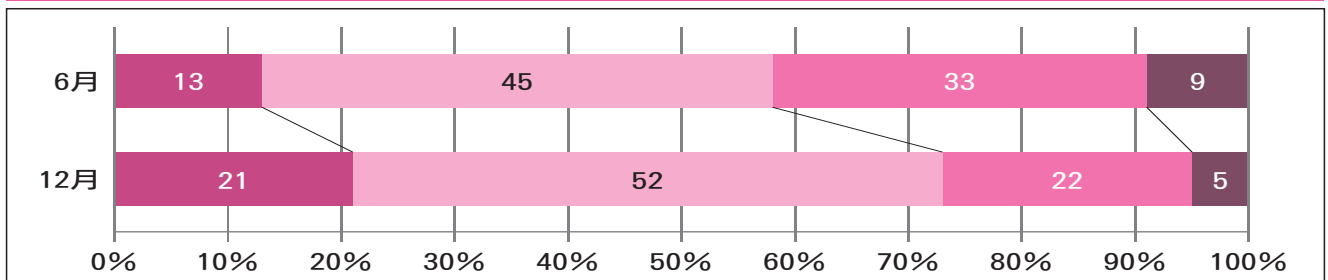
- ◆ 言葉と体験を重視した学校づくりに当たっては、言葉と体験の相互作用を促進させることが重要である。そのため、問題解決的な学習過程に児童・生徒主体の体験活動を導入して学習の質を高め、豊かな心を醸成していくことが重要である。
- ◆ 本研究では、問題解決的な学習過程で育むべき意欲や態度に着目し、実践研究の前後に質問紙法による調査を実施し、その変容を捉えた。
- ◆ 調査の項目及び結果は、次のとおりである。  
いずれの項目とも、「① あてはまる」、「② どちらかというにあてはまる」と回答した児童・生徒の割合は、15%前後増加した。  
なお、割合が増加した主な要因については、調査結果の後に記載したとおりである。

※ 調査実施日 第1回 平成26年6月中旬から下旬  
第2回 平成26年12月上旬

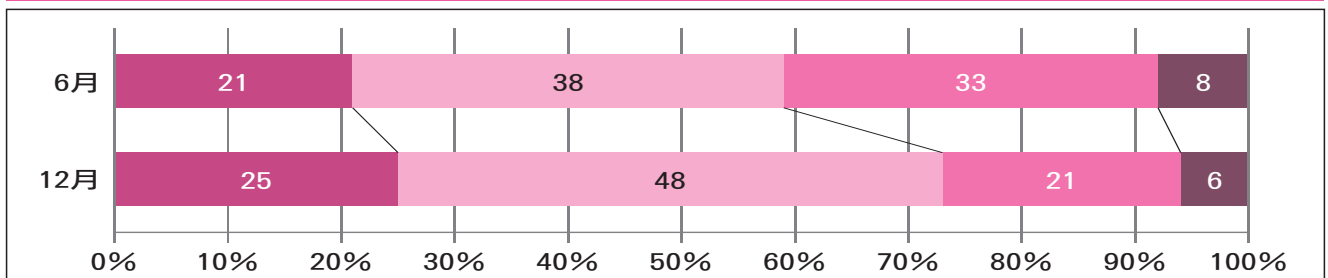
※ 調査の対象 平成26年度多摩地区教育推進委員の所属校の児童・生徒  
(小学校7校 339名、中学校3校 427名の計766人) 調査

① あてはまる  
② どちらかというにあてはまる  
③ どちらかというにあてはまらない  
④ あてはまらない

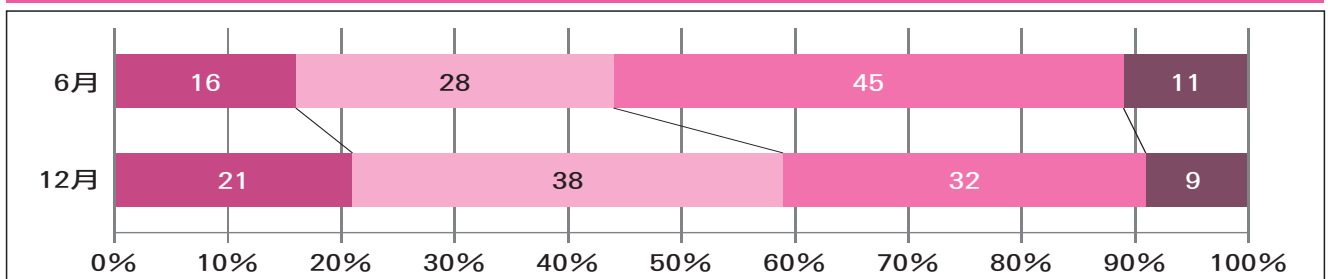
### 1 日常の学習活動において、自分の関心や疑問を大切にし、その解決に向けて積極的に取り組んでいる。



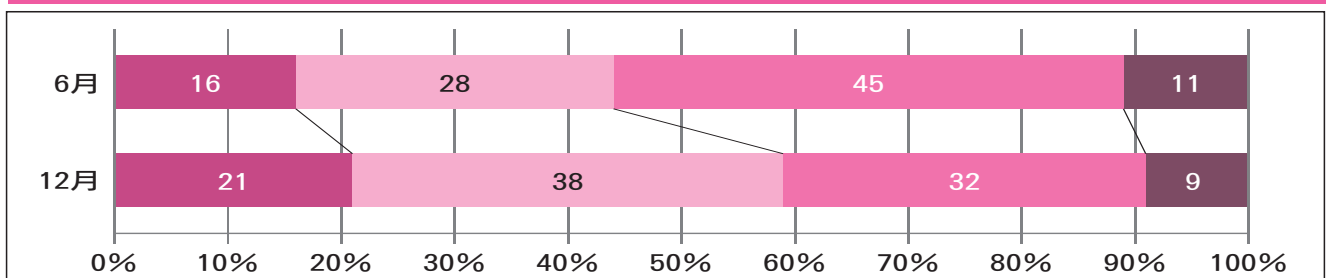
### 2 観察、実験、見学など体験したことについて、考えたことを、自分の言葉で書いたり、話したりしている。



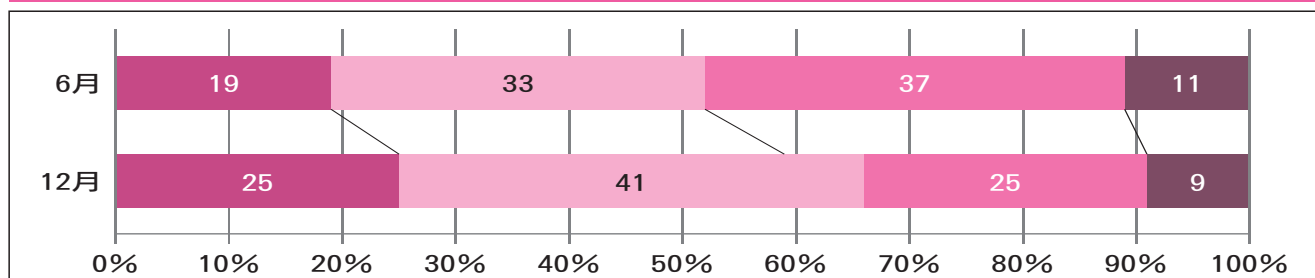
### 3 友達と話し合うことで、自分の考えをよりよくしようとしている。



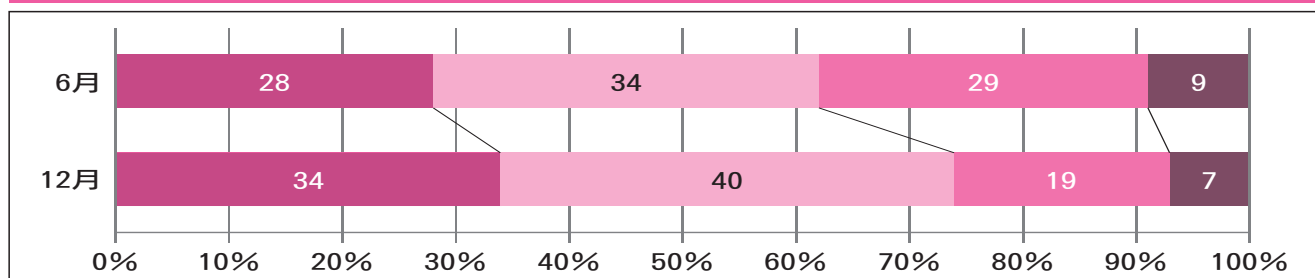
### 4 意見の異なる友達と、自ら進んで話し合っている。



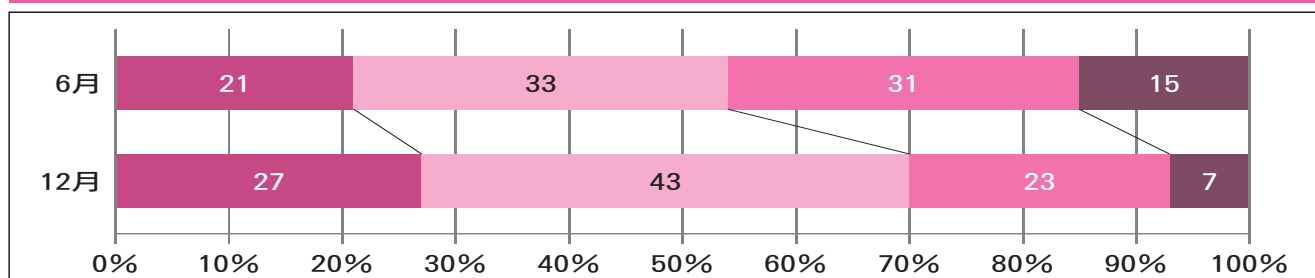
## 5 学習する中で、物事を一つの面だけでなく、「ほかに考え方はないか」と、複数の面から捉えようとしている。



## 6 自分で考えたことについて、もう一度、「本当にこれでよいか」と、確かめるようにしている。



## 7 地域の伝統や文化のよさに気付いている。



### 〈調査項目 1・2〉

- ◆ 郷土の伝統・文化を生かした劇を創作して発表する、特産物のよさを生かして郷土の人々と交流するなど、目的意識及び相手意識を明確にもたせながら問題解決的な学習を行わせたことで、自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や態度が育まれた。

### 〈調査項目 3・4〉

- ◆ 意見の異なる者同士の話し合いや郷土の多様な人々との交流を継続して行わせたことが、他者との関わりを通して課題を解決しようとする意欲と態度を育むことにつながった。

### 〈調査項目 5・6〉

- ◆ クリティカル・シンキングを取り入れた授業を進めることで、「他に考え方はないか」、「筋が通って、分かりやすいか」、「本当にこれでよいか。」と自ら問い続け、主体的に学ぶ児童・生徒が増えつつある。

### 〈調査項目 7〉

- ◆ 郷土の専門家から直接指導を受けて「本物」のよさを実感させたり、インタビュー活動を通して郷土の人々の伝統・文化に関する思いや願いを理解させたりしたことが、郷土に対する愛着や誇りを育むことにつながった。

# ま と め

本委員会では、実践研究の分析・考察を通して、多摩地区の伝統・文化を生かして「言葉と体験を重視した学校づくり」を行う際のポイントを明らかにした。

## I 児童・生徒主体の体験活動の充実

児童・生徒が、知的好奇心や探究心をもって主体的に取り組む体験活動を設定する。

体験による学びの機会があっても、教師主導の受け身の体験であれば、机上の学習と比べ、単に体を動かして刺激を受けることが多くなっただけで終わってしまいがちである。

児童・生徒が主体的に関わり追究するためには、学習過程に自ら意思決定を行う場面が必要である。そのための工夫として、例えば、発達段階に応じて、体験活動の企画段階から児童・生徒が関わるができるようにする、自らの興味・関心に応じて選択することができる体験活動を複数用意する、などといったことが考えられる。

児童・生徒の主体性を高めることは、より質の高い体験的な学習へとつながる。

## II 言葉の力を生かした学習活動の質の向上

言葉の力の中心は、考える力、感じる力、想像する力、表す力の四つである。言葉の担い手である児童・生徒が、考える、感じる、想像する、表すという四つの行為を、体験活動の事前、事後を含めた問題解決的な学習過程において繰り返すことで、言葉は力を発揮し、言葉と体験の相互作用が促進される。そのため、プレゼンテーションやディベート、対話や討論、観察やレポートの作成、論述等の知識・技能を活用する学習活動を効果的に設定する。

児童・生徒は、これから体験する活動について事前に調べたり、準備したりすることにより、学習意欲を高め、疑問や気付きへの備えを行う。事後の学習では、体験活動を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、文章にしたり、発表し合ったりする活動を重視することで、体験から得られた個々の認識を共有し、互いの学びの質を高めていく。

その際、児童・生徒のクリティカル・シンキングを促進させることが重要である。具体的には、児童・生徒が、多面的・多角的な視点を持ち、論理的思考とメタ認知を働かせながら、「他に考え方はないか。」、「筋が通って、分かりやすいか。」、「本当にこれでよいか。」と、自ら問う学習活動を工夫する。

## III 「理解」から「発信・交流」へ

伝統・文化を「理解」する学習にとどめることなく、児童・生徒が学習の対象である伝統・文化の価値について、自分なりに考え、判断し、表現する学習過程を重視する。

例えば、当該の伝統・文化はどのようにして生まれ、今日まで引継がれてきたのかについて調べたり考えたりする。また、児童・生徒が、その伝統・文化の価値や意義について考え、実生活にどう生かしていくかについて判断し、自らの言葉で表現し、学び合う。

こうした学習により、多摩地区の伝統・文化の価値を世界に向けて発信する資質や能力を高めるとともに、他国の人々と互いに文化交流ができる児童・生徒を育成する。そのため、例えば、留学生や海外の姉妹都市の児童・生徒、都内や他府県の外国人学校との交流・連携を工夫する。

## IV 「継承」から「創造・発展」へ

現在、伝統芸能などにおいて、長年継承されてきたこれまでの枠を超える創造的な表現が、新たな文化として発信されている。児童・生徒が伝統・文化を単に「継承」するものから、新たな価値を形成する源として捉えるとき、思考・判断・表現はより活性化する。

例えば、児童・生徒が作品などを主体的につくって表現することを、伝統・文化の「創造・発展」に係る学習活動として設定する。児童・生徒に伝統・文化を既に完成された動かないものとして静態的に認識させるのではなく、現代との関係の中で今も変容している動態として理解させ学習に取り組ませることで、より自主的・自発的な学びを引き出す。

こうした学習過程において、児童・生徒が今日的な視点から多摩地区の伝統・文化を捉え直し、その素晴らしさを誇りに思うと同時に、今後、国際社会を生き抜くために、何をどのように生かしていくかについて考え、実践する上で必要な力を培っていく。



# 委員名簿

委員長 真如 昌 美（東大和市教育委員会教育長）

副委員長 石 井 卓 之（東大和市教育委員会指導室長）

## 委 員

### 「カリキュラム」部会

部会長 並 木 浩 子（昭島市立清泉中学校校長）  
副部会長 椿 田 克 之（福生市立福生第三小学校副校長）  
委 員 高 野 恭 輔（八王子市立散田小学校主幹教諭）  
委 員 戸 田 和 子（日野市立日野第一小学校主幹教諭）  
委 員 佐々木 久美子（清瀬市立清瀬小学校主任教諭）  
委 員 佐 野 貴 宏（武蔵村山市立第五中学校主任教諭）  
委 員 宮 本 晶 子（あきる野市立一の谷小学校主任教諭）

### 「組織運営」部会

部会長 榊 尚 信（武蔵村山市立第十小学校長）  
副部会長 吉 岡 正 司（あきる野市立多西小学校副校長）  
委 員 酒 井 淳（多摩市立多摩永山中学校主幹教諭）  
委 員 山 中 洋 介（羽村市立羽村第二中学校主幹教諭）  
委 員 藤 井 繭 子（青梅市立成木小学校主任教諭）  
委 員 野 田 幸 宏（東大和市立第八小学校主任教諭）  
委 員 尾 上 勇 雄（奥多摩町立氷川小学校主任教諭）

## 事務局 東京都多摩教育事務所

所 長	安 部 典 子（4月～7月）	指 導 主 事	落 合 恵理子
所 長	黒 田 則 明（7月～）	指導主事(併任)	大 津 嘉 則
指 導 課 長	儘 田 文 雄	指導主事(併任)	吉 岡 琢 真
統括指導主事	西 川 さやか	指導主事(併任)	渡 邊 啓 介
指 導 主 事	間 嶋 健	教育専門員	村 井 恒
指 導 主 事	諏 訪 伊都子	教育専門員	飯 田 薫
指 導 主 事	濱 田 昌 也	教育専門員	菊 池 春 海

東京都多摩地区教育推進委員会  
第20次計画（通算第41年次）報告書

平成27年2月  
編集・発行  
〒190-8543 東京都立川市錦町6-3-1  
TEL 042-524-7137 FAX 042-528-0985  
印刷 システム印刷株式会社

登録番号26（4）

この報告書は、東京都多摩教育事務所のWebページに掲載しています。御活用ください。  
URL <http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>



**r100**

古紙配合率100%再生紙を使用しています  
石油系溶剤を含まないインキを使用しています